

第2期中期目標期間 業務実績報告書（暫定版）

（平成26年4月1日～平成31年3月31日）

平成30年6月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

（注）本報告書は、平成30年3月まで（一部直近データ）の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

目 次

I 当該中期目標期間における業務実績報告

1 対象期間	1
2 業務実績全般	1
(1) 機構全体	1
(2) 総合病院	20
(3) こころの医療センター	30
(4) こども病院	36
3 項目別実績	42
中期計画 第1－1 医療の提供	42
〃 第1－2 医療に関する技術者の研修	63
〃 第1－3 医療に関する調査及び研究	72
〃 第1－4 医療に関する地域への支援	76
〃 第1－5 災害等における医療救護	81
〃 第2－1 簡素で効率的な組織づくり	83
〃 第2－2 効率的な業務運営の実現	84
〃 第2－3 事務部門の生産性の向上	88
〃 第2－4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	89
(参考) 用語解説	90

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

当該中期目標期間における業務実績報告

1 対象期間

平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間

2 業務実績全般

(1) 機構全体

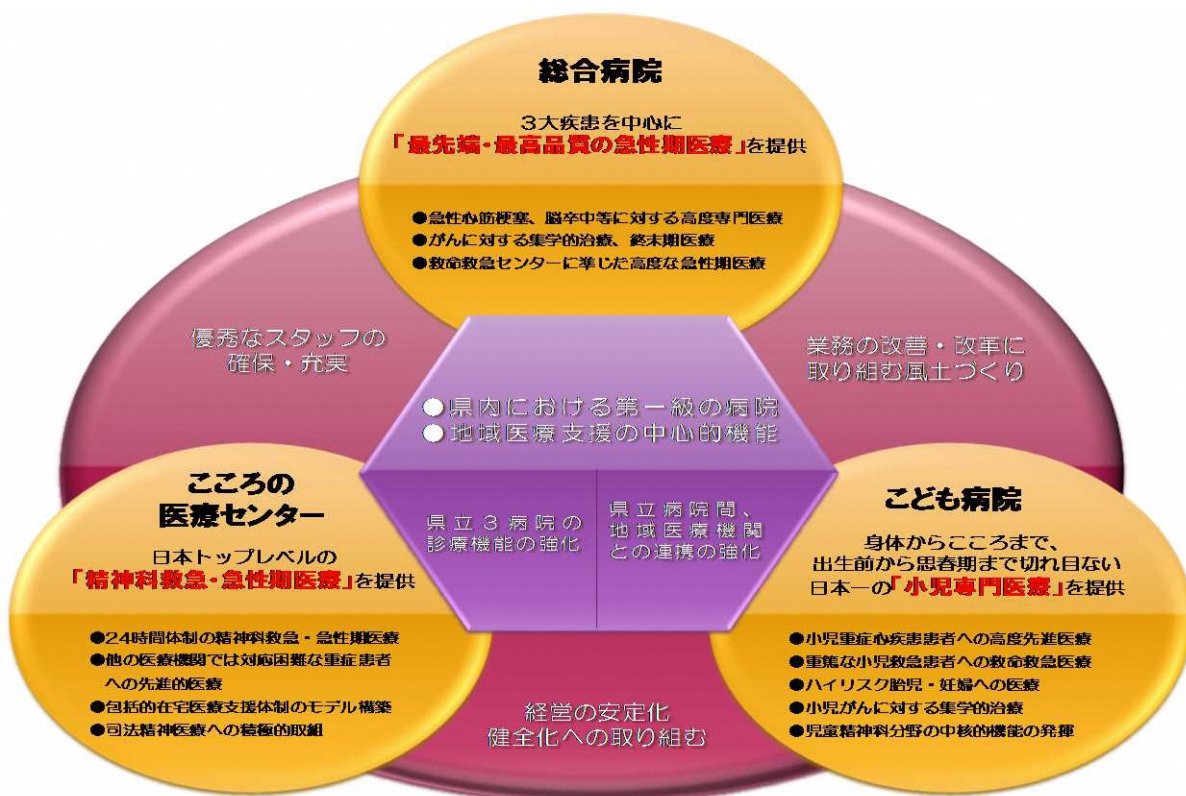
ア 総括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

第2期中期目標期間(以下「今期」という。)の経営状況(5年間累計、3病院計税込)は、入院では、こころの医療センターで延患者数が今期中期計画を上回るほか、医療内容の高度化、高額薬品の使用(がん治療薬:オプジーボ、C型肝炎治療薬:ハーボニー等)に加え、積極的な新規施設基準の取得及び維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、総合病院及びこころの医療センターで単価が中期計画を上回る見込みである。また、外来では、総合病院とこころの医療センターで延患者数が中期計画を上回る見込みであり、単価についても総合病院とこころの医療センターで中期計画を上回る見込みである。今期の収支は、経常損益累計が約4,823百万円(経常収支比率102.3%)、当期純損益累計が約3,692百万円となる見込みで、中期計画を上回るとともに、独法化後すべての年度で3病院とも経常収支比率100%を達成する見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、職員一丸となって「患者満足度日本一」の病院を目指す。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績
 (ア) 入院診療

- ・総合病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る見込み(▲11,292人)であるが、患者1人1日当り入院単価(以下、入院単価:入院収益÷年延入院患者数)は、診療内容の高度化や高額薬品の使用により中期計画を上回る見込み(+6,598円)である。
- ・こころの医療センターは、今期の延患者数は中期計画を上回る(+3,735人)見込みであり、入院単価も中期計画を上回る見込み(+273円)である。
- ・こども病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る(▲20,416人)見込みであり、入院単価も中期計画を下回る見込み(▲208円)である。

業務量及び業務実績【入院】 (税込)

(単位:人、%、円)

区分	H26		H27		H28		H29		H30		第2期計			
	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込		
入院延患者数	総合	215,735 (215,735)	212,105	226,977 (223,480)	211,068	228,145 (234,836)	223,709	228,145 (236,301)	232,585	228,145 (236,388)	236,388	1,127,147 (1,146,740)	1,115,855	
	こころ	54,372 (54,372)	54,735	54,372 (56,194)	53,620	54,372 (56,275)	56,906	54,372 (55,956)	55,144	54,372 (55,190)	55,190	271,860 (277,987)	275,595	
	こども	81,038 (81,038)	77,777	81,549 (82,798)	78,059	82,133 (84,030)	77,860	83,009 (82,000)	75,586	83,009 (81,040)	81,040	410,738 (410,906)	390,322	
	計	351,145 (351,145)	344,617	362,898 (362,472)	342,747	364,650 (375,141)	358,475	365,526 (374,257)	363,315	365,526 (372,618)	372,618	1,809,745 (1,835,633)	1,781,772	
病床稼働率	総合	一般	91.8 (91.8)	90.4	92.0 (95.2)	90.3	92.8 (94.0)	90.4	92.8 (95.0)	93.5	92.8 (95.2)	95.2	92.5 (94.3)	92.0
		結核	43.8 (43.8)	41.8	43.7 (40.4)	36.0	43.8 (41.6)	34.8	43.8 (37.0)	36.1	43.8 (34.8)	34.8	43.8 (39.6)	36.7
	こころ	82.8 (82.8)	83.3	82.5 (85.3)	83.9	82.8 (89.6)	90.6	82.8 (89.1)	87.8	82.8 (87.9)	87.9	82.8 (86.9)	86.7	
	こども	82.5 (82.5)	79.8	82.8 (83.2)	78.7	83.7 (84.6)	78.7	84.5 (82.9)	76.4	84.5 (81.9)	81.9	83.7 (83.0)	79.1	
	計	86.0 (86.0)	84.5	86.3 (88.3)	84.1	86.9 (88.9)	85.3	87.2 (88.8)	86.2	87.2 (88.8)	88.4	86.8 (88.1)	85.7	
1人1日当り入院単価	総合	65,547 (65,547)	69,681	66,251 (73,032)	73,848	66,969 (75,922)	74,542	71,788 (78,499)	76,575	74,035 (82,310)	82,310	68,958 (75,255)	75,556	
	こころ	24,694 (24,694)	25,009	24,772 (25,412)	24,101	24,772 (25,175)	25,507	24,772 (25,055)	25,137	24,772 (25,349)	25,349	24,756 (25,139)	25,029	
	こども	91,162 (91,162)	88,915	91,385 (92,949)	88,371	91,636 (89,060)	91,067	91,648 (92,420)	92,256	91,648 (95,696)	95,696	91,498 (92,238)	91,290	
	計	65,132 (65,132)	66,927	65,684 (70,199)	69,373	66,233 (71,252)	70,347	69,305 (73,559)	72,030	70,707 (76,785)	76,785	67,433 (71,467)	71,188	

※患者1人1日当り単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

(イ) 外来診療

- ・総合病院は、今期の延患者数は中期計画を大幅に上回る見込み(+97,518人)で、患者1人1日当り外来単価(以下、外来単価:外来収益÷年延外来患者数)も中期計画を上回る見込み(+1,967円)である。
- ・こころの医療センターは、今期の延患者数は中期計画を上回る見込み(+1,174人)で、外来単価も中期計画を若干上回る見込み(+83円)である。
- ・こども病院は、今期の延患者数は中期計画を下回る見込み(▲48,544人)で、外来単価も今期の中期計画を下回る見込み(▲47円)である。

業務量及び業務実績【外来】 (税込)

(単位:人、円)

区分	H26		H27		H28		H29		H30		第2期計		
	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	実績	中期計画 (年度計画)	見込	中期計画 (年度計画)	見込	
外来延患者数	総合	407,467 (407,467)	411,582	407,467 (407,241)	426,343	407,467 (414,182)	432,762	407,467 (440,610)	430,118	407,467 (434,048)	434,048	2,037,335 (2,103,548)	2,134,853
	こころ	40,233 (40,233)	40,336	40,233 (40,676)	39,691	40,233 (38,714)	40,756	40,233 (38,942)	41,140	40,233 (40,416)	40,416	201,165 (198,981)	202,339
	こども	105,234 (105,234)	101,770	111,734 (102,188)	103,282	118,234 (113,073)	104,666	118,234 (107,000)	105,763	118,234 (107,645)	107,645	571,670 (535,140)	523,126
	計	552,934 (552,934)	553,688	559,434 (550,105)	569,316	565,934 (565,969)	578,184	565,934 (586,552)	577,021	565,934 (582,109)	582,109	2,810,170 (2,837,669)	2,860,318
1人1日当り外来単価	総合	16,827 (16,827)	17,378	16,827 (17,135)	18,547	16,827 (18,368)	19,058	17,465 (19,800)	19,875	17,465 (20,299)	20,299	17,082 (18,529)	19,049
	こころ	5,968 (5,968)	6,001	5,968 (5,997)	6,010	5,968 (6,061)	5,990	5,968 (5,872)	6,149	5,968 (6,104)	6,104	5,968 (6,001)	6,051
	こども	14,258 (14,258)	15,633	14,253 (15,608)	14,160	14,248 (13,780)	14,184	14,248 (13,470)	13,627	14,248 (13,482)	13,482	14,251 (14,101)	14,204
	計	15,548 (15,548)	16,228	15,532 (16,028)	16,877	15,516 (16,609)	17,255	15,975 (17,721)	17,751	15,975 (18,053)	18,053	15,710 (16,815)	17,244

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

<参考資料>

(単位:日、円)

区分	H26	H27	H28	H29	H30見込	備考
平均在院日数	総合	13.1	11.4	11.6	11.8	11.7
	こころ	108.1	112.3	101.0	108.5	105.7
	こども	12.1	11.5	10.9	10.4	10.6
紹介率	総合	85.0	89.1	89.0	90.6	89.4
	こころ	57.9	56.2	55.0	56.3	55.6
	こども	91.8	93.0	94.7	94.1	94.1
逆紹介率	総合	127.5	134.3	161.5	175.5	161.8
	こころ	27.4	30.8	29.6	28.6	30.9
	こども	53.2	52.0	52.5	46.5	46.5

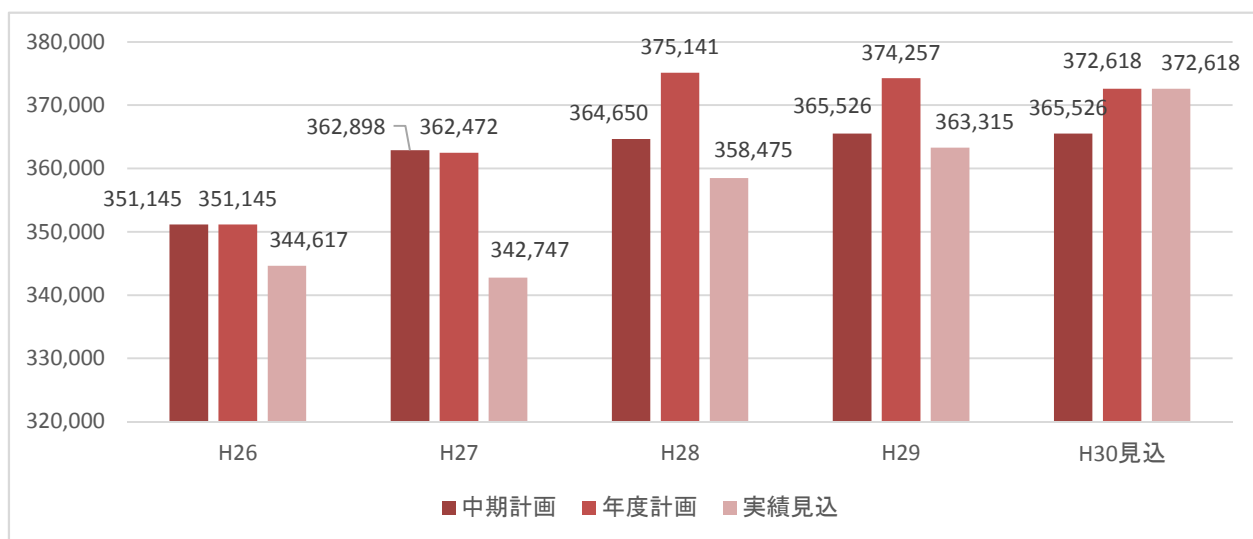
※ 平均在院日数は、総合及びこどもは一般病床分(こどもはNICU、PICU、MFICU除く)で算定。こころは医療観察法病床を除いて算定。

※ H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

患者数の推移（26年度実績～30年度見込）

入院延患者数（3病院計）

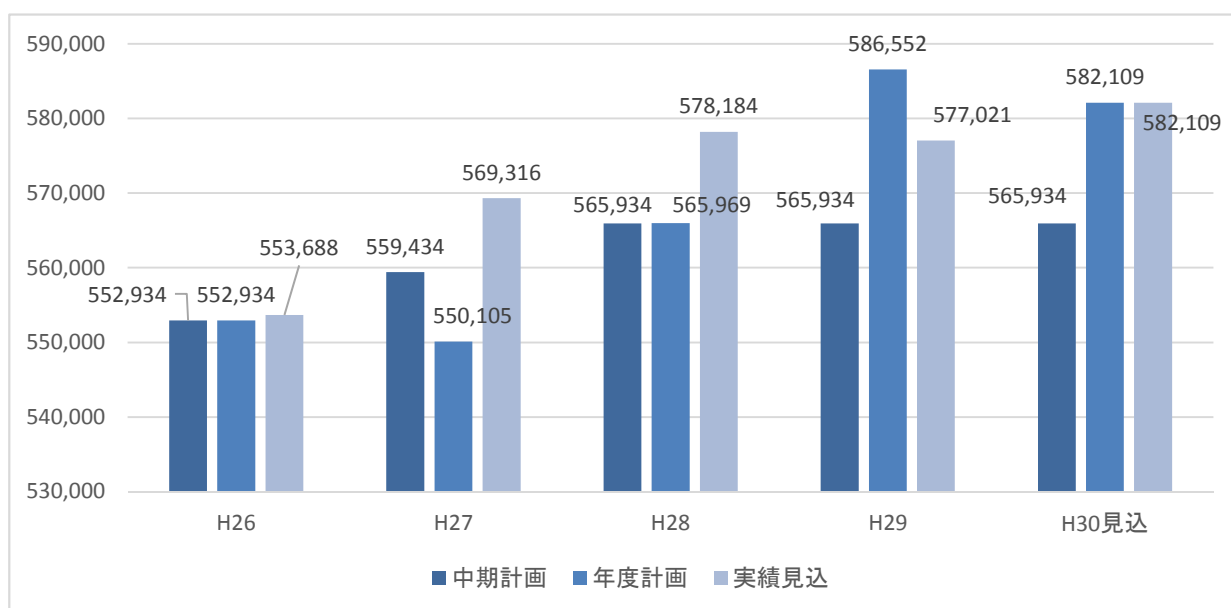
（単位：人）



- ・ 今期の入院延患者数は、26～29年度は中期計画を下回って推移していたが、30年度は中期計画を上回る見込みである。

外来延患者数（3病院計）

（単位：人）



- ・ 今期の外来延患者数は、中期計画を上回って推移する見込みである。

（ウ） 収支実績（税込）

- ・ 経常損益累計は、4,822,770千円の経常利益となり、中期計画よりも1,537,114千円増加する見込みで、5年間累計の経常収支比率は、100%以上(102.3%)を達成する見込みである。
- ・ 当期純損益累計は、3,692,052千円の当期純利益となり、中期計画よりも1,194,262千円増加する見込みである。
- ・ 収益累計は、中期計画よりも10,069,648千円増収となる見込みである。
- ・ 費用累計は、患者数の増加等による業務量の増加により、中期計画よりも8,875,388千円の増加となる見込みである。

①収益的収支（機構全体・税込）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	32,650,810	34,039,106	35,727,133	37,017,369	39,769,847	179,204,265
		運営費負担金収益	6,772,058	6,786,971	6,807,586	6,817,496	6,825,089	34,009,200
		その他営業収益	408,053	416,182	390,453	390,434	369,689	1,974,811
		小計	39,830,921	41,242,259	42,925,172	44,225,299	46,964,625	215,188,276
	営業外収益	運営費負担金収益	227,942	213,029	192,414	182,504	174,911	990,800
		その他営業外収益	254,525	289,983	292,416	287,421	283,860	1,408,205
		小計	482,467	503,012	484,830	469,925	458,771	2,399,005
	臨時利益	臨時利益	98,264	0	7,505	276,252	0	382,021
	収益計		40,411,652	41,745,271	43,417,507	44,971,476	47,423,396	217,969,302
	(中期計画)		(39,817,618)	(40,876,009)	(41,286,086)	(42,710,424)	(43,209,517)	(207,899,654)
(増減額)		(594,034)	(869,262)	(2,131,421)	(2,261,052)	(4,213,879)	(10,069,648)	
費用	営業費用	医業費用	38,223,204	39,605,537	41,368,872	42,861,993	45,847,605	207,907,211
		一般管理費	318,262	359,743	348,040	341,609	391,909	1,759,563
		小計	38,541,466	39,965,280	41,716,912	43,203,602	46,239,514	209,666,774
	営業外費用	財務費用	389,783	365,197	331,723	317,824	313,060	1,717,587
		その他営業外費用	200,524	232,684	259,116	330,319	357,507	1,380,150
		小計	590,307	597,881	590,839	648,143	670,567	3,097,737
	臨時損失	臨時損失	774,149	111,368	30,174	185,716	411,332	1,512,739
	費用計		39,905,922	40,674,529	42,337,925	44,037,461	47,321,413	214,277,250
	(中期計画)		(38,619,494)	(39,777,608)	(40,990,593)	(42,719,230)	(43,294,937)	(205,401,862)
	(増減額)		(1,286,428)	(896,921)	(1,347,332)	(1,318,231)	(4,026,476)	(8,875,388)
経常損益		1,181,615	1,182,110	1,102,251	843,479	513,315	4,822,770	
(中期計画)		(1,355,105)	(1,362,357)	(432,626)	(109,080)	(26,488)	(3,285,656)	
(増減額)		(▲173,490)	(▲180,247)	(669,625)	(734,399)	(486,827)	(1,537,114)	
当期純損益		505,730	1,070,742	1,079,582	934,015	101,983	3,692,052	
(中期計画)		(1,198,124)	(1,098,400)	(295,493)	(▲8,807)	(▲85,420)	(2,497,790)	
(増減額)		(▲692,394)	(▲27,658)	(784,089)	(942,822)	(187,403)	(1,194,262)	
経常収支比率		103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	101.1%	102.3%	
(中期計画)		(103.5%)	(103.4%)	(101.1%)	(100.3%)	(100.1%)	(101.6%)	
年度計画	経常収支		1,331,684	1,163,415	720,885	524,062	513,316	4,253,362
	経常収支比率		103.5%	102.7%	101.6%	101.1%	101.1%	101.9%

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

②資本的収支（機構全体・税込）

(単位:千円)

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本収入	長期借入金	2,937,000	3,807,000	6,563,000	9,395,000	5,517,000	28,219,000
		長期貸付金回収額	10,100	10,450	19,000	30,700	0	70,250
		補助金・寄附金等	232	10,180	53,170	100,604	1,055	165,241
		計	2,947,332	3,827,630	6,635,170	9,526,304	5,518,055	28,454,491
支出	資本支出	建設改良費	3,194,385	3,868,889	6,673,492	9,533,935	7,681,691	30,952,392
		償還金	2,479,996	3,247,375	2,683,874	3,094,337	3,128,902	14,634,484
		長期貸付金	91,610	188,650	189,550	173,900	256,150	899,860
		計	5,765,991	7,304,914	9,546,916	12,802,172	11,066,743	46,486,736
総収支		▲2,818,659	▲3,477,284	▲2,911,746	▲3,275,868	▲5,548,688	▲18,032,245	
(中期計画)		(▲2,765,758)	(▲3,428,959)	(▲2,917,140)	(▲3,389,272)	(▲3,481,376)	(▲15,982,505)	
(増減額)		(▲52,901)	(▲48,325)	(5,394)	(113,404)	(▲2,067,312)	(▲2,049,740)	

(工)病院別収支実績

【総合病院】

① 収益的収支（税込）

(単位:千円)

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	22,461,660	24,033,292	25,352,411	26,868,903	28,821,068	127,537,334
		運営費負担金収益	2,394,068	2,399,236	2,406,286	2,400,145	2,396,761	11,996,496
		その他営業収益	228,253	259,349	237,880	225,168	223,949	1,174,599
		小計	25,083,981	26,691,877	27,996,577	29,494,216	31,441,778	140,708,429
	営業外収益	運営費負担金収益	93,461	88,293	81,243	87,384	90,768	441,149
		その他営業外収益	197,752	229,517	241,571	236,684	229,431	1,134,955
		小計	291,213	317,810	322,814	324,068	320,199	1,576,104
	臨時利益	臨時利益	98,186	0	7,505	175,378	0	281,069
		収益計	25,473,380	27,009,687	28,326,896	29,993,662	31,761,977	142,565,602
		(中期計画)	(24,529,585)	(25,450,669)	(25,698,466)	(27,043,165)	(27,551,856)	(130,273,741)
	(増減額)	(943,795)	(1,559,018)	(2,628,430)	(2,950,497)	(4,210,121)	(12,291,861)	
費用	営業費用	医業費用	24,391,568	25,876,738	27,641,251	29,036,239	31,040,830	137,986,626
		一般管理費	210,053	226,638	229,706	228,877	262,248	1,157,522
		小計	24,601,621	26,103,376	27,870,957	29,265,116	31,303,078	139,144,148
	営業外費用	財務費用	163,353	154,294	142,740	156,023	166,724	783,134
		その他営業外費用	136,205	161,324	179,723	248,402	283,826	1,009,480
		小計	299,558	315,618	322,463	404,425	450,550	1,792,614
	臨時損失	臨時損失	674,067	67,168	12,324	175,901	282,843	1,212,303
		費用計	25,575,246	26,486,162	28,205,744	29,845,442	32,036,471	142,149,065
		(中期計画)	(23,979,194)	(24,861,599)	(25,742,308)	(27,313,141)	(27,809,195)	(129,705,437)
		(増減額)	(1,596,052)	(1,624,563)	(2,463,436)	(2,532,301)	(4,227,276)	(12,443,628)
	経常損益	474,015	590,693	125,971	148,743	8,350	1,347,772	
	(中期計画)	(623,023)	(700,793)	(28,800)	(▲197,325)	(▲184,686)	(970,605)	
	(増減額)	(▲149,008)	(▲110,100)	(97,171)	(346,068)	(193,036)	(377,167)	
	当期純損益	▲101,866	523,525	121,152	148,220	▲274,494	416,537	
	(中期計画)	(550,391)	(589,069)	(▲43,842)	(▲269,977)	(▲257,339)	(568,302)	
	(増減額)	(▲652,257)	(▲65,544)	(164,994)	(418,197)	(▲17,155)	(▲151,765)	
	経常収支比率	101.9%	102.2%	100.4%	100.5%	100.0%	101.0%	
	(中期計画)	(102.6%)	(102.8%)	(100.1%)	(99.3%)	(99.3%)	(100.8%)	
年度計画	経常損益	606,746	380,575	186,666	31,796	8,350	1,214,133	
	経常収支比率	102.5%	101.4%	100.6%	100.1%	100.0%	100.8%	

②資本的収支（税込）

(単位:千円)

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本金収入	長期借入金	1,920,000	2,421,000	5,612,000	8,942,000	4,126,000	23,021,000
		長期貸付金回収額	8,080	6,270	15,200	22,718	0	52,268
		補助金・寄附金等	232	8,298	37,305	100,221	0	146,056
		計	1,928,312	2,435,568	5,664,505	9,064,939	4,126,000	23,219,324
支出	資本支出	建設改良費	2,040,260	2,450,235	5,701,670	9,069,346	6,250,194	25,511,705
		償還金	1,198,199	1,696,873	1,420,127	1,675,937	1,773,925	7,765,061
		長期貸付金	73,288	113,030	151,830	128,738	207,960	674,846
		計	3,311,747	4,260,138	7,273,627	10,874,021	8,232,079	33,951,612
	総収支	▲1,383,435	▲1,824,570	▲1,609,122	▲1,809,082	▲4,106,079	▲10,732,288	
	(中期計画)	(▲1,400,566)	(▲1,807,205)	(▲1,573,402)	(▲1,846,691)	(▲2,024,962)	(▲8,652,826)	
	(増減額)	(17,131)	(▲17,365)	(▲35,720)	(37,609)	(▲2,081,117)	(▲2,079,462)	

【こころの医療センター】

① 収益的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収益	医業収益	1,618,743	1,542,294	1,706,529	1,659,053	1,657,537	8,184,156
		運営費負担金収益	1,081,807	1,089,068	1,096,546	1,104,357	1,111,719	5,483,497
		その他営業収益	46,780	47,040	42,695	51,999	51,715	240,229
		小計	2,747,330	2,678,402	2,845,770	2,815,409	2,820,971	13,907,882
	営業外収益	運営費負担金収益	50,597	43,336	35,858	28,047	20,685	178,523
		その他営業外収益	6,082	8,610	7,972	7,967	8,122	38,753
		小計	56,679	51,946	43,830	36,014	28,807	217,276
	臨時利益	臨時利益	72	0	0	20,377	0	20,449
	収益計		2,804,081	2,730,348	2,889,600	2,871,800	2,849,778	14,145,607
	(中期計画)		(2,782,492)	(2,786,488)	(2,786,377)	(2,785,985)	(2,785,969)	(13,927,311)
(増減額)		(21,589)	(▲56,140)	(103,223)	(85,815)	(63,809)	(218,296)	
費用	営業費用	医業費用	2,360,805	2,359,300	2,444,987	2,443,926	2,589,177	12,198,195
		一般管理費	19,095	25,182	20,882	20,497	23,979	109,635
		小計	2,379,900	2,384,482	2,465,869	2,464,423	2,613,156	12,307,830
	営業外費用	財務費用	76,587	65,630	54,422	42,625	32,005	271,269
		その他営業外費用	6,012	9,148	9,793	11,105	11,840	47,898
		小計	82,599	74,778	64,215	53,730	43,845	319,167
	臨時損失	臨時損失	4,652	10,307	9,677	257	25,739	50,632
	費用計		2,467,151	2,469,567	2,539,761	2,518,410	2,682,740	12,677,629
	(中期計画)		(2,623,203)	(2,680,389)	(2,788,167)	(2,822,786)	(2,858,128)	(13,772,673)
	(増減額)		(▲156,052)	(▲210,822)	(▲248,406)	(▲304,376)	(▲175,388)	(▲1,095,044)
経常損益		341,510	271,088	359,516	333,270	192,777	1,498,161	
(中期計画)		(193,919)	(140,729)	(32,840)	(▲2,171)	(▲37,529)	(327,788)	
(増減額)		(147,591)	(130,359)	(326,676)	(335,441)	(230,306)	(1,170,373)	
当期純損益		336,930	260,781	349,839	353,390	167,038	1,467,978	
(中期計画)		(159,289)	(106,099)	(▲1,790)	(▲36,801)	(▲72,159)	(154,638)	
(増減額)		(177,641)	(154,682)	(351,629)	(390,191)	(239,197)	(1,313,340)	
経常収支比率		113.9%	111.0%	114.2%	113.2%	107.3%	111.9%	
(中期計画)		(107.5%)	(105.3%)	(101.2%)	(99.9%)	(98.7%)	(102.4%)	

年度計画	経常損益	174,568	286,295	157,930	131,365	192,777	942,935
	経常収支比率	106.8%	111.0%	105.9%	104.9%	107.3%	107.1%

② 資本的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本金収入	長期借入金	187,000	665,000	190,000	7,000	295,000	1,344,000
		長期貸付金回収額	505	1,045	950	2,149	0	4,649
		補助金・寄附金等	0	0	7,365	0	0	7,365
		計	187,505	666,045	198,315	9,149	295,000	1,356,014
支出	資本支出	建設改良費	190,121	668,617	199,010	9,107	314,431	1,381,286
		償還金	435,106	448,574	462,266	468,212	458,842	2,273,000
		長期貸付金	4,580	18,705	9,530	12,159	12,410	57,384
		計	629,807	1,135,896	670,806	489,478	785,683	3,711,670
総収支		▲442,302	▲469,851	▲472,491	▲480,329	▲490,683	▲2,355,656	
(中期計画)		(▲464,440)	(▲478,203)	(▲498,983)	(▲531,548)	(▲524,147)	(▲2,497,321)	
(増減額)		(22,138)	(8,352)	(26,492)	(51,219)	(33,464)	(141,665)	

【こども病院】

① 収益的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収益	営業収 益	医業収益	8,570,407	8,463,520	8,668,193	8,489,413	9,291,242	43,482,775
		運営費負担金収益	3,296,183	3,298,667	3,304,754	3,312,994	3,316,609	16,529,207
		その他営業収益	133,020	109,793	109,878	113,267	94,025	559,983
		小計	11,999,610	11,871,980	12,082,825	11,915,674	12,701,876	60,571,965
	営業外 収 益	運営費負担金収益	83,884	81,400	75,313	67,073	63,458	371,128
		その他営業外収益	50,691	51,856	42,873	42,770	46,307	234,497
		小計	134,575	133,256	118,186	109,843	109,765	605,625
	臨時利益	臨時利益	6	0	0	80,497	0	80,503
	収益計		12,134,191	12,005,236	12,201,011	12,106,014	12,811,641	61,258,093
	（中期計画）		(12,505,541)	(12,638,852)	(12,801,243)	(12,881,274)	(12,871,692)	(63,698,602)
（増減額）		(▲ 371,350)	(▲ 633,616)	(▲ 600,232)	(▲ 775,260)	(▲ 60,051)	(▲ 2,440,509)	
費用	営業費 用	医業費用	11,470,831	11,369,499	11,282,634	11,381,828	12,217,598	57,722,390
		一般管理費	89,114	107,923	97,452	92,235	105,682	492,406
		小計	11,559,945	11,477,422	11,380,086	11,474,063	12,323,280	58,214,796
	営業外 費 用	財務費用	149,843	145,273	134,561	119,176	114,331	663,184
		その他営業外費用	58,307	62,212	69,600	70,812	61,841	322,772
		小計	208,150	207,485	204,161	189,988	176,172	985,956
	臨時損失	臨時損失	95,430	33,893	8,173	9,558	102,750	249,804
	費用計		11,863,525	11,718,800	11,592,420	11,673,609	12,602,202	59,450,556
	（中期計画）		(12,017,097)	(12,235,620)	(12,460,118)	(12,583,303)	(12,627,614)	(61,923,752)
	（増減額）		(▲ 153,572)	(▲ 516,820)	(▲ 867,698)	(▲ 909,694)	(▲ 25,412)	(▲ 2,473,196)
経常損益		366,090	320,329	616,764	361,466	312,189	1,976,838	
（中期計画）		(538,163)	(520,835)	(370,986)	(308,576)	(248,703)	(1,987,263)	
（増減額）		(▲ 172,073)	(▲ 200,506)	(245,778)	(52,890)	(63,486)	(▲ 10,425)	
当期純損益		270,666	286,436	608,591	432,405	209,439	1,807,537	
（中期計画）		(488,444)	(403,232)	(341,125)	(297,971)	(244,078)	(1,774,850)	
（増減額）		(▲ 217,778)	(▲ 116,796)	(267,466)	(134,434)	(▲ 34,639)	(32,687)	
経常収支比率		103.1%	102.7%	105.3%	103.1%	102.5%	103.3%	
（中期計画）		(104.5%)	(104.3%)	(103.0%)	(102.5%)	(102.0%)	(103.2%)	
年度計画	経常損益		550,370	496,545	376,289	360,901	312,189	2,096,294
	経常収支比率		104.6%	103.9%	103.0%	102.9%	102.5%	103.4%

②資本的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
収入	資本 収入	長期借入金	830,000	721,000	761,000	446,000	1,096,000	3,854,000
		長期貸付金回収額	1,515	3,135	2,850	5,833	0	13,333
		補助金・寄附金等	0	1,882	8,500	383	1,055	11,820
		計	831,515	726,017	772,350	452,216	1,097,055	3,879,153
支出	資本 支出	建設改良費	964,004	750,037	772,812	455,482	1,117,066	4,059,401
		償還金	846,691	1,101,928	801,481	950,188	896,135	4,596,423
		長期貸付金	13,742	56,915	28,190	33,003	35,780	167,630
		計	1,824,437	1,908,880	1,602,483	1,438,673	2,048,981	8,823,454
総収支		▲ 992,922	▲ 1,182,863	▲ 830,133	▲ 986,457	▲ 951,926	▲ 4,944,301	
（中期計画）		(▲ 900,752)	(▲ 1,143,551)	(▲ 844,755)	(▲ 1,011,033)	(▲ 932,267)	(▲ 4,832,358)	
（増減額）		(▲ 92,170)	(▲ 39,312)	(14,622)	(24,576)	(▲ 19,659)	(▲ 111,943)	

- ・ 総合病院の経常損益累計は、1,347,722千円の経常利益となり、中期計画よりも377,167千円増加する見込みである。また、5年間すべて経常収支比率100%を達成する見込みで、累計の経常収支比率も101.0%の見込みである。これは、医療内容の高度化、手術件数の増加、集中治療系病棟の稼働率向上、積極的な施設基準の新規取得およびランクアップを行い、単価UPを図ったこと等によるものである。
- ・ こころの医療センターの経常損益累計は、1,498,161千円の経常利益となり、中期計画よりも1,170,373千円増加する見込みである。また、5年間すべてで経常収支比率100%を達成する見込みで、累計の経常収支比率も111.9%の見込みである。これは、医療観察法病床(12床)の整備により入院単価のUPを図ったこと等によるものである。
- ・ こども病院の経常損益累計は、1,976,838千円の経常利益となり、中期計画よりも10,425千円減少する見込みである。また、5年間すべてで経常収支比率100%を達成する見込みで、累計の経常収支比率も103.3%の見込みである。これは、小児医療に重点配分された診療報酬改定を踏まえて積極的な施設基準の取得(NICUの増床など)を行い、単価UPを図ったこと等によるものである。
- ・ 3病院の資本的支出については、総合病院では先端医学棟及び立体駐車場の建設、こころの医療センターでは空調設備改修及び電子カルテシステムの導入、また、こども病院では外来棟増築工事及び院内保育所の整備等を実施している。

(オ) 経常収支比率の年度別推移

- ・ 当機構では、中期目標において「業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。」を数値目標として設定しており、経営改善に取り組んでいる。
- ・ 今期の経常損益は、5年間累計で4,822,770千円となり中期計画累計の3,285,656千円を1,537,114千円上回る見込みで、経常収支比率は、102.3%となり中期計画累計の101.6%を0.7ポイント上回る見込みで、中期目標を十分達成できる見込みである。

経常損益の状況（税込）

（単位：千円）

区 分		H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
経常 損益	中期計画	1,355,105	1,362,357	432,626	109,080	26,488	3,285,656
	年度計画	1,331,684	1,163,415	720,885	524,062	513,316	4,253,362
	実績	1,181,615	1,182,110	1,102,251	843,479	513,315	4,822,770
比率	中期計画	103.5%	103.4%	101.1%	100.3%	100.1%	101.6%
	年度計画	103.5%	102.7%	101.6%	101.1%	101.1%	101.9%
	実績	103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	101.1%	102.3%

※ H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

(カ) 経費削減及び効率化目標との関係

- ・ 当機構では、材料費の削減手法として①品目の絞込み、②購入単価の見直し、③材料の期限切れの発生防止等に取り組んでいる。

材料費対医業収益比率（税込）

（単位：千円）

区分	項目	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
	中期計画	医業収益	31,988,012	33,028,396	33,434,871	34,869,229	35,379,776
材料費		9,057,967	9,188,885	9,305,114	9,600,300	9,711,177	46,863,443
比率		28.3%	27.8%	27.8%	27.5%	27.4%	27.8%
区分	項目	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計
	実績	医業収益	32,650,810	34,039,106	35,727,133	37,017,369	39,769,847
材料費		10,196,974	10,723,188	11,405,546	11,783,686	12,206,539	56,315,933
比率		31.2%	31.5%	31.9%	31.8%	30.7%	31.4%

（キ）決算指標 < 3病院計 >（税込）

（単位：千円）

区分	項目	H26	H27	H28	H29	H30見込	第2期計	
収支構造	経常収支比率 (%)	103.0%	102.9%	102.6%	101.9%	101.1%	102.3%	
	医業収支比率 (%)	85.4%	85.9%	86.4%	86.4%	86.7%	86.2%	
収入構造	病床稼働率 (%)	84.5%	84.1%	85.3%	86.2%	88.4%	85.7%	
	1人1日当たり単価 (円)	入院患者	66,927	69,373	70,347	72,030	76,785	71,188
		外来患者	16,228	16,877	17,255	17,751	18,053	17,244
費用構造	職員給与比率 (%)	57.7%	58.7%	58.7%	57.8%	56.0%	57.7%	
	(職員給与費 (医業費用))	(18,842,150)	(19,984,656)	(20,985,549)	(21,386,163)	(22,281,515)	(103,480,033)	
	材料費比率 (%)	31.2%	31.5%	31.9%	31.8%	30.7%	31.4%	

※H30年度見込は、H30年3月末現在の見込数字。

- ・ 収支構造の各指標は、経常収支比率が各年度で中期計画の数値目標である100%を上回る見込みで、医業収支比率は、第2期中期計画初年度の26年度実績に対して改善傾向を維持している。
- ・ 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価が、各年度とも前年度を上回って推移しており、30年度見込は26年度実績に対して9,858円の大幅な単価UPの見込みである。また、外来患者1人1日当たり単価も各年度とも前年度を上回って推移しており、30年度見込は26年度実績に対して1,825円の単価UPとなる見込みである。
- ・ 費用構造では、職員給与比率、材料費比率ともに26年度実績から28年度にかけて上昇傾向にあったが、29年度に若干改善し、30年度にはさらに改善傾向に向かう見込みである。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

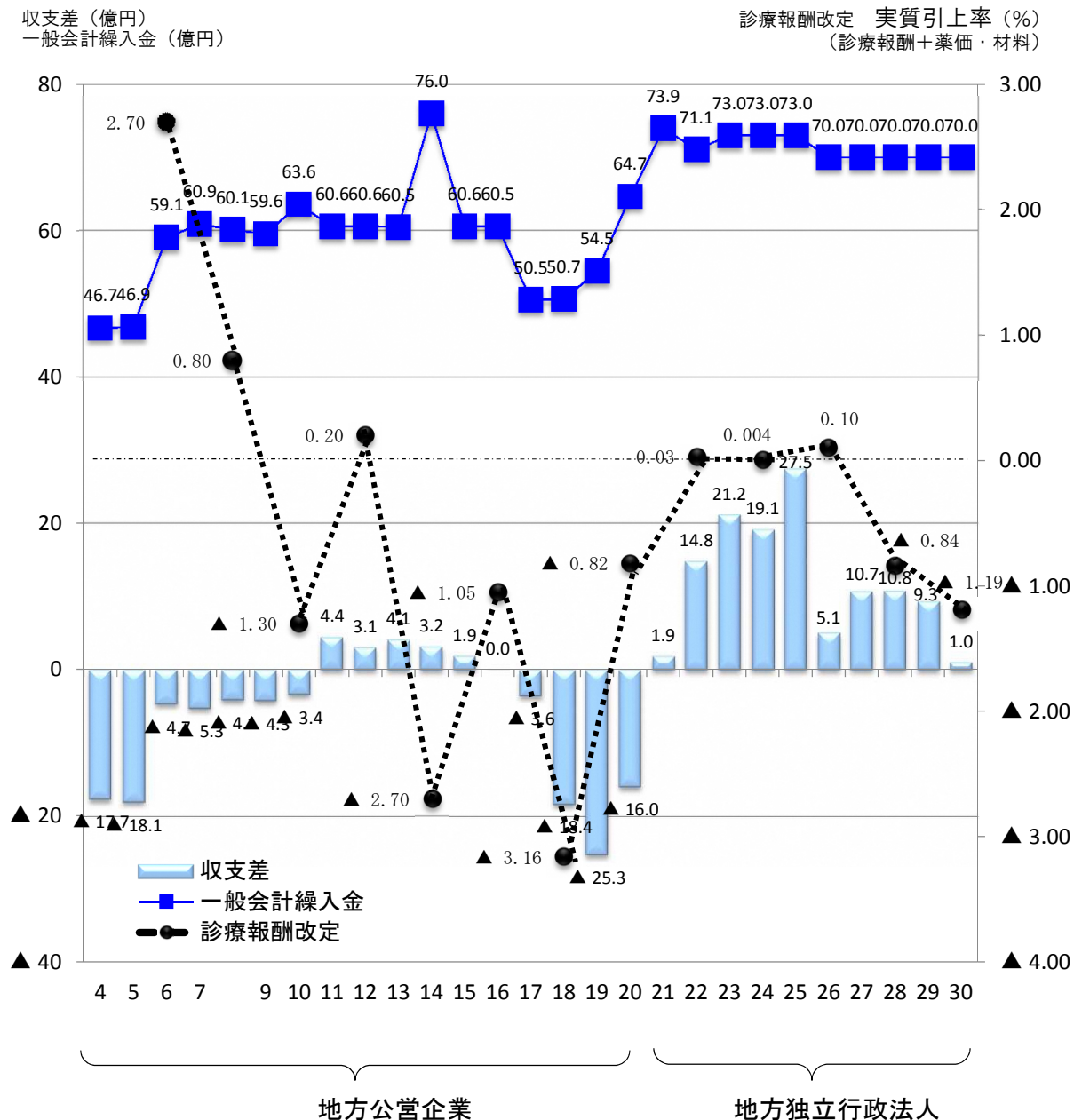
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数(稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標で、収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標で、職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

5 決算状況の推移(収支と繰入金・診療報酬の改定)(3病院計)



※30年度は見込

- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げる一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げる一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げる一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。

(ケ) 職員の状況

① 正規職員 (毎月初め人数累計÷12か月。ただし、H30は4/1見込)

(単位：人)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30見込	
総 合	医 師	125	135	148	157	165
	歯 科 医 師	3	3	4	3	3
	看 護 師	653	680	743	797	806
	看 護 師	649	676	739	793	802
	准看護師	4	4	4	4	4
	医 療 技 術	194	215	210	207	214
	事 務	41	49	50	52	54
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
小 計	1,016	1,082	1,155	1,216	1,242	
こころ	医 師	13	12	12	12	14
	歯 科 医 師	1	-	-	-	-
	看 護 師	112	111	113	115	118
	看 護 師	110	109	112	114	117
	准看護師	2	2	1	1	1
	医 療 技 術	26	26	26	26	25
	事 務	13	13	13	13	13
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
小 計	165	162	164	166	170	
こども	医 師	93	94	88	91	90
	歯 科 医 師	1	1	1	1	1
	看 護 師	442	452	442	445	444
	看 護 師	441	451	441	445	444
	准看護師	1	1	1	-	-
	医 療 技 術	81	85	83	81	80
	事 務	28	27	28	28	27
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
小 計	645	659	642	646	642	
本 部	看 護 師	2	2	2	2	2
	看 護 師	2	2	2	2	2
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	1	1	-	-	-
	事 務	27	28	27	25	32
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
	小 計	30	31	29	27	34
計	医 師	231	241	248	260	269
	歯 科 医 師	5	4	5	4	4
	看 護 師	1,209	1,246	1,300	1,359	1,370
	看 護 師	1,202	1,239	1,294	1,354	1,365
	准看護師	7	7	6	5	5
	医 療 技 術	302	326	319	314	319
	事 務	109	117	117	119	126
	技 能 労 務	-	-	-	-	-
合 計	1,856	1,934	1,989	2,056	2,088	

② 有期職員 (毎月初め人数累計÷12か月。ただし、H30は4/1見込)

(単位：人)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
総 合	医 師	89	91	91	92	90
	うち初期研修医	36	38	36	39	39
	看 護 師	63	70	74	69	68
	看 護 師	61	68	73	68	67
	准看護師	2	2	-	1	1
	医 療 技 術	27	29	30	33	35
	事 務	112	116	141	151	151
	補 助 職 員	93	99	98	94	94
小 計	384	405	434	439	438	
こころ	医 師	1	2	5	5	3
	うち初期研修医	-	-	-	-	-
	看 護 師	15	11	15	12	11
	看 護 師	12	8	12	11	10
	准看護師	3	3	3	1	1
	医 療 技 術	4	4	5	5	4
	事 務	11	14	15	15	14
	補 助 職 員	12	11	12	11	11
小 計	43	42	52	48	43	
こども	医 師	45	48	51	48	55
	うち初期研修医	-	-	-	-	-
	看 護 師	14	16	13	12	13
	看 護 師	13	15	12	11	12
	准看護師	1	1	1	1	1
	医 療 技 術	15	14	17	17	19
	事 務	51	51	52	52	54
	補 助 職 員	23	24	24	25	24
小 計	148	153	157	154	165	
本 部	医 師	-	1	1	1	1
	看 護 師	-	-	-	-	-
	看 護 師	-	-	-	-	-
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	-	-	-	-	-
	事 務	8	7	7	8	6
	補 助 職 員	1	1	1	1	1
	小 計	9	9	9	10	8
計	医 師	135	142	148	146	149
	うち初期研修医	36	38	36	39	39
	看 護 師	92	97	102	94	92
	看 護 師	86	91	97	91	89
	准看護師	6	6	5	3	3
	医 療 技 術	46	46	51	54	58
	事 務	181	188	215	226	225
	補 助 職 員	128	135	134	131	130
合 計	582	608	650	651	654	

※1 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等 ※2 短期間特別研修医は含まない。

(コ) 職員の採用状況

- ・看護師の採用については、定期募集、経験者募集（月次募集）により、切れ目のない採用試験を行った。
- ・また、県立総合病院における看護師を確保するため、平成25年10月より看護師の紹介業者を通じた採用をしてきた。
- ・平成27年度以降は、看護師確保対策の推進を図るため、人材確保対策本部会議を実施した。本会議において、機構幹部職員が直接協議したことで、きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の大幅な増加につながった。（H26 108人⇒ H27 149人、H28 136人（アソシエイト5人を含む）、H29 113人）
- ・人材確保対策会議による対策例としては、修学資金の拡充の継続（貸与時期2期制等）、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充（市外 最大5万円）、静鉄電車・バス等へのポスター掲載、JR静岡駅への電照広告掲載等があげられる。
- ・また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行った。看護師就職説明会において、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。
- ・看護師が充足してきたことから、人材確保対策会議及び紹介業者を通じた採用を見合わせ、今後は退職補充を中心に採用をしていく。
- ・医療技術、事務については、適時適切な採用を行った。

採用数の推移

(単位：人)

区 分	機 構 全 体				
	H25【H26採用】	H26【H27採用】	H27【H28採用】	H28【H29採用】	H29【H30採用】
看 護 師	114	108	149	136	113
事 務	9	12	3	1	6
医 療 技 術	28	36	3	2	18

※前倒し採用を含む

※アソシエイトを含む

職員数の推移 (各年度4月1日現在 現員数)

(単位：人)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30	備 考
医 師	正 規	235	245	250	264	273	
	有 期	138	144	149	144	149	
	計	373	389	399	408	422	
看 護 師		1,221	1,251	1,317	1,370	1,370	
医 療 技 術		304	327	320	315	319	
事 務		109	118	119	118	126	
(うち事務プロパー)		(53)	(64)	(63)	(61)	(70)	
計		2,007	2,085	2,155	2,211	2,237	

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む。

※有期医師の契約は、1年更新、短期間特別研修医は除く。

実働数の推移

(単位：人)

区 分	平成 26 年 4 月 1 日現在①			平成 30 年 4 月 1 日現在②			増 減 数 ②-①			
	定数	実働数	差引	定数	実働数	差引	定数	実働数	差引	
	a	b	b-a	c	d	d-c	c-a=e	d-b=f	f-e	
医 師	正 規	239	235	▲4	282	269	▲13	43	34	▲9
	有 期	160	138	▲22	169	149	▲20	9	11	2
	計	399	373	▲26	451	418	▲33	52	45	▲7
看 護 師	1,143	1,137	▲6	1,254	1,278	24	111	141	30	
医 療 技 術	291	293	2	289	295	6	▲2	2	4	
事 務	110	109	▲1	124	125	1	14	16	2	
計	1,943	1,912	▲31	2,118	2,116	▲2	175	204	29	

※実働数=現員数-休職者数

ウ 特記事項

(ア) 経営改善

- ・ 薬品費や診療材料費については、購入品目数の絞込みに加え、納入業者数の見直し、価格交渉の更なる拡充等の改善を進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化など、委託業務契約等の契約手法の見直しを中心に、地方独立行政法人制度のメリットを活かした改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約延長：最長5年間の業務受託が可能）の付与や業務内容が適切ではない場合の契約解除等が課せられている。）の導入などにより、業務の質の向上も図った。

以上のような改善の推進には、事務部門のみではなく医療従事者の理解と協力が不可欠であり、経営改善に向けた取り組みを通じて、職員間にコストと委託業務等の質に関する意識づけが進んだ。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (薬品費の節減)	【今期の実績】 ・一薬品メーカー・一卸業者制度 ・納入卸業者数の見直しによる事務効率化及び値引き率の向上	109
	【次期への課題】 ・アドバイザー・ベンチマークを活用した更なる効率化の推進 ・購入から消費までの業務の効率化と業務フローの整備 ・ジェネリック医薬品の導入促進	
コスト節減への取組を強化する (診療材料費の節減)	【今期の実績】 ・医療従事者と協働した同種同効品の絞込み、3病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替等 ・診療材料の品目数の削減	109
	【次期への課題】 ・購入から消費までの業務の効率化（業務フローの精査） ・診療材料の品目数の更なる削減	

コスト節減への取組を強化する (医療機器購入・保守管理業務の改善)	【今期の実績】 ・保守管理委託の3病院一括化・複数年化・同種業務の包括化による保守管理費の節減	110
	【次期への課題】 ・機器の集中管理の推進等、適切な管理に係る更なる検討	
コスト節減への取組を強化する (委託料等の契約形態による業務改善)	【今期の実績】 ・契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化による委託料の節減及び業務の効率化 ・モニタリング制度による業務の質の向上	111
	【次期への課題】 ・現行契約の効果水準の維持及び更なる改善に向けた検討	
<ul style="list-style-type: none"> 情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信体制の整備 (説明責任・透明性の確保) 経営情報の積極的な活用による効率的な運営 (原価計算への取組) 	【今期の実績】 ・総合病院において原価計算システムを導入し、検証や見直しを図りながら定期的にデータを蓄積した。	80
	【次期への課題】 ・DPC データや財務会計システムを用いて診療科別、部門別の原価計算	

(イ) 環境改善

- ・医療従事者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めた。
- ・業務改善の推進として、各病院が各々行っていた表彰制度を統合し、機構の改革推進制度として新たに設置し、改革・改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。
- ・看護師の確保対策のため、平成27年度に理事長をトップとする人材確保会議を立ち上げ、看護師確保キャラバン隊を創設し機構幹部職員が県外養成校を訪問するなど、強力にPR活動を行った。
- ・有能な人材を確保するため、経験者の選考採用を進めるとともに、新たにアソシエイト制度を創設し、ニーズに応じた多様な人材の登用を推進した。
- ・医療従事者の事務的作業を補助する職員の採用により、特に医師事務作業補助者を増員することにより、医師の負担軽減を図った。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師その他医療従事者の確保対策の充実を図る (即時的で効果的な人材確保)	【今期の実績】 ・優秀な経験者の選考採用実施	55
	・アソシエイト制度の創設、有能な職員の登用	67

	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・新たなニーズへの迅速、柔軟な対応 	
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る (看護師確保対策)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師人材確保対策会議の設置 ・養成校、就職説明会への訪問 ・修学資金等の就職前支援策 ・年間を通じた採用試験の実施 	55 56 57 58
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・優秀な人材確保に向けた選考 	
医療従事者が研修や研究に参画しや すい体制を整備する (認定看護師等の資格取得を支援(医療 の質の向上))	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・資格等取得助成制度利用者 総合 20 名、こども 4 名 	73
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・必要な資格種別の選定 	
職員による経営・業務改善の提案を奨 励する制度を充実し、提案が反映され る制度の整備を図る (業務改善に不断に取り組む組織風土の 醸成(「業務改善運動推進制度」の実施))	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善提案の活性化 ・表彰による業務改善の推進 	116
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善意識のさらなる高揚 ・改善提案の普及 	
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (多様な雇用形態や勤務形態への取組 (就労環境の向上))	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用 形態の採用 ・看護師 2 交代勤務制の開始や夜勤専従の試行な ど柔軟な勤務形態導入への取組み 	67
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・職員が働き続けることができるような、更なる 多様な勤務形態の整備 	
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (医師の事務負担軽減のための補助職 員の配置)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・医師事務補助職員の増員 (総合 67 人、こころ 2 人、こども 19 人) H30. 4 月 	68
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・人材の育成(医療に熟知した人材が必要) 	
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (医師・看護師確保のための宿舎・院内 保育所の整備)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院医師宿舎の大規模修繕(H26. 27) ・総合病院の新看護師宿舎完成(H27) ・こども病院医師宿舎を改修(H28) ・総合病院医師宿舎新規建設の準備、こども病 院内保育所敷地内リニューアルに向け検討・整備 (H29) 	70
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院院内保育所の定員枠の検討 ・こども病院院内保育所の建替え 	

(ウ) 災害等における医療救護

①熊本地震への対応状況

- ・熊本地震（平成 28 年 4 月）への医療救護活動として、熊本県阿蘇地域などへ静岡県医療救護班派遣（一般医療チーム及び精神医療チーム）等による被災地支援を発災 1 週間後から平成 28 年 5 月中旬まで実施した。

派遣実績

（単位：日、人）

区 分	派遣期間 (移動を含む)	延日数	合計	派遣職員数			
				医師	看護師	その他	
H28	静岡県医療救護班						
	一般医療チーム	4/23～4/27	5	5	1	2	2
	一般医療チーム	4/26～4/29	4	1	1	0	0
	精神科チーム	5/1～5/7	7	5	2	1	2
	精神科チーム	5/6～5/12	7	5	2	1	2
	累 計		23	16	6	4	6

※静岡県医療救護班：静岡県からの要請に基づき、県内公的病院による救護班を組織して派遣。

「一般医療チーム」⇒「総合+こども」「総合」によるチーム編成。

「精神医療チーム」⇒「こころ」によるチーム編成。

※放射線技師派遣：福島県からの要請に基づき、被ばくスクリーニング業務を行う技師を静岡県でチームを編成して派遣。

②東海地震に備えた今後の対応

- ・各病院で災害対応マニュアルの見直しを進め（県立総合病院：H26.4 更新）、東日本大震災を教訓とした想定内容をマニュアルに反映させていくとともに、避難訓練の実施方法や設備面での見直しも検討している。
- ・県や静岡市では、現在各々の防災計画の見直しを行っているところであり、各病院が地域防災における役割を的確に果たせるよう、上位計画の見直しに合わせて機構の計画見直しを行い、体制整備を図る。
- ・医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及び卸業者との協議を進める（航空機による搬送計画等検討）。
- ・被ばく医療について、福島第一原発相当の事故に対応する体制・医療計画の見直しについて県をはじめ関係機関と協議する。

(2) 総合病院

<理念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の
全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

ア 総括

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

本中期計画期間は、主要事業として、循環器病センター機能を活かした24時間365日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、高度救急救命センターとして重症な患者への救急医療の提供を主要事業の三本柱として取り組んだ。

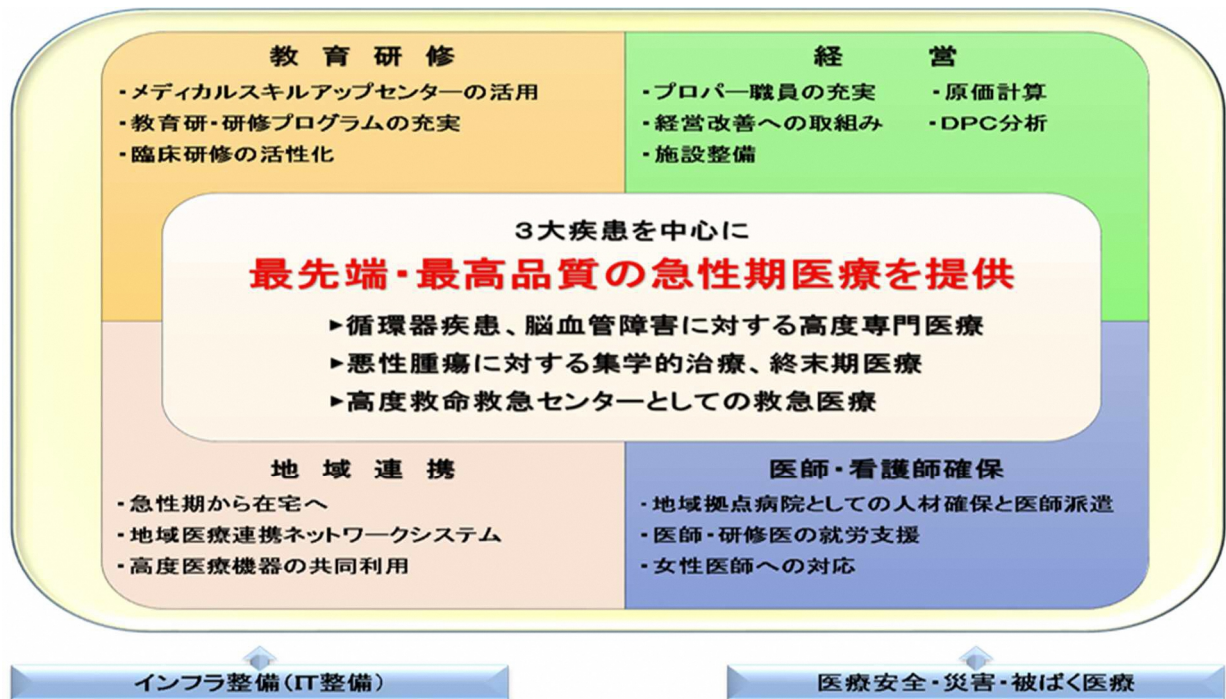
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。

さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めた。

医療内容の高度、手術件数の増加、高額薬剤の使用（オプジーボ、ハーボニー等）に加え、集中系治療病棟の稼働率向上、入院料加算算定件数延べ件数の増加、平成26年4月及び平成28年4月の2回にわたる診療報酬増額改定の効果を最大に享受すべく、施設基準の新規取得、ランクアップおよび維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、診療単価を向上させている。看護師確保対策を実施した結果、必要看護師数を確保し、平成28年5月に6A病棟、6C病棟をフル稼働させ病棟機能の向上に努めた。この結果、入院では、今期の延患者数は中期計画を下回る見込みのもの、単価は中期計画を上回る見込みである。また、外来では、今期の延患者数及び単価が中期計画を上回る見込みである。

今後も、県立総合病院が目指す病院像（次頁(図1)参照)のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとする。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院、外来とも中期計画を上回った。また、単価についても、入院、外来とも中期計画を上回った。この結果、期間中の収入は中期計画額を確保する見込みである。

業務実績

区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
入 病 床	年間入院延患者数 (人)	204,484	204,480	217,351	226,005	230,030
	患者1人1日当たり単価 (円)	71,408	75,433	76,036	76,575	83,908
	平均在院日数 (日)	13.1	11.4	11.6	11.8	11.7
	病床利用率 (%)	90.4	90.3	90.4	93.5	95.2
結 核 病 床	年間入院延患者数 (人)	7,621	6,588	6,358	6,580	6,358
	患者1人1日当たり単価 (円)	23,346	24,622	24,504	23,713	24,504
	平均在院日数 (日)	68.0	63.5	65.9	74.6	77.4
	病床利用率 (%)	20.9	36.0	34.8	36.1	34.8
外 来	年間外来延患者数 (人)	411,582	426,343	432,762	430,118	434,048
	患者1人1日当たり単価 (円)	17,378	18,547	19,058	19,875	20,299

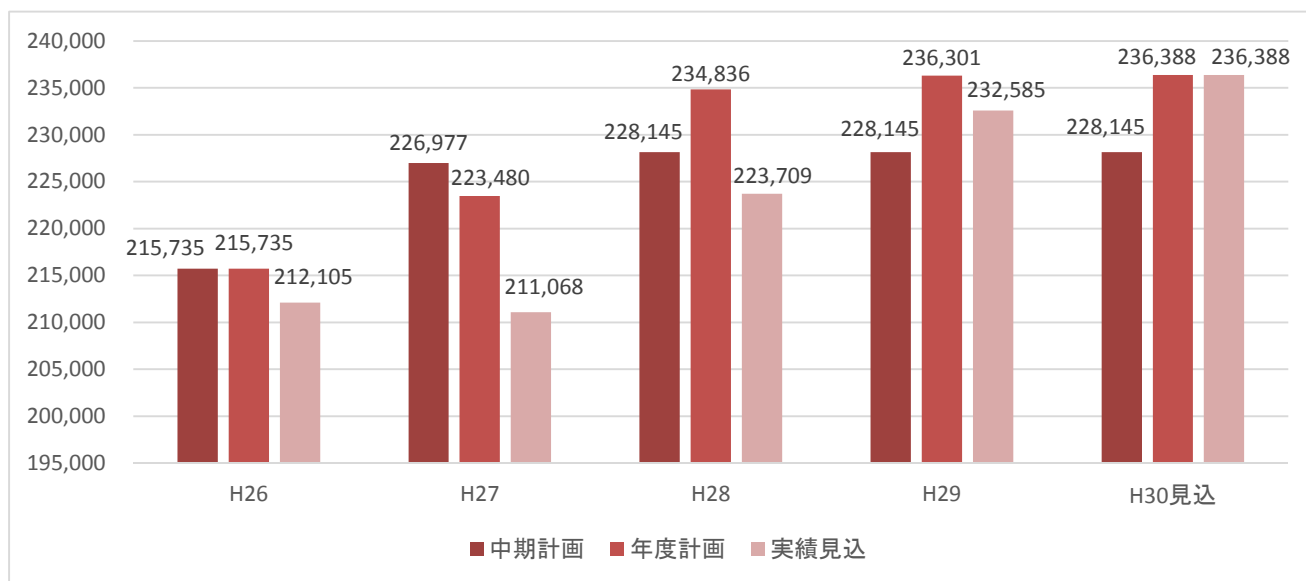
※H26年度 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床620床、結核100床で算定

※H27～30年度 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床662床、結核50床で算定

患者数の推移 (26年度実績～30年度見込)

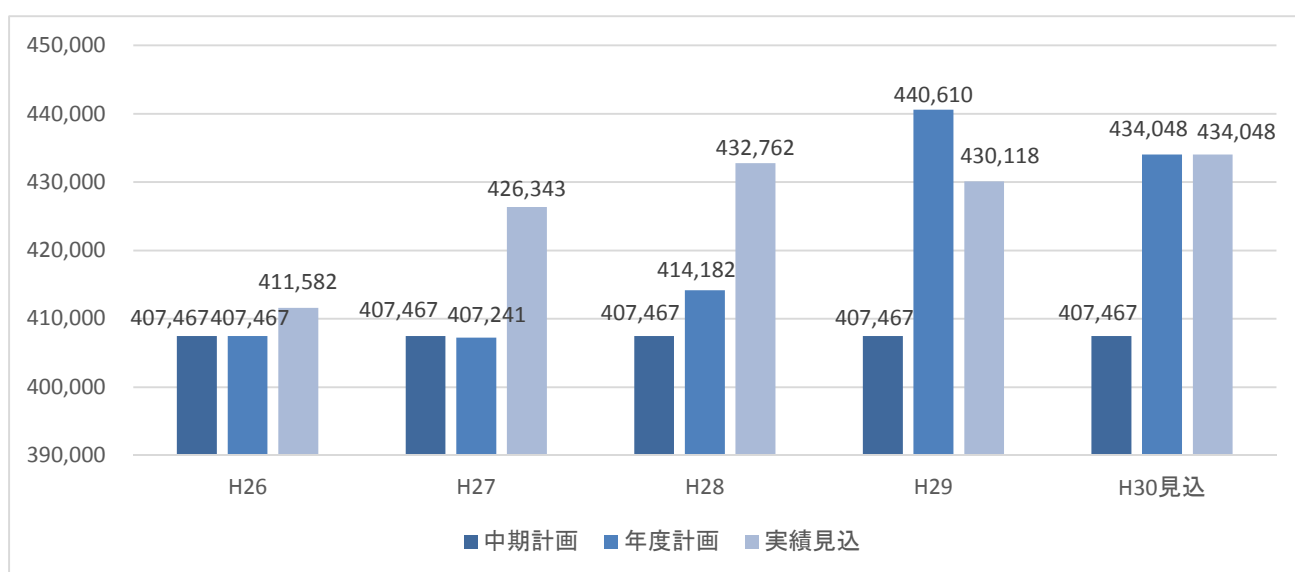
入院延患者数 (総合病院)

(単位：人)



外来延患者数 (総合病院)

(単位：人)



・紹介率、逆紹介率については、ともに過去最高の水準を実現し、病診・病病連携がいっそう進んでいる。

紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区分	H26	H27	H28	H29	H30見込	備考
紹介率	85.0	89.1	89.0	89.4	90.6	
逆紹介率	127.5	134.3	161.5	161.8	175.5	

※紹介率・逆紹介率の算定方法については、P71の用語解説を参照。

ウ 特記事項

(ア) 医 療

- ・ 医療の提供については、循環器病、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。厚生労働省告示により、全国1,668のDPC病院（急性期病院）の中で全国140病院（平成29年3月現在）のⅡ群の一つとなり、平成24年3月から平成30年3月まで継続して大学病院本院（Ⅰ群）と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて5病院）。
- ・ 急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療については、ハイブリッド手術室を整備し、平成26年10月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）など、循環器分野における先進的な治療を行った。
- ・ 集中治療病棟の改修を行い、重症度の高い患者の治療体制を整備した。これに伴い施設基準のランクアップが実現して入院収益の増加に貢献した。
- ・ がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを4台設置し、稼動している。このほか、地域の医療者にも開かれたキャンサーボードおよびがん研修会を定期的開催し、PETセンターの共同利用を進めるなど、地域のがん診療拠点病院として機能強化に努めている。
- ・ 毎年度、国立がん研究センターから公表される「がん診療連携拠点病院院内がん登録 全国集計報告書」において、最新版2015年の当院のがん登録件数は全国427施設で46番目に多い登録件数であった。平成26年2月から手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、泌尿器領域の前立腺がん手術、膀胱全摘除術（全額自費診療）、腎部分切除手術婦人科領域の子宮頸がん手術、大腸がん（主に直腸がん）の手術を行った。また、平成28年12月には、全国5番目（大学病院以外では全国初）となる、産婦人科領域のダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の施行が先進医療で承認された。
- ・ 最新鋭の手術機器や放射線治療装置を取り入れるため、平成27年度より先端医学棟の建設に着手し、平成29年度の7月に竣工を迎え、9月より運用を開始している。先端医学棟では、手術や放射線治療を更に発展させ、高度・先端医療を提供する県内の中核病院として機能の強化、患者サービスの向上を図るため、手術室を県内最多となる22室に拡充し、最新鋭の医療機器を配置してロボット手術やハイブリッド手術などを含む手術件数を伸ばしている。

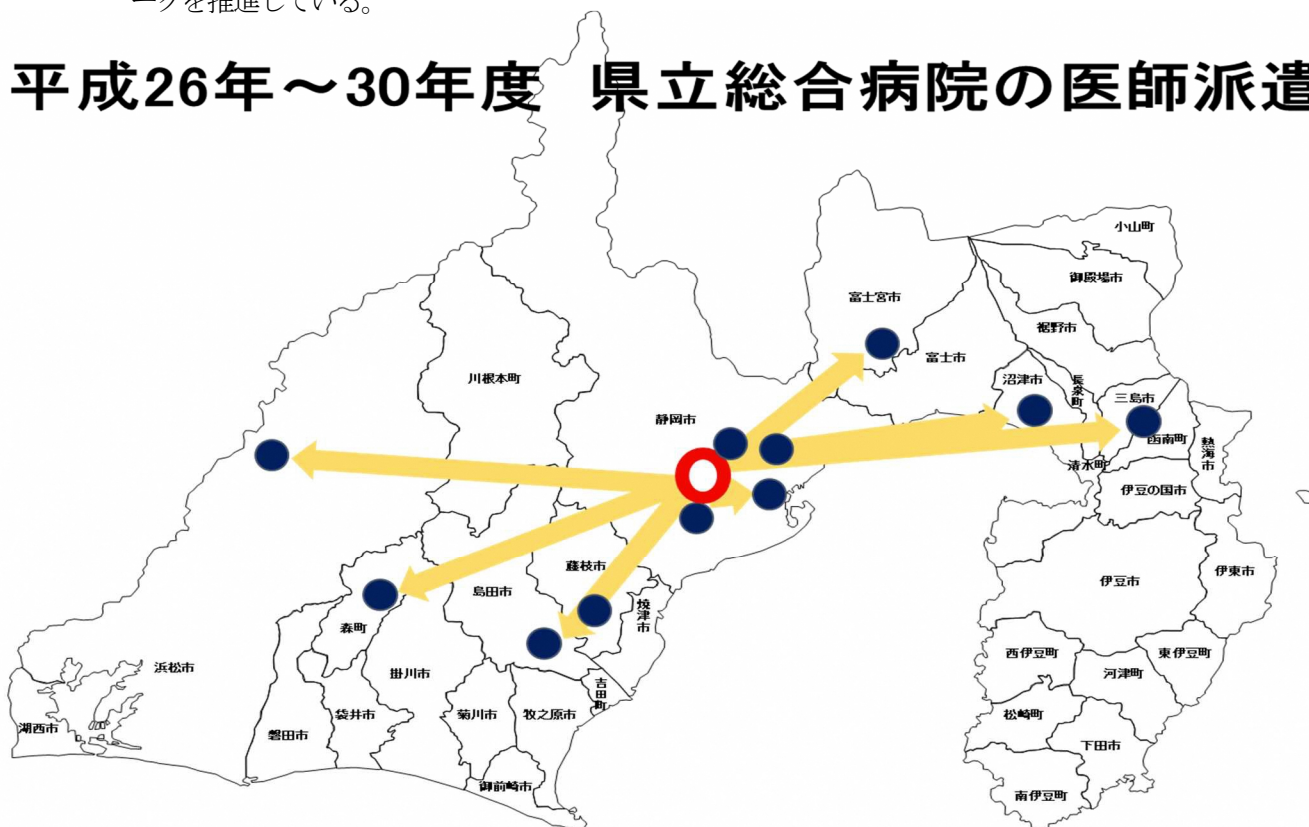
また、最新鋭の放射線治療機器に対応できる大型の放射線治療室4室を整備し、これまで以上に体への負担が少なく、かつ高精度な放射線治療を実施している。

研究では、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置。また、乳幼児期の難聴や、人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）もリサーチサポートセンター内に整備されている。
- ・ 近年増加する外来患者に対応するため、平成29年3月に大型立体駐車場の工事発注を行った。平成29年5月に周辺工事を開始し、平成30年の8月末のオープンを予定している。
- ・ 救急医療については、平成27年度に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成26年6月にドクターカーを導入、運用開始し、静岡市と運用に関する協定を結び、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。平成27年度末には、富士市及び富士宮市とも運用に関する協定を結び近隣地域にも活動の範囲を広げた。加えて患者の寄付金を活用して2台目となる救急車を導入した。

主に病院間の患者搬送や災害時の医療支援に使用することとしている。なお、この救急車は英国日産の NV400 で、日本での導入は初となる車輦である。

- 地域医療の支援については、平成 26 年度から平成 29 年度末まで県立病院医師交流制度に基づき 11 医療機関に対して延べ 2,623 人の医師の派遣を行うとともに、PET や CT・MRI の高度医療機器の共同利用を進めている。また、平成 22 年度総務省委託事業である「地域 ICT 利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成 30 年 3 月末現在、開示施設は 18 病院、参照機関は 134 施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成26年～30年度 県立総合病院の医師派遣



- 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成 27 年度に卒後臨床研修評価機構（JCPEP）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が高く評価され、4 年間の認定証の発行を受けた。また、医師臨床研修マッチングにおいて、平成 26 年度から平成 29 年度の医師臨床研修マッチングにおいて、概ね募集枠の定員を確保することができている。平成 29 年度実施のマッチングにおいては、一般プログラムで募集定員 17 名中、全員の 17 名を確保することができた。小児プログラムについては、募集定員 2 名中、全員の 2 名を確保することができた。

※()は29年度実績のNo (以下同様)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
<p>循環器病センター、先端医学棟の機能を生かすべく、循環器疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の整備を図る</p>	<p>【今期の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CCU/ICU の24時間365日の運用体制維持し、高度専門医療を提供 ・特定集中治療室管理料2の施設基準を取得し、ランクアップ (増収見込額 128百万円/年) ・心臓リハビリテーションのランクアップ (増収額 4.8百万円/年) ・脳卒中地域連携クリニカルパスの適用患者数は毎年40件~50件で安定的に推移した。 ・MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室の運用体制を整備し、高度専門医療を提供 ・期間を通じて、ハイブリッド手術室の使用件数、TAVI 実施件数、ステントグラフト挿入術は増加している <p>【次期への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、更なる体制の充実 	<p>27~28 (27~28)</p> <p>・ 30 (30)</p>
<p>がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な就学的治療や予防医療を提供する体制の整備。地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供の高度な集学的治療を提供する体制整備、情報提供・発信する体制の充実を図る</p>	<p>【今期の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん手術、放射線治療、外来化学療法、緩和ケア、がん相談、がん登録の件数は着実に増加している。 ・緩和ケアチーム介入症例数の維持 ・高度ながん治療の提供体制の強化・充実 (放射線治療室4室、ダヴィンチ2台) ・ロボット支援手術の件数増加、加えて適応疾患の拡大 <p>【次期への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保 ・常勤精神科医の確保 ・外来化学療法センターの円滑な移転 	<p>31~35 (31~35)</p>
<p>重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 (救急医療への取組み(救急の体制))</p>	<p>【今期の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度救命救急センターに指定 ・救急車搬送患者の受入体制の確保 ・特殊疾病患者受入れ数の増加 ・ドクターカーの出動回数の増加、出動可能な市町の拡大 (5市2町) ・当直体制、当番体制の整備 ・医師の変則勤務の試行 <p>【次期への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の負担軽減 ・救急専門医の確保 	<p>36~37 (36~37)</p>
<p>地域医療支援病院として、情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワークの構築。高度な専門施設・医療機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る</p>	<p>【今期の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率85%以上、逆紹介率120%以上 ・CT、MRI、PETなどの高度医療機器の共同利用 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタルの広 	<p>11・14~ 15 (11・90 ~91)</p>

(地域医療支援への取組み(地域医療支援病院の機能))	域ネットワークの構築 (利用料の徴収、サーバー更新) <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用数の増加 	(47・48)
	<p>【次期への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PET検診の提携拡大、件数の増加 	

循環器病センター



救急処置室 (1F)



心カテ室 (2F)



CCU (3F)

先端医学棟



<先端医学棟>



<病院全景>



<先端医学棟1階 放射線治療室>



<先端医学棟1階 放射線治療待合>



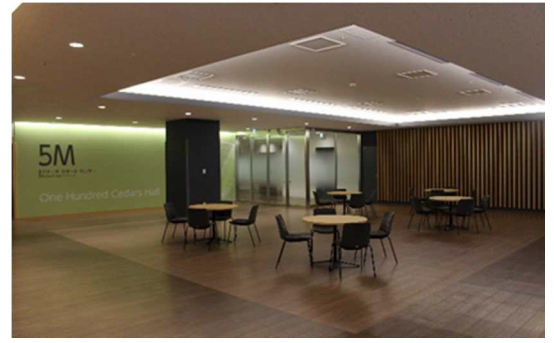
<先端医学棟2階・研修部門 講義室>



<先端医学棟3階 手術ホール>



<先端医学棟4階 HCU>



<先端医学棟5階 ラウンジ>



<第1立体駐車場完成イメージ図>



<救急車 日産NV400>

(イ) 経営改善

- ・ 必要看護師数が確保できない状況の中、医療秘書や病棟支援を行う看護助手の配置、看護師の離職防止対策などに取組み、一般病棟の7対1看護の維持に努めた。また、看護提供方式を「小チーム共同体型」から「固定チームナーシング方式」に平成27年11月に変更を行った。継続的に看護師確保に努めた結果、平成28年5月より病棟をフル稼働させることができ、医業収益の増加に寄与できた。
- ・ 平成25年9月から引続き、自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを行った。
- ・ 平成28年4月に入退院センターを開設した。入退院センターでは、患者個々の社会的背景を捉え、入院前から退院後を見据え、一貫したサポート（入院前問診・オリエンテーション等）を行うことで、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図った。また、空床情報の一元管理と、適切なベッドコントロールを行い、病床再編や病床利用率の向上を図った。
- ・ 重症系病棟の稼働率、算定率向上に向けて、医師を中心に効率的な病棟運用に努めている。
- ・ 平成29年9月より、共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称：NHA)」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行った。
- ・ 平成27年2月にSPD（委託）を導入し、物品の一元管理を開始した。発注、払出、搬送、在庫管理、棚卸等を一元管理することにより、業務効率化、不要在庫の削減、期限切れ廃棄物品の削減などを行った。先端医学棟の開棟により、増設された手術室の効率的な運用に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得(診療報酬の確保))	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・先端医学棟の開棟に伴い、重症病棟の充実化を進めた（ICUのランクアップ、HCUの増床） ・7対1看護維持等（看護提供方式の変更） ・新規に取得した施設基準の数46件(ランクアップ11件含む) ・高度専門医療の提供 	108 (108)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・施設基準の維持・拡大 ・院内に専門的知識を持った職員を養成 	
業務内容に応じた多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減の取組み	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・SPD導入により病棟の薬品、診療材料の在庫額の縮減 ・卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを実施（MRPベンチマークシステム） ・共同購入組織のNHAに加盟し、より一層の診療材料費の低減を実施 	107・109 ～111 (107・109～111)

(ウ) 環境改善

- ・院内保育所を整備するなど就労環境の向上を図っている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者の事務的業務軽減を図り、医療事務補助、看護助手等の効果的配置を実施した。 ・看護提供方式を変更した。 ・医師宿舍の建築・衛生設備の大規模修繕を実施した。 ・医師確保対策をさらに推進するため、医師宿舍新規建設の準備を進めた。 ・看護師宿舍(軽量鉄骨造2階建 26 部屋)を建設した。 ・院内保育所の土曜保育の運営時間を 18 時から 19 時までに延長した。 ・保育園入所者へのインフルエンザ予防接種の実施 	67～70 (68・70)

(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

ア 総 括

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「先進医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想(図2)参照）に取り組んでいる。

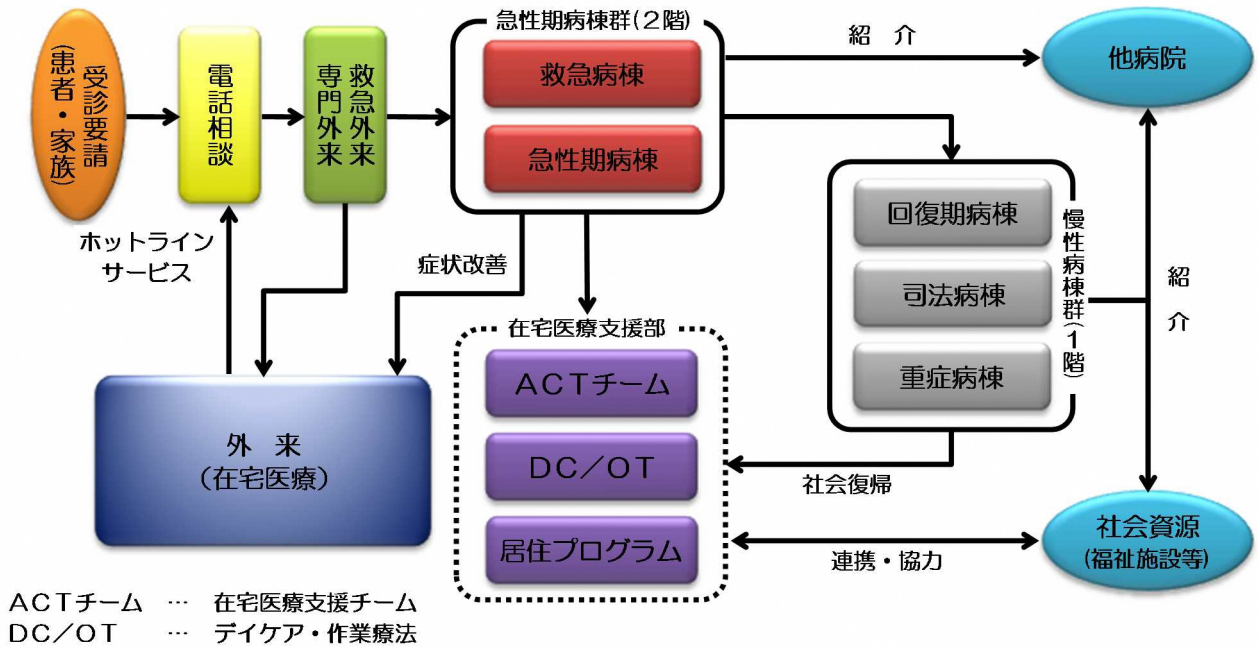
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度には、南1病棟の一部個室化運用の開始により、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めた。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んだ。

合わせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んだ。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んだ。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、平成 28 年度に南 1 病棟の一部個室化による運用を開始し、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携を強化する等、効率的な病棟運営に努めた。その結果、早期入院早期退院が促進され、入院延患者が大幅に上昇した。
- ・ 入院単価は、平成 25 年度に北 2 病棟を急性期病棟から救急病棟にランクアップしたことで、入院単価が上昇し、その後、25,000 円前後で推移している。
- ・ 外来延患者数は、概ね 40,000 人前後で推移している。
- ・ 外来単価は、概ね 6,000 円前後で推移している。

業務実績

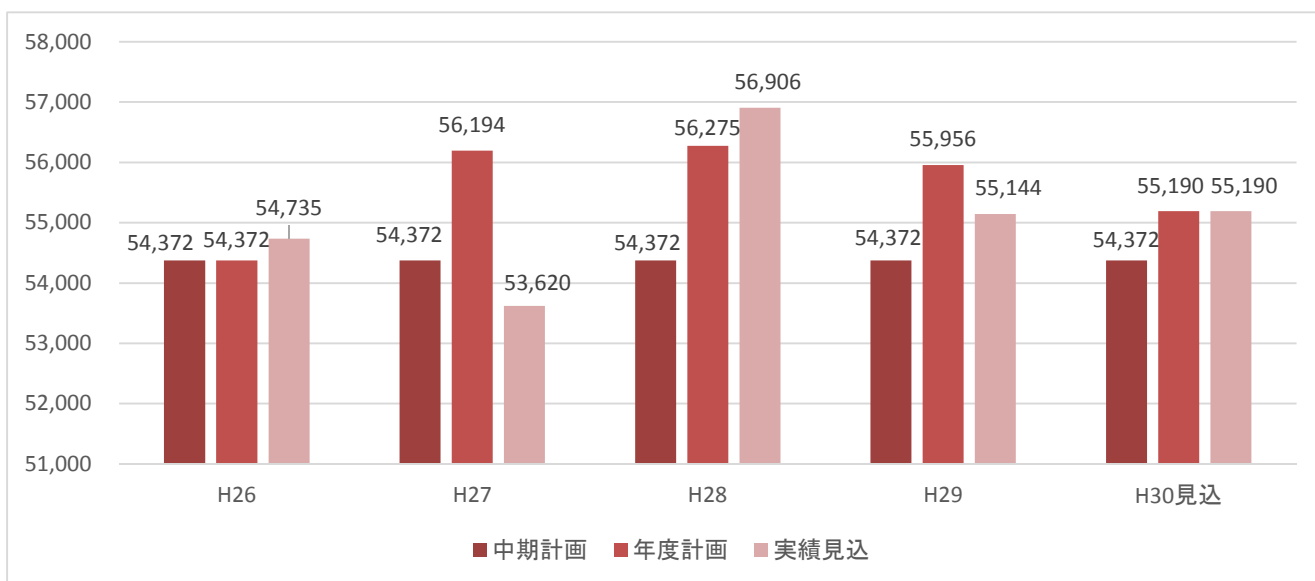
区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
入 院	年間入院延患者数 (人)	54,735	53,620	56,906	55,144	55,190
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	25,009	24,101	25,507	25,137	25,349
	平均在院日数 (日)	108.1	112.3	101.0	108.5	105.7
	稼働病床利用率 (%)	83.3	83.9	90.6	87.8	87.9
外 来	年間外来延患者数 (人)	40,366	39,691	40,756	41,140	40,416
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	6,001	6,010	5,990	6,149	6,104

※患者 1 人 1 日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床利用率は、180 床(H26.4~H27.11)、164 床(H27.12~H28.3)、172 床(H28.4~)で算定。

患者数の推移（26年度実績～30年度見込）

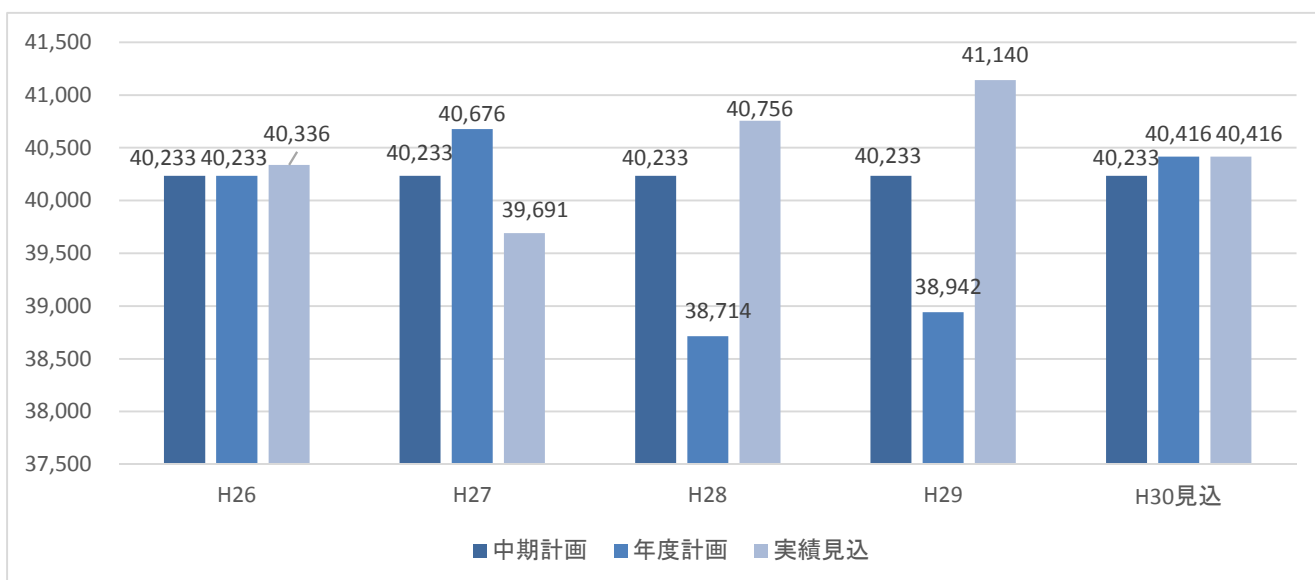
入院延患者数（こころの医療センター）

（単位：人）



外来延患者数（こころの医療センター）

（単位：人）



・紹介率は、地域医療機関との連携、予約制の浸透等により、計画値を上回っているが、逆紹介率については、23年度を除いて計画値を下回っている。

紹介率・逆紹介率

（単位：％）

区分	H26	H27	H28	H29	H30見込	備考
紹介率	57.9	56.2	55.0	56.3	56.3	
逆紹介率	27.4	30.8	29.6	28.6	28.6	

ウ 特記事項

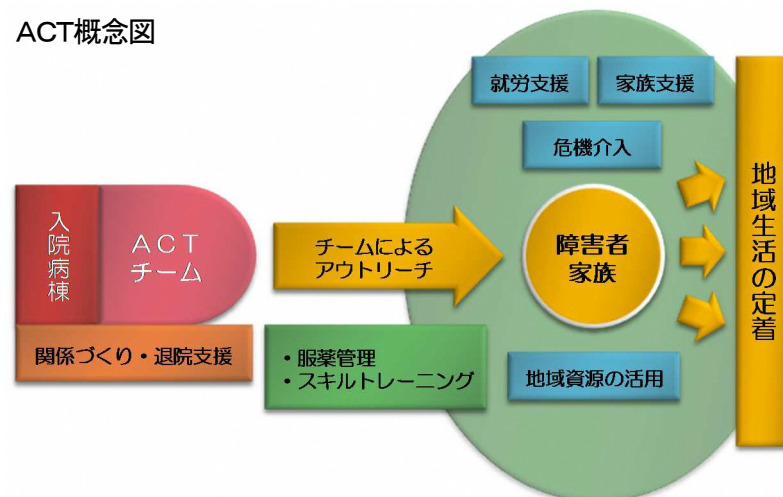
(ア) 医 療

- 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- 地域医療の支援については、県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を開設するなど、24時間体制で救急相談に対応したほか、講演会等への講師派遣、出前講座への認定看護師の派遣などに取り組んだ。
- 先端薬物療法（クロザピン）や先進的な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んだ。
- 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。
- 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、増床により機能を充実し、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
24 時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が 90 日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急・急性期医療の提供体制の整備)	【今期の実績】 ・精神科救急、急性期医療に特化した診療体制の強化 ・在宅医療支援体制の強化	39
	【次期への課題】 ・長期在院患者の退院促進と在宅医療支援の強化 ・新規患者比率を高める ・新規患者の 90 日以内の退院率を高める	
24 時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が 90 日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急医療相談体制の整備(電話相談部門のワンストップサービス))	【今期の実績】 ・県内全域を対象とし、24 時間体制で救急医療相談に対応	38
	【次期への課題】 ・相談件数を増加させるため、精神科救急ダイヤルの一層の周知	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (先端薬物療法等(クロザピン、m-ECT)を積極的に実施する)	【今期の実績】 ・m-ECT (修正型電気けいれん療法) の実施 ・クロザピンによる治療の実施	40・41
	【次期への課題】 ・m-ECT の安定した実施に向けての麻酔医の確保 ・クロザピンによる副作用に対する安全対策の徹底	
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (心理・社会的治療についての実施体制を強化・拡大する)	【今期の実績】 ・患者に対する心理教育・家族教室を実施	42
	【次期への課題】 ・心理教育・家族教室の実践に対する診療報酬算定方法の検討	
多職種チームによる包括的な在宅医療支援体制モデルを構築し、継続実施する (ACTの構築)	【今期の実績】 ・ガイドラインに沿ったACTによる支援の実施	43
	【課題】 ・地域支援を行うための収入の確保	
医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与	【今期の実績】 ・医療観察法指定入院医療機関としての適正運用と機能拡充に適したプログラムの提供	44
	【次期への課題】 ・スタッフの一層のレベルアップ	
機構内3病院における連携体制 (精神身体合併症への対応:総合病院との連携体制)	【今期の実績】 ・総合病院内科医、皮膚科医等による往診 ・総合病院緩和医療チームへの支援 ・緊急時の搬送体制の確立 ・こども病院精神科の入院治療への支援	—
	【次期への課題】 ・病院間横断的な検討の実施	

ACT概念図



(イ) 経営改善

- ・ 診療報酬の適正請求や医療観察法の指定病床の増床など、収益の増収に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・ 診療報酬の適正請求に努めるとともに、医療観察法病棟の増床などによる収益増	108
	【次期への課題】 ・ 施設基準の維持・拡大 ・ 救急急性期医療等の拡大(算定外患者を減らす、病床利用率の向上) ・ 外来患者の増加策の検討	
遊休施設等の有効活用を図る	【今期の実績】 ・ 北4病棟を医療観察法の作業療法ゾーンとして活用	—
	【次期への課題】 ・ 北3及び南3病棟のその他空きスペースの活用法の検討 ・ グランド等の遊休施設の活用法の検討	

(ウ) 環境改善

- ・ 北1病棟の医療観察法病床整備に合わせて、今までナースステーションの一角にあった北1及び北2病棟看護職員の休憩室を、別棟として新築し独立した空間を確保した。
- ・ 夜勤職員用の休憩室を、3階フロアに4部屋(男女別に2部屋ずつ)確保した。
- ・ 男性看護師の増加に伴い、男性用の休憩室を3階フロアに増設した。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
就労環境の改善	【今期の実績】 ・ 女性医師の夜勤時における就労環境改善のため、女性医師用当直室を整備	—

女性医師用当直室



女性医師用当直室 (シャワー室)



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

〔地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |



ア 総 括

こども病院は、県内小児医療の中核病院として、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。平成22年度に、職員公募により病院理念を改定し、病院の目指す医療について職員の意識統一を図った。

外来診療部門における診療需要の増大や設備の老朽化等に対応するため、平成26年度に新たな外来棟を建設し、平成27年3月から診療を開始した。平成27年度には既存外来棟の改修工事を行い、平成28年2月から診療を開始した。

循環器医療分野では、平成26年度にCCU（循環器集中治療室）と外科系病棟の稼動病床を増やし、平成28年度には循環器病棟に準重症患者を受け入れる病室を設置したほか、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする小児用補助人工心臓を導入し稼動させるなど、小児重症心疾患患者の受入体制の充実を図った。

また、国際交流においては、平成27年8月から10月にかけて、マレーシア国立循環器病センターから複雑先天性心疾患や心臓脱等を併発する患者を受け入れ、2回の手術により治療に成功した。平成28年4月には中国の浙江大学医学院附属儿童医院を訪問したことを始め、同年10月には児童病院からの研修医の受入れ、平成29年11月には当院から児童病院を訪問し、友好協力協定を締結するなど積極的な国際交流を行った。

平成 27 年 9 月には、これまでの救急医療の実績を評価され、救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けるなど、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心にすべての小児の疾患に対応可能な小児専門総合医療施設として、高い評価を得ている。

イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、期間中平均在院日数が短縮してきているなかで、ほぼ同水準を維持する見込みである。外来延患者数は、期間中順調に増加してきている。
- ・ 入院単価は、平均在院日数が短縮しており、期間中上昇傾向が続く見込みである。外来単価については、H29 年度は高額薬品の使用患者が治験となり薬剤費が製薬会社負担となったことで、単価は減少した。

業務実績

区 分		H26	H27	H28	H29	H30 見込
入 院	年間入院延患者数 (人)	77,777	78,059	77,860	75,586	81,040
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	88,915	88,371	91,067	92,256	95,696
	平均在院日数 (日)	12.1	11.5	10.9	10.4	10.6
	病床利用率 (%)	79.8	78.7	78.7	76.4	81.9
外 来	年間外来延患者数 (人)	101,770	103,282	104,666	105,763	107,645
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	15,633	14,160	14,184	13,627	13,482

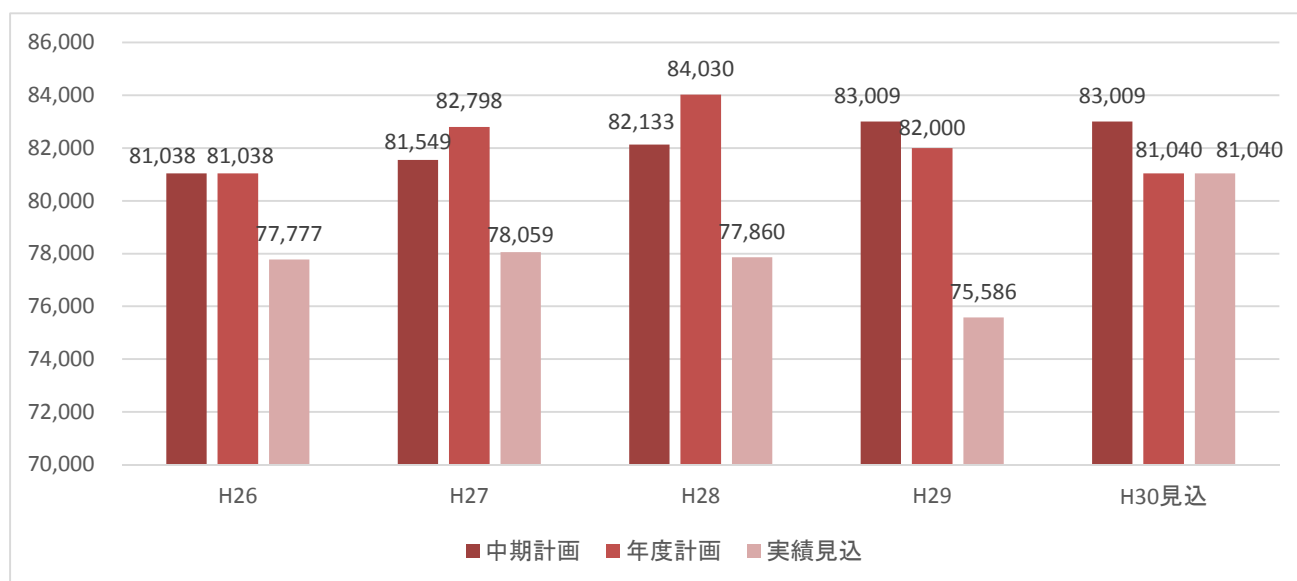
※患者 1 人 1 日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。一般の平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神、短期 3 を除いて算定。病床利用率は、入院は H26 年 5 月までは 264 床、H26 年 6 月から H27 年 7 月までは 269 床、H27 年 8 月から H28 年 5 月までは 272 床、H28 年 6 月以降は 271 床で算定。

※H30 見込は、H30 年 3 月末現在の見込数字。

患者数の推移（26 年度実績～30 年度見込）

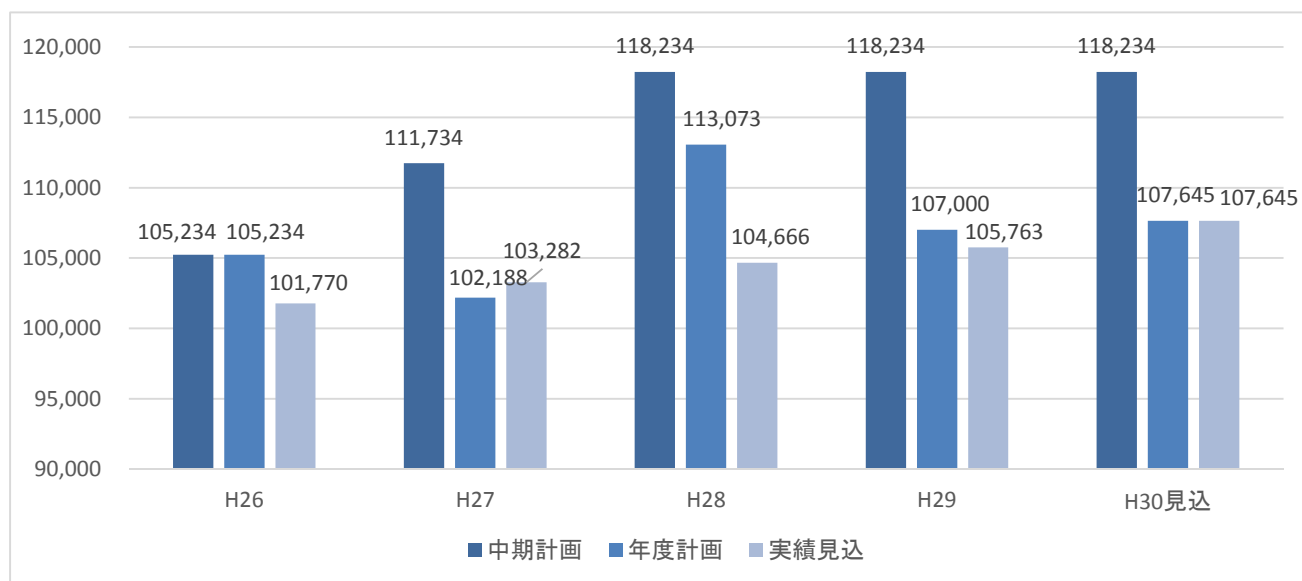
入院延患者数（こども病院）

（単位：人）



外来延患者数（こども病院）

（単位：人）



- ・ 紹介率は、100%に近い実績を維持している。逆紹介率については、年度ごとに上下があるが、今後も他医療機関との連携を強化し、向上に努めていく。

紹介率・逆紹介率

（単位：％）

区分	H26	H27	H28	H29	H30見込	備考
紹介率	91.8	93.0	94.7	94.1	93.7	
逆紹介率	53.2	52.0	52.5	46.5	50.8	

ウ 特記事項

(ア) 医療

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療（アンプラッツァー）や遠隔エコー診断等、循環器疾患に対する高度先進的医療の整備・提供をした。
- ・ 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備した。
- ・ 総合周産期母子医療センターとして周産期医療の中核を担い、妊娠管理から治療までのシステム構築の一環として県内の医師看護師に対する講習会を開催するなど、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度な先進的治療の提供をした。
- ・ 児童精神科病棟（36床）において、外来から入院まで一貫した治療体制を整えるとともに、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画しネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、児童精神科分野における中核的機能の発揮に取り組んだ。
- ・ 小児集中治療センター（PICU）と小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れた。また、小児救急医療への対応強化のため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を開催するなど、重篤な小児救急患者の受入体制の強化に努め、平成27年9月には救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた。

- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、関係診療科の協働連携による共同カンファレンスを開催し、小児がんの高度な集学的治療へ積極的に取り組んだ。
- ・ 地域医療の支援については、医療機関に対して医師を派遣したほか、地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修の受け入れ、講演会やセミナーの開催などに取り組んだ。
- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や海外研修医の受入、後期研修医の臨床指導のためにオーストラリアから医師を招へいするなど教育機能の充実に努めた。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
小児重症心疾患患者に対し、24 時間を通して高度な先進的治療を提供するためハイブリッド手術室等の先進設備を整備する 加えて小児心疾患治療のリーディング施設として専門医等の育成に努める	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環器集中治療科の運用 ・ 小児循環器疾患治療スタッフの教育研修の充実 ・ 心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ・ 高度な小児心臓手術の実施 ・ ハイブリッド手術室の整備 ・ 小児用補助人工心臓の導入 	45
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ CCU機能の更なる充実 	
地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに新生児に対して高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の医療機関との連携 ・ 3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、県立病院間で連携 ・ 周産期医療従事者の技術向上のため講習会、症例検討会を実施 	16・46
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の確保 ・ 周辺病院の産科閉鎖等による、地域の周産期医療弱体化への対応 	
小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的機能に積極的に取り組む	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内の各診療科、他職種と連携し高度な集学的治療へ積極的に取り組んでいる ・ 細胞処理室の整備 	47
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立がんセンターとの連携など、診療の更なる充実 	
24 時間を通して重篤な小児救急患者の受入体制を維持・強化するとともに、救急医療全般にわたって地域の医療機関と分担して受け入れる体制を整備する	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急センター（ER）の運用 ・ 静岡県の小児三次救急を担う ・ 静岡市の二次救急輪番制への継続参加 ・ 救急隊・ドクターヘリの受け入れ ・ 全国から注目を集めるPICU（小児集中治療室） ・ 救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞 	48
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急医療、支援体制の更なる充実 	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神分野における中核的機能の発揮に努める	【今期の実績】 ・こどもの精神保健ネットワークの中核機能を担う拠点病院として連携推進事業の実施	50・51
	【次期への課題】 ・ネットワーク事業の学校等への周知（認知度の向上）	
医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上	【今期の実績】 ・新専門医制度に対応した専攻医研修医プログラムの実施 ・海外との交流（タイ、オーストラリア、ベトナム等）により、研修医の派遣・受入、指導医の招へいを実施 ・医療従事者向けの講演会・セミナー等の実施	63・72 75・89
	【次期への課題】 ・医師の多忙化を解消し、研修機会を確保 ・専任の教育担当医師の確保	
医療に関する調査及び研究 （県民への情報提供の充実）	【今期の実績】 ・定期的な公開講座等の実施 ・こどもみらいプロジェクト（静岡新聞社主催）に平成25年度から毎年参加	81・82
	【次期への課題】 ・より効果的な情報提供の検討	
医療に関する地域への支援	【今期の実績】 ・医師不足の公的病院に医師を派遣	85・86
	【次期への課題】 ・医師の確保	
災害等における医療救護 （他県等の医療救護への協力）	【今期の実績】 ・小児医療総合施設協議会の広域災害時相互支援に関する協定を締結し、災害時における小児の拠点病院としての役割を果たせるよう体制整備	102
	【次期への課題】 ・災害発生に備えた病院の機能の充実	

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(イ) 経営改善

- ・小児特定集中治療室管理料、小児補助人工心臓等の施設基準の取得。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
効率的な業務運営の実現 (診療報酬など収入の適正な確保を 図るとともに、業務の内容に応じた多 様な契約手法の活用や事務の効率化 などによるコスト削減に取り組み、効 率的な業務運営に努める)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none">・小児特定集中治療室管理料の施設基準の取得・小児補助人工心臓の施設基準の取得	
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none">・施設基準の維持・拡大	

(ウ) 環境改善

- ・既存医師宿舎の改装工事を実施した（平成 28 年度）。
- ・院内保育所の建替計画を進めた。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医療に関する技術者（医師、看護師等 医療従事者）の研修を通じた育成と質 の向上 (就労環境の向上)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none">・既存医師宿舎の改装工事を実施・院内保育所のリニューアル計画の設計、建設着 工	70・71
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none">・老朽化した医師宿舎の取扱いの検討	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																			
			3	看護提供方式見直し(固定チームナースニングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。	<p>「患者様の声」の集務</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>意見</td> <td>117</td> <td>82</td> <td>72</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>60</td> <td>49</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>28</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	意見	117	82	72	57	92	90	課題	60	49	32	37	28	30	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.2	<p>第2期(H26～30)自己評価</p> <p>H28年度以降、患者満足度が増加し、看護提供方式の見直し効果と言える。年々患者の要求が高くなり、H29年度はご意見が増加し、感謝の声が減少した。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
意見	117	82	72	57	92	90																																			
課題	60	49	32	37	28	30																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.2																																			
			4	先端医学棟建設の工事進捗管理を徹底する。先端医学棟の円滑な運用を行うための体制を整備する。	<p>総合</p> <p>手術件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,800</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,115</td> <td>10,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>HCU延床数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,372</td> <td>3,875</td> <td>7,003</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H29 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を先行して実施した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	手術件数	7,409	7,800	8,375	8,536	9,115	10,000	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	人数	2,847	2,927	3,308	3,372	3,875	7,003	<p>・H29 ・6月末に先端医学棟の建設工事が完了した。 ・7月以降、機器・什器等の購入手続きや既存棟からの移転作業を進めた。 ・8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>・先端医学棟及び関連工事について、充分なコスト削減を図った上で、当初計画どおり完了することができた。 ・機器や什器等の購入手続き、先端医学棟への移転手続きについて充分なコスト削減を図った上で遅滞なく作業を進め、当初計画どおり先端医学棟の運用を開始することができた。</p>							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
手術件数	7,409	7,800	8,375	8,536	9,115	10,000																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
人数	2,847	2,927	3,308	3,372	3,875	7,003																																			
			5	立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。	<p>総合</p> <p>・H29 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を先行して実施した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。</p>	<p>・市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28.12月に静岡市より建築許可を受けることができた。 ・設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、H29.3月に施工業者を決定した結果、当初計画より完成予定時期を約4か月間、前倒しできる見込みである。</p>																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																			
			6	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<p>・H29 H30.3末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</p> <p>・第2期中期目標期間(H26~30)</p> <table border="1"> <caption>稼働クリニカルパス件数 (単位:件)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>精神科</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	精神科	4	4	4	4	4	4	<p>クリニカルパスの通用が比較的小さい精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入し、患者の負担軽減を図るとともに計画的でわかりやすい医療の提供に努めている。</p>																																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																			
精神科	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																			
			7	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<table border="1"> <caption>稼働クリニカルパス件数 (単位:件)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>小児科</td> <td>40</td> <td>44</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	小児科	40	44	46	48	48	48	<p>クリニカルパスの積極的な導入により、稼働件数は増えている。 今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努めるとともに、計画的でわかりやすい医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしていく。</p>																																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																			
小児科	40	44	46	48	48	48																																																																																																																																																			
	I 1 (1)	各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足度の向上	8	チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通じて、質の高い医療を提供する。	<p>・H29 チーム医療に対する診療報酬 87,349千円</p> <p>・第2期中期目標期間(H26~30)</p> <p>チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。 また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている。</p> <table border="1"> <caption>チーム医療の推進(カンファレンスの開催)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内医師・感染制御科/生</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・臨床工学技師・理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>院内医師/感染制御科/生</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>検査サポートチーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>検査サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内医師/感染制御科/生</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>毎週(週1回)</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> </tr> </table> <table border="1"> <caption>チーム医療に対する診療報酬の状況 (単位:千円)</caption> <tr> <th>病院</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,290</td> <td>1,140</td> <td>1,120</td> <td>1,290</td> <td>1,345</td> <td>1,345</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>53,510</td> <td>60,200</td> <td>72,707</td> <td>74,925</td> <td>75,792</td> <td>98,531</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1,410</td> <td>2,700</td> <td>2,520</td> <td>6,320</td> <td>3,305</td> <td>3,305</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>144</td> <td>59</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>56</td> <td>6,248</td> <td>6,248</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56,120</td> <td>73,070</td> <td>76,407</td> <td>83,251</td> <td>87,349</td> <td>110,088</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>17,792</td> <td>17,240</td> <td>17,884</td> <td>19,870</td> <td>18,880</td> <td>18,880</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,225</td> <td>2,225</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>60,000</td> <td>60,646</td> <td>55,640</td> <td>38,885</td> <td>56,527</td> <td>59,530</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>83,792</td> <td>77,886</td> <td>73,124</td> <td>78,732</td> <td>81,144</td> <td>81,144</td> </tr> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査	感染防止対策チーム	院内医師・感染制御科/生	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	褥瘡対策チーム	院内医師/感染制御科/生	医師・看護	検査サポートチーム	1回/月	医師・看護	検査サポートチーム	週1回	医師・看護・精神保健福祉士等	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内医師/感染制御科/生	医師・看護・薬剤・臨床検査	こども	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護	リハビリテーション	毎週(週1回)	医師・看護・理学療法等	病院	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	栄養サポートチーム	1,290	1,140	1,120	1,290	1,345	1,345	感染防止対策チーム	53,510	60,200	72,707	74,925	75,792	98,531	褥瘡対策チーム	1,410	2,700	2,520	6,320	3,305	3,305	呼吸ケアチーム	-	-	-	144	59	59	認知症ケアチーム	-	-	-	56	6,248	6,248	緩和ケアチーム	-	-	-	-	-	-	計	56,120	73,070	76,407	83,251	87,349	110,088	感染防止対策チーム	-	-	-	303	434	300	計	-	-	-	303	434	300	感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,884	19,870	18,880	18,880	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	2,225	2,225	リハビリテーション	60,000	60,646	55,640	38,885	56,527	59,530	計	83,792	77,886	73,124	78,732	81,144	81,144	<p>A</p> <p>H28年度より呼吸ケアチーム加算、認知症ケアチーム加算の算定を開始し、チーム医療の推進が収益面からも評価されている。</p> <p>A</p> <p>・チーム医療加算合計金額 H25: 75,399千円 H28: 82,090千円 H29: 87,349千円 H30: 110,108千円(見込額)</p>
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																						
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																						
	感染防止対策チーム	院内医師・感染制御科/生	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																						
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																																																																																																																						
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士																																																																																																																																																						
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士																																																																																																																																																						
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																																																																																																																																						
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																						
	褥瘡対策チーム	院内医師/感染制御科/生	医師・看護																																																																																																																																																						
	検査サポートチーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																						
	検査サポートチーム	週1回	医師・看護・精神保健福祉士等																																																																																																																																																						
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																						
	感染防止対策チーム	院内医師/感染制御科/生	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																						
こども	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																						
	リハビリテーション	毎週(週1回)	医師・看護・理学療法等																																																																																																																																																						
病院	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																																			
栄養サポートチーム	1,290	1,140	1,120	1,290	1,345	1,345																																																																																																																																																			
感染防止対策チーム	53,510	60,200	72,707	74,925	75,792	98,531																																																																																																																																																			
褥瘡対策チーム	1,410	2,700	2,520	6,320	3,305	3,305																																																																																																																																																			
呼吸ケアチーム	-	-	-	144	59	59																																																																																																																																																			
認知症ケアチーム	-	-	-	56	6,248	6,248																																																																																																																																																			
緩和ケアチーム	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																			
計	56,120	73,070	76,407	83,251	87,349	110,088																																																																																																																																																			
感染防止対策チーム	-	-	-	303	434	300																																																																																																																																																			
計	-	-	-	303	434	300																																																																																																																																																			
感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,884	19,870	18,880	18,880																																																																																																																																																			
褥瘡対策チーム	-	-	-	-	2,225	2,225																																																																																																																																																			
リハビリテーション	60,000	60,646	55,640	38,885	56,527	59,530																																																																																																																																																			
計	83,792	77,886	73,124	78,732	81,144	81,144																																																																																																																																																			

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26~30)自己評価																																																																	
			9	<p>医療安全等及び感染対策委員会を中心に、マニキュアの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。</p>	<p>・H29 3病院で、29回の院内感染対策研修、42回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。 ・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。 医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1" data-bbox="343 1597 494 1870"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="10">集約施設数(件)</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> <th>33年度</th> <th>34年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>1,008</td> <td>12</td> <td>1,638</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>281</td> <td>3</td> <td>273</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>16</td> <td>891</td> <td>22</td> <td>2,483</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>23</td> <td>2,271</td> <td>37</td> <td>4,329</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに指定機関は2回</p>	区分	集約施設数(件)										25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	総合	4	1	0	2	0	0	4	1,008	12	1,638	ところ	0	0	0	0	0	3	281	3	273	0	子ども	0	0	3	0	3	0	16	891	22	2,483	計	4	1	3	2	3	0	23	2,271	37	4,329	<p>職員への意識づけのための研修会について、実施体制が整い出来るだけでなく、職員が参加できるように、運用や開催時間等を考えて実施している。</p>
区分	集約施設数(件)																																																																						
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度																																																													
総合	4	1	0	2	0	0	4	1,008	12	1,638																																																													
ところ	0	0	0	0	0	3	281	3	273	0																																																													
子ども	0	0	3	0	3	0	16	891	22	2,483																																																													
計	4	1	3	2	3	0	23	2,271	37	4,329																																																													
			10	<p>患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度の改善につなげる。</p>	<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。 患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="534 1597 726 1870"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>91.9</td> <td>88.2</td> <td>89.6</td> <td>93.2</td> <td>94.0</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>88.8</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>92.5</td> <td>91.3</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>89.4</td> <td>91.2</td> <td>90.9</td> <td>98.1</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	総合	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	ところ	91.9	88.2	89.6	93.2	94.0	子ども	—	—	—	—	—	入院	88.8	88.2	89.8	88.5	94.4	外来	92.5	91.3	91.9	98.4	97.5	入院	89.4	91.2	90.9	98.1	99.3	外来	—	—	—	—	—	<p>期間を通じて、全体の評価は高い満足度を得ている。また、質問事項の共通化を進め、調査の質を向上させることができた。</p>																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																																																																		
	総合	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2																																																																	
ところ	91.9	88.2	89.6	93.2	94.0																																																																		
子ども	—	—	—	—	—																																																																		
入院	88.8	88.2	89.8	88.5	94.4																																																																		
外来	92.5	91.3	91.9	98.4	97.5																																																																		
入院	89.4	91.2	90.9	98.1	99.3																																																																		
外来	—	—	—	—	—																																																																		
		I 1 (2)	11	<p>県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニックの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ ふじのくににバスターチャルメタ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進</p>	<p>紹介率・逆紹介率 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="766 1597 909 1870"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>82.1</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>89.0</td> <td>90.0</td> <td>90.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>106.7</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>161.5</td> <td>90.0</td> <td>175.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	90.0	90.6	逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	90.0	175.5	<p>紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。H25年度と比較しても向上し、かかりつけ医との連携、機能分限は着実に推進している。</p>																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		30年度																																																																
	紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	90.0	90.6																																																																
逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	90.0	175.5																																																																	
			12	<p>地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期・重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。</p>	<p>紹介率・逆紹介率 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="957 1597 1141 1870"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>49.6</td> <td>51.9</td> <td>56.2</td> <td>55.0</td> <td>56.0</td> <td>56.3</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>29.8</td> <td>27.1</td> <td>30.8</td> <td>29.6</td> <td>30.0</td> <td>29.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	紹介率	49.6	51.9	56.2	55.0	56.0	56.3	逆紹介率	29.8	27.1	30.8	29.6	30.0	29.0	<p>県立病院が担う専門医療が確実に提供するため、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進めている。今後も「よろず相談」・地域連携スタッフを中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。</p>																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		30年度																																																																
	紹介率	49.6	51.9	56.2	55.0	56.0	56.3																																																																
逆紹介率	29.8	27.1	30.8	29.6	30.0	29.0																																																																	
			13	<p>地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。</p>	<p>紹介率・逆紹介率 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="1181 1597 1299 1870"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>94.8</td> <td>91.8</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>92.0</td> <td>93.7</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>49.9</td> <td>53.2</td> <td>52.0</td> <td>52.5</td> <td>32.0</td> <td>46.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	93.7	逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	32.0	46.5	<p>他の医療機関と連携を図ることにより、期間を通じて目標値を上回っている。</p>																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		30年度																																																																
	紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	93.7																																																																
逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	32.0	46.5																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																													
			14	心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折等の地域連携クリニックが積極的に活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	<p>地域連携クリニックが <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頭部骨折</td> <td>110</td> <td>67</td> <td>67</td> <td>103</td> <td>102</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>94</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>86</td> <td>81</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>133</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>114</td> <td>109</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>131</td> <td>119</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>108</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>40</td> <td>28</td> <td>34</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>444</td> <td>632</td> <td>709</td> <td>681</td> <td>730</td> </tr> </tbody> </table> </p> <p>総合</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	脳卒中	42	38	42	68	52	42	大腿骨頭部骨折	110	67	67	103	102	90	胃がん	94	77	80	86	81	90	大腸がん	133	133	151	114	109	110	乳がん	102	95	118	131	119	200	前立腺がん	7	2	0	0	0	10	虚血性心疾患	0	0	0	96	108	142	慢性腎臓病	40	28	34	37	25	30	肺がん	0	0	0	0	0	0	計	526	444	632	709	681	730	<p>第2期中期計画期間中にも順調に開示施設を増やすことができた。今後も地域医療連携推進事業費補助金を活用し参加施設数を拡大していく。また、今まで静岡県立病院機構が全額負担していたネッソワークシステムのデータセンターの運営経費について、適正な経費負担を図った。(H28年度から利用料を徴収開始)</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																													
脳卒中	42	38	42	68	52	42																																																																													
大腿骨頭部骨折	110	67	67	103	102	90																																																																													
胃がん	94	77	80	86	81	90																																																																													
大腸がん	133	133	151	114	109	110																																																																													
乳がん	102	95	118	131	119	200																																																																													
前立腺がん	7	2	0	0	0	10																																																																													
虚血性心疾患	0	0	0	96	108	142																																																																													
慢性腎臓病	40	28	34	37	25	30																																																																													
肺がん	0	0	0	0	0	0																																																																													
計	526	444	632	709	681	730																																																																													
			15	地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	<p>ネットワーク実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>9,848</td> <td>12,424</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> <td>23,818</td> <td>29,818</td> </tr> <tr> <td>参加施設数</td> <td>175</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> <td>134</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>99</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> <td>78</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>保健薬局</td> <td>53</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>介護施設</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> </p> <p>「ふじのくに」にバーチャル・メガ・ホスピタル) について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくに」にバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期中期期間 (H26～30) ・情報の開示施設を、H27年度に1診療所、H28年度に3病院増やすことができた。 ・H27年度末の理事会において利用料規程を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28年度においては、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、静岡県立子ども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーのシステム整備を行った。 ・H29年度には、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。 	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	開示施設数	14	14	15	18	18	18	開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	29,818	参加施設数	175	208	194	141	134	134	病院	14	17	17	13	14	14	診療所	99	122	104	76	78	78	保健薬局	53	57	59	40	31	31	訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	9	介護施設	1	1	2	2	2	2	<p>第2期中期計画期間中にも順調に開示施設を増やすことができた。今後も地域医療連携推進事業費補助金を活用し参加施設数を拡大していく。また、今まで静岡県立病院機構が全額負担していたネッソワークシステムのデータセンターの運営経費について、適正な経費負担を図った。(H28年度から利用料を徴収開始)</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																													
開示施設数	14	14	15	18	18	18																																																																													
開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	29,818																																																																													
参加施設数	175	208	194	141	134	134																																																																													
病院	14	17	17	13	14	14																																																																													
診療所	99	122	104	76	78	78																																																																													
保健薬局	53	57	59	40	31	31																																																																													
訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	9																																																																													
介護施設	1	1	2	2	2	2																																																																													

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期計画		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期 (H26～30) 自己評価																																		
<p>(3) 県立病院が重点的に取り組む医療</p> <p>県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲救急医療の特殊疾患患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を目指し、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立総合病院においては、急性期医療は、精神科救急、急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図ること。県立総合病院においては、小児重症心疾患患者やハンパス/胎児/妊婦、新生児に対する高度・先進的医療の提供や小児がん/拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図ること。小児全般の高度医療を推進すること。</p> <p>さらに、県立3病院は、結核、エイズ、新型コロナウイルス等の感染症医療や難病医療、後援医療等を提供するとともに、精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症の対応など、小児重症心疾患など、患者の在宅への移行が順調に進むよう、地域の医療機関等との連携を図り、相談支援体制の充実や退院後のフォローアップの実施に努めること。</p> <p>その他、認知症や発達障害への対応など新たな課題に取り組むとともに、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に対応し、機動的な対応を行うこと。</p>	<p>(3) 県立病院が重点的に取り組む医療</p> <p>県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した確かな医療を提供している救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。</p>	<p>1 (3)</p>	<p>各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。</p>	<p>1 (3)</p>	<p>各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。</p>	<p>業務の実績 (H29・中期期間)</p>	<p>第2期 (H26～30) 自己評価</p>																																		
	<p>ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p>	<p>1 (3) ア</p>	<p>循環器疾患・がん疾患については、小児は県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p>	<p>県立総合病院について24～32に記載 県立総合病院について42及び44に記載</p>	<p>16</p>	<p>・児童の措置入院等、こどもも病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 周産期医療における搬送実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>区 分</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>こどもも総合</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	区 分	4	9	8	3	7	7	こどもも総合	10	8	14	11	15	15	総合	14	17	22	14	22	22	<p>第2期中期計画の期間を通じて、症例の発生状況により期間中の搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の心臓体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p>						
	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																		
区 分	4	9	8	3	7	7																																			
こどもも総合	10	8	14	11	15	15																																			
総合	14	17	22	14	22	22																																			
<p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p>	<p>1 (3) イ</p>	<p>周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p>	<p>周産期医療 精神科患者の身体合併症、認知症に対して、連携内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。</p>	<p>17</p>	<p>結核病棟50床について運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 難病医療の法務改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27年5月に指定を受けた。 難病指定医についても、これまでに21診療科80名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。</p> <p>総 合</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">入院患者数 (単位:人)</th> <th colspan="4">非公開</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>エイズ</td> <td>134</td> <td>14</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>108</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>結 核</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	入院患者数 (単位:人)		非公開				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	エイズ	134	14	98	119	108	108	結 核							<p>県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入体制を整えている。 エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。 難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p>								
入院患者数 (単位:人)		非公開																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
エイズ	134	14	98	119	108	108																																			
結 核																																									
<p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着手に取り組む。</p>	<p>1 (3) ウ</p>	<p>結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着手に取り組む。</p>	<p>先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>18</p>	<p>腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</p>	<p>期間を通じて、生体移植も含めた腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を継続して実施できている。</p>	<p>期間を通じて、生体移植も含めた腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を継続して実施できている。</p>																																		
<p>エ 先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>1 (3) エ</p>	<p>先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</p>	<p>18</p>	<p>・腎臓移植は、H25年度に1件、H27年度に3件、H28年度に2件を行った。</p> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>腎臓移植</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	腎臓移植	12	13	11	14	18	18	造血幹細胞移植	10	8	8	11	8	8	強角膜片作成	9	6	7	3	4	4	計	31	27	26	28	30	30	<p>期間を通じて、生体移植も含めた腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を継続して実施できている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
腎臓移植	12	13	11	14	18	18																																			
造血幹細胞移植	10	8	8	11	8	8																																			
強角膜片作成	9	6	7	3	4	4																																			
計	31	27	26	28	30	30																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26~30)自己評価																																																	
	<p>オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>19</p>	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に進める。</p>	<p>業務の実績 (H29・中期期間)</p> <p>・ H29 リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に進めた。</p> <p>・ 第2期中期期間 (H26~30) 地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。</p> <table border="1" data-bbox="335 470 558 940"> <caption>地域医療ネットワークセンター退院調整患者数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>1,377</td> <td>1,554</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>3,500</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="574 470 670 940"> <caption>退院支援関係診療報酬査定件数実績 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(目)</td> <td>603</td> <td>710</td> <td>770</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(動)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> <td>1,879</td> <td>1,879</td> </tr> <tr> <td>退院調整加算2(静)</td> <td>1,281</td> <td>1,279</td> <td>980</td> <td>600</td> <td>765</td> <td>765</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,884</td> <td>1,989</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>2,584</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	総合	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,500	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	退院調整加算(目)	603	710	770	—	—	—	退院支援加算1(動)	—	—	1,054	1,879	1,879	1,879	退院調整加算2(静)	1,281	1,279	980	600	765	765	計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,584	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に進めた。退院支援加算の査定件数が着実に増加しており、支援の効果が収益面にも現れている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
総合	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	3,500																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
退院調整加算(目)	603	710	770	—	—	—																																																	
退院支援加算1(動)	—	—	1,054	1,879	1,879	1,879																																																	
退院調整加算2(静)	1,281	1,279	980	600	765	765																																																	
計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	2,584																																																	
	<p>カ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に進める。</p>	<p>20</p>	<p>リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援した。</p> <p>・ 第2期中期目標期間 (H26~30) 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <p>また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加え、精神医療福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。</p> <table border="1" data-bbox="829 470 925 940"> <caption>リハビリテーション活動実施件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神作業療法</td> <td>8,500</td> <td>8,187</td> <td>7,790</td> <td>7,694</td> <td>5,992</td> <td>5,992</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>4,553</td> <td>4,100</td> <td>4,239</td> <td>4,448</td> <td>5,935</td> <td>5,935</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,053</td> <td>12,287</td> <td>11,448</td> <td>12,097</td> <td>11,947</td> <td>11,947</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="941 470 1037 940"> <caption>訪問看護実施件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,098</td> <td>2,705</td> <td>2,883</td> <td>3,322</td> <td>4,068</td> <td>4,068</td> </tr> <tr> <td>(175施設訪問)</td> <td>391</td> <td>394</td> <td>410</td> <td>411</td> <td>410</td> <td>410</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	精神作業療法	8,500	8,187	7,790	7,694	5,992	5,992	デイケア	4,553	4,100	4,239	4,448	5,935	5,935	計	13,053	12,287	11,448	12,097	11,947	11,947	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	訪問看護実施件数	2,098	2,705	2,883	3,322	4,068	4,068	(175施設訪問)	391	394	410	411	410	410	<p>リハビリテーションや訪問看護等の相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に積極的に取り組んだ。</p> <p>また訪問看護については、25年度13,000件ほどの水準を維持している。</p> <p>また訪問看護については、25年度2,698件から4,000件を超え、大幅に増加している。</p>	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
精神作業療法	8,500	8,187	7,790	7,694	5,992	5,992																																																	
デイケア	4,553	4,100	4,239	4,448	5,935	5,935																																																	
計	13,053	12,287	11,448	12,097	11,947	11,947																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
訪問看護実施件数	2,098	2,705	2,883	3,322	4,068	4,068																																																	
(175施設訪問)	391	394	410	411	410	410																																																	
	<p>カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>21</p>	<p>言語聴覚業務における学校理場所との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他</p>	<p>業務の実績 (H29・中期期間)</p> <p>・ H29 言語聴覚業務、理学療法、作業療法において、退院調整を積極的に進めた。</p> <table border="1" data-bbox="1053 470 1149 940"> <caption>リハ実施実績 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,617</td> <td>20,414</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>18,458</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,972</td> <td>7,317</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>6,658</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,883</td> <td>8,180</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> <td>7,906</td> <td>7,970</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,472</td> <td>35,911</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>33,086</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	18,944	18,458	作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,656	6,658	言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,906	7,970	計	32,472	35,911	31,971	32,170	32,906	33,086	<p>H30年度からリハビリテーション医1名を採用し、対応する予定である。漸増状況にあるリハビリ需要に対応した。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	18,944	18,458																																																	
作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,656	6,658																																																	
言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,906	7,970																																																	
計	32,472	35,911	31,971	32,170	32,906	33,086																																																	
	<p>カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>22</p>	<p>遺伝子診療科の受診患者数は順調に増加している。</p> <p>・ 第2期中期目標期間 (H26~30) H27年度に院内の閑居する部署間の調整を経て遺伝子診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。</p> <table border="1" data-bbox="1404 470 1500 940"> <caption>遺伝子診療科受診患者数 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診患者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>21</td> <td>39</td> <td>—</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	受診患者数	—	—	21	39	—	90	<p>H27年度から遺伝子診療科を開設した。開始時から年々患者数が増加傾向にある。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。</p>																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
受診患者数	—	—	21	39	—	90																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価	説明																																										
	<p>キ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。</p>	<p>1 1 (3) キ</p>	23	<p>鑑別診断や周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。</p>	<p>鑑別診断や周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。</p> <table border="1" data-bbox="300 470 367 739"> <caption>鑑別診断や周辺症状と身体合併症に対する急性期治療、専門医療相談等の実施状況 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>137</td> <td>144</td> <td>131</td> <td>133</td> <td>147</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table> <p>認知症ケア加算</p> <table border="1" data-bbox="367 470 430 739"> <caption>認知症ケア加算 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>10,494</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	実施件数	137	144	131	133	147	147	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	算定件数	—	—	—	803	10,494	10,494	A	<p>社会的ニーズの高まりに対応し、ケアチームの整備に努めた結果H29年1月の認知症ケア加算施設基準取得以降、算定件数は順調に推移しており、今後も増加が見込まれる。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
実施件数	137	144	131	133	147	147																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
算定件数	—	—	—	803	10,494	10,494																																											
			24	<p>・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 ・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。</p>	<p>総合</p> <table border="1" data-bbox="300 470 367 739"> <caption>認知症患者 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症患者</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>若狭こころと物忘れ外来</p> <table border="1" data-bbox="367 470 430 739"> <caption>若狭こころと物忘れ外来 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>70</td> <td>65</td> <td>70</td> <td>50</td> <td>41</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>発達小児科診療実績</p> <table border="1" data-bbox="430 470 494 739"> <caption>発達小児科診療実績 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>2,755</td> <td>2,960</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>3,663</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	認知症患者	20	10	6	12	11	11	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	外来延患者数	70	65	70	50	41	41	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	外来延患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	3,663	A	<p>認知症については、精神科救急・急性期医療体制を確保し急性期治療を実施することともに、老年期特有の専門医療相談等の実施に取り組んだ。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
認知症患者	20	10	6	12	11	11																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
外来延患者数	70	65	70	50	41	41																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
外来延患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	3,663																																											
			25	<p>発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについては継続して取り組む。</p>	<p>総合</p> <table border="1" data-bbox="300 470 367 739"> <caption>発達小児科診療実績 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>2,755</td> <td>2,960</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>3,663</td> </tr> </tbody> </table> <p>発達障害児を持つ保護者を対象に、H29年6月～11月の間、計10回、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 ・中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	外来延患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	3,663	A	<p>期間中 (H27年度) に専門医師を採用し、診療体制を強化した。</p>																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
外来延患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	3,663																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価 説明																																								
	<p>ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。</p>	<p>1 ク (3)</p> <p>高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。</p>	<p>26</p>	<p>中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。</p>	<p>・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適合に対応するため、防排煙設備の一部について、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。 ・H27から進んでいた先端医学棟(5階建 延床面積約20,569.6㎡)の建設工事が、H29年6月末に完了した。H29年7月に竣工式を挙げて、H29年9月に稼働した。 ・第1立体駐車場がH29年3月に着工し、H30年10月末の工事完了に向けて施工中である。 ・ことも病院本館の老朽化に対応するため、本館リニューアル工事の実施設計を行っている。H30年度末の工事完了を目指して、今後速やかに着工する予定。 ・院内保育所の建築は、平成30年度上半期に建設を着工し、平成30年度末に竣工予定である。 ・先端医学棟の閉棟に伴い、必要な機器等を整備した。 ・第1期リニューアル工事の施工業者が決定し、準備期間を経て工事を開始した。年度末に医事課の移転が完了し、その他の工事も施工中、又は順次施工予定である。 ・北東2丁目の医師宿舎建設工事に係る設計作業が完了し、工事を発注した。H29年10月に着工し、H30年10月の工事完了に向けて施工中である</p>	<p>・総合病院では、先端医学棟の建設や電子カルテの更新を完了し、本館耐震改修及び立体駐車場の建設に着手するなど、大規模事業に積極的に取り組んだ。 ・こちらの医療センターでは、初めて電子カルテを導入するとともに、空調設備など各種設備の改修を行った。 ・ことも病院では、新外来棟の増築や既存棟改修、電子カルテの更新を完了し、H30年度には本館リニューアル工事や院内保育所の建築等に取り組み予定である。 ・機器類についても、総合病院の先端医学棟関係を中心に、各病院において情勢に応じて必要な整備を図った。 ・全体として、計画の適切な見直しを図りつつ、着実に施設及び機器等の整備を行うことができた。 ・医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等を充分に充実させることができた。</p>																																								
施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円)																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,479</td> <td>31</td> <td>1,141</td> <td>1,863</td> <td>5,136</td> <td>5,783</td> <td>2,555</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>1,205</td> <td>32</td> <td>119</td> <td>623</td> <td>194</td> <td>3</td> <td>251</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>2,260</td> <td>95</td> <td>525</td> <td>436</td> <td>494</td> <td>265</td> <td>540</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,944</td> <td>158</td> <td>1,785</td> <td>2,922</td> <td>5,824</td> <td>6,051</td> <td>3,346</td> </tr> </tbody> </table>					区分	計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783	2,555	子ども	1,205	32	119	623	194	3	251	子ども	2,260	95	525	436	494	265	540	合計	19,944	158	1,785	2,922	5,824	6,051	3,346		
区分	計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																							
総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783	2,555																																							
子ども	1,205	32	119	623	194	3	251																																							
子ども	2,260	95	525	436	494	265	540																																							
合計	19,944	158	1,785	2,922	5,824	6,051	3,346																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>計画</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10,101</td> <td>1,292</td> <td>890</td> <td>587</td> <td>566</td> <td>4,322</td> <td>3,728</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>179</td> <td>21</td> <td>71</td> <td>46</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>2,098</td> <td>289</td> <td>439</td> <td>314</td> <td>279</td> <td>506</td> <td>561</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>12,378</td> <td>1,602</td> <td>1,409</td> <td>947</td> <td>850</td> <td>4,838</td> <td>4,337</td> </tr> </tbody> </table>					区分	計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	総合	10,101	1,292	890	587	566	4,322	3,728	子ども	179	21	71	46	5	10	48	子ども	2,098	289	439	314	279	506	561	合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838	4,337		
区分	計画	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																							
総合	10,101	1,292	890	587	566	4,322	3,728																																							
子ども	179	21	71	46	5	10	48																																							
子ども	2,098	289	439	314	279	506	561																																							
合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838	4,337																																							

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価 説明																											
	<p>ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。</p>	<p>ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。</p>	-	-	-	-																											
	<p>(ア) 県立総合病院</p> <p>・高性心筋梗塞・脳卒中等の循環器疾患において、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実を図る。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するための地域の医療機関との連携を強化する。</p>	<p>I I (3) ケ (ア)</p> <p>県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 720床 (670床) 一般病床 620床 結核病床 100床 (50床) 外来患者 440, 640人 入院患者 236, 301人</p>	-	<p>・ H29 ・ 6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現した。(75,790円/日→118,680円/日等) 増収額：128百万円 ・ 第2期中期期間 (H26～30) ・ H27 ・ 循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制（看護配置2：1）で10床稼働している。 ・ 心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもⅡからⅠへのランクアップを実現した（増収額480万円/年） ・ H28 ・ 循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して12床へ拡大</p> <p>CCU/ICU稼働率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>96.1</td> <td>100.5</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>113.1</td> <td>113.1</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>717</td> <td>758</td> <td>771</td> <td>722</td> <td>780</td> <td>780</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.1</td> <td>10.1</td> <td>10.3</td> <td>11.5</td> <td>13.6</td> <td>13.6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	113.1	113.1	入室患者数(人)	717	758	771	722	780	780	1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.6	13.6	<p>冠状動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。H28年7月に病床数を10床から12床に増床し、H29年6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現した。入室患者数、稼働率ともに増加している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																											
稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	113.1	113.1																											
入室患者数(人)	717	758	771	722	780	780																											
1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.6	13.6																											
			27	<p>冠状動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。</p> <p>総 合</p>	A																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																										
			28	<p>脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p> <p>総合</p>	<p>・ H29 ・ 先端医学種にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制を整備された。 ・ 超急性期脳卒中加算は前年度比1.8倍に増加している。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ 脳卒中の地域連携クリニックを運用している。 ・ 脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科)</p> <p>脳卒中地域連携クリニック通患者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>32</td> <td>50</td> </tr> </table> <p>超急性期脳卒中加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>30</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	算定件数	38	42	42	68	32	50	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	算定件数	11	11	11	15	15	30	<p>先端医学種にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が大幅に充実した。脳卒中の地域連携クリニックの運用患者数は毎年40～50件前後で安定的に推移している。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																										
算定件数	38	42	42	68	32	50																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																										
算定件数	11	11	11	15	15	30																																										
			29	<p>生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p> <p>総合</p>	<p>・ H29 ・ 糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後の診療枠を追加する予定である。 ・ 指導に必要な検査(尿アルブミン値)の実施率が低い ・ 検査実施率の向上を検討する。 ・ 末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会(下脱救済チーム)を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。</p> <p>糖尿病透析予防指導管理料 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>末梢動脈疾患 (PAD) 検査 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>AB I</td> <td>1,123</td> <td>1,446</td> <td>1,725</td> <td>1,831</td> <td>2,096</td> <td>2,100</td> </tr> <tr> <td>S P P</td> <td>171</td> <td>143</td> <td>258</td> <td>220</td> <td>230</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>T下肢動脈超音波</td> <td>73</td> <td>111</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>268</td> <td>270</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	算定件数	44	44	24	37	132	100	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	AB I	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	2,100	S P P	171	143	258	220	230	240	T下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	270	<p>循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。糖尿病透析予防管理料については、28年度までは着実に件数が増加している。29年度は、30年度に向けて他科や「そらまめ外来」などでも指導できるよう体制整備を行った。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																										
算定件数	44	44	24	37	132	100																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																										
AB I	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	2,100																																										
S P P	171	143	258	220	230	240																																										
T下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	270																																										

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	第2期(H26～30)自己評価																																																				
中期目標	業務の実績(H29・中期期間)	行動計画	No.	年度計画																																																	
	<p>第2期中期期間(H26～30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端医学種にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、稼動を開始した。 ・TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)67件/年 ・第2期中期期間(H26～30) ・H26年10月からハイブリッド手術室の稼動を開始した。 ・TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設基準を取得し、H27年度は4例実施した。H28年度は28例実施した。 <p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室稼働件数</td> <td>-</td> <td>77</td> <td>217</td> <td>163</td> <td>475</td> <td>475</td> </tr> <tr> <td>TAVI稼働数(以上の内訳)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>25</td> <td>67</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>ハイブリッド手術室稼働率(%)</td> <td>-</td> <td>50</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>91</td> <td>91</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>329</td> <td>506</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>447</td> <td>447</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>94</td> <td>43</td> <td>189</td> <td>229</td> <td>256</td> <td>256</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	ハイブリッド手術室稼働件数	-	77	217	163	475	475	TAVI稼働数(以上の内訳)	-	-	4	25	67	67	ハイブリッド手術室稼働率(%)	-	50	81	107	91	91	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	PCI	329	506	515	517	447	447	アブレーション	94	43	189	229	256	256	<p>ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。</p> <p>総合</p>	30	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)																																															
ハイブリッド手術室稼働件数	-	77	217	163	475	475																																															
TAVI稼働数(以上の内訳)	-	-	4	25	67	67																																															
ハイブリッド手術室稼働率(%)	-	50	81	107	91	91																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)																																															
PCI	329	506	515	517	447	447																																															
アブレーション	94	43	189	229	256	256																																															
	<p>業務の実績(H26～30)自己評価</p> <p>説明</p> <p>H26年10月のハイブリッド手術室運用開始以降、使用件数は増加傾向で、H28年度には東部地域の患者を集患するため東部地域の医師会に広報活動を実施した。H29年度は先端医学種にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、高度専門医療を提供した。ハイブリッド手術件数も順調に増加している。</p>																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26~30)自己評価																																																																																																														
	<p>・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備するとともに、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供している。</p>	<p>がん患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供、化学療法、手術、放射線治療、化学療法、緩和ケア等の連携による緩和ケアの推進</p> <p>①先端医療施設、手術、放射線治療、化学療法、緩和ケア等の連携による緩和ケアの推進 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用</p>	<p>31</p> <p>がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。</p> <p>総合</p>	<p>がん手術件数 (がん登録と同様の病名ICDコードにて対象患者を抽出) (単位：件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>158</td> <td>149</td> <td>135</td> <td>136</td> <td>163</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>246</td> <td>262</td> <td>310</td> <td>264</td> <td>287</td> <td>290</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>87</td> <td>110</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>115</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>138</td> <td>156</td> <td>149</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>285</td> <td>320</td> <td>334</td> <td>343</td> <td>352</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,028</td> <td>1,107</td> <td>999</td> <td>1,131</td> <td>1,210</td> <td>1,220</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>1,906</td> <td>2,035</td> <td>2,031</td> <td>2,155</td> <td>2,235</td> <td>2,240</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>6,887</td> <td>7,230</td> <td>7,753</td> <td>7,764</td> <td>8,406</td> <td>8,410</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>27.8</td> <td>28.7</td> <td>26.9</td> <td>27.5</td> <td>26.6</td> <td>26.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合はそれぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>内訳(29年度) (単位：件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>がん種別</th> <th>がん種別割合</th> <th>がん種別割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>7.1</td> <td>7.1</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>11.4</td> <td>11.4</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>3.8</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>4.8</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>15.7</td> <td>15.7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>57.5</td> <td>57.5</td> </tr> <tr> <td>がん種別割合</td> <td>12.118</td> <td>12.118</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15,077</td> <td>15,545</td> <td>16,384</td> <td>16,330</td> <td>15,795</td> <td>16,000</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	胃がん	158	149	135	136	163	170	大腸がん	246	262	310	264	287	290	肝がん	87	110	135	133	115	120	肺がん	110	114	138	156	149	150	乳がん	285	320	334	343	352	360	その他	1,028	1,107	999	1,131	1,210	1,220	がん手術合計	1,906	2,035	2,031	2,155	2,235	2,240	手術全体	6,887	7,230	7,753	7,764	8,406	8,410	がん手術割合	27.8	28.7	26.9	27.5	26.6	26.6	がん種別	がん種別割合	がん種別割合	胃がん	7.1	7.1	大腸がん	11.4	11.4	肝がん	3.8	3.8	肺がん	4.8	4.8	乳がん	15.7	15.7	その他	57.5	57.5	がん種別割合	12.118	12.118	手術全体	3.6	3.6	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	件数	15,077	15,545	16,384	16,330	15,795	16,000	<p>がん手術件数及び放射線治療件数は、H25年度に比して、着実に増加している。H29年度は先端医学棟1階に最新鋭の大型放射線機器に対応できる放射線治療室4室を整備した。加えて先端医学棟手術室にロボット支援手術室や内視鏡手術室を整備するなど高度ながん手術が安全に行われている。10月からより並行稼動が可能となり、手術件数、放射線治療とも十分に提供できている。</p> <p>また、H26～29において、麻酔科医6名、消化器内科4名を増員し、体制強化に努めている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																														
胃がん	158	149	135	136	163	170																																																																																																														
大腸がん	246	262	310	264	287	290																																																																																																														
肝がん	87	110	135	133	115	120																																																																																																														
肺がん	110	114	138	156	149	150																																																																																																														
乳がん	285	320	334	343	352	360																																																																																																														
その他	1,028	1,107	999	1,131	1,210	1,220																																																																																																														
がん手術合計	1,906	2,035	2,031	2,155	2,235	2,240																																																																																																														
手術全体	6,887	7,230	7,753	7,764	8,406	8,410																																																																																																														
がん手術割合	27.8	28.7	26.9	27.5	26.6	26.6																																																																																																														
がん種別	がん種別割合	がん種別割合																																																																																																																		
胃がん	7.1	7.1																																																																																																																		
大腸がん	11.4	11.4																																																																																																																		
肝がん	3.8	3.8																																																																																																																		
肺がん	4.8	4.8																																																																																																																		
乳がん	15.7	15.7																																																																																																																		
その他	57.5	57.5																																																																																																																		
がん種別割合	12.118	12.118																																																																																																																		
手術全体	3.6	3.6																																																																																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																														
件数	15,077	15,545	16,384	16,330	15,795	16,000																																																																																																														

中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	第2期(H26~30)自己評価														
中期目標				32	<p>外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。</p> <p>総合</p>	<p>・ H29 ・ 外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 ・ 第2期中期期間(H26~30) ・ 外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 ・ H26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。 ・ 先端医療棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。</p> <p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>9,733</td> <td>9,963</td> <td>10,508</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>11,700</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	件数	9,733	9,963	10,508	11,171	11,680	11,700	<p>外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。H28には認定薬剤師の配置を44名から6名へ増員し、オプジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。また、院内改修に伴う外来化学療法センターの移転計画も着実に進んでいる。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込															
件数	9,733	9,963	10,508	11,171	11,680	11,700															
				33	<p>地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。</p> <p>総合</p>	<p>・ H29 ・ 緩和ケアチーム介入症例数 H29年度実績：389件 (5 E病棟がん患者260件、5 E病棟病棟非がん患者1件、5 E病棟外がん患者114件、5 E病棟外非がん患者14件) ・ 第2期中期目標期間(H26~30) 緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>389</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	症例数	426	381	403	372	389	<p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。</p>		
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																
症例数	426	381	403	372	389																
				34	<p>がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。</p> <p>総合</p>	<p>がん相談件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>5,396</td> <td>5,900</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	5,396	5,900	<p>H25に比して、相談に対応する部署、看護師の増加によりH26~29のがん相談件数が大幅に増加した。特にH28年度からはがん相談体制を強化し、がん関連の各種認定看護師、がん看護専門看護師が相談に当たっていることに加えて、入院センター、地域連携室の看護師もがん相談に対応している。相談件数が増加している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込															
がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	5,396	5,900															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																	
			35	<p>ロボット支援手術の件数増加に努める</p> <p>総 合</p>	<p>・ H29 ・ 臨床研究 ・ 胃がんロボット支援手術の適用を拡大した。 ・ ロボット支援手術（消化器外科領域 大腸・胃）30件 ・ 10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2 台体制となり並行稼働が可能で運用体制を整備した。</p> <p>・ 第2期中期期間 (H26～30) ・ 手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領 域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用してい る。</p> <p>・ 臨床研究 H28 ロボット支援手術（消化器外科領域）9 件実施 H29 ロボット支援手術（消化器外科領域）30件実施</p> <p>・ 適応疾患の拡大 ・ H26 前立腺がん、子宮頸がんにダヴィンチを用いた手術 を開始 ・ H27 膀胱がんにも適用を拡大した。 ・ H28 大腸がんにも適用を拡大した。</p> <p>H28、10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由 診療開始 H28、12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の 先進医療開始（全国5番目、大学病院以外では全国初、県 内初）</p> <p>ダヴィンチ使用手術件数 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="790 481 901 929"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>-</td> <td>31</td> <td>77</td> <td>102</td> <td>122</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>36</td> <td>81</td> <td>112</td> <td>152</td> <td>152</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダヴィンチ使用術者数 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="917 481 989 929"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	泌尿器科	-	31	77	102	122	122	婦人科	-	5	4	1	-	-	消化器外科	-	-	-	9	30	30	計	0	36	81	112	152	152	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	人数	-	5	6	6	6	6	<p>H26年度から前立腺がん、子宮頸がん んにダヴィンチを用いた手術を開始し 拡大した。H28年度は100件を超える手 術を実施し、著実に増加している。 また、自由診療、先進医療についても 随時拡大を行った。H28年10月にはダ ヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術 の自由診療を開始した。加えて12月に はダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子 宮全摘術を全国5番目（大学病院以外 では全国初）に先進医療として実施し ている。H29年度は胃がんにも適用が拡 大し、ロボット支援手術は150件を超え 増加している。</p>
診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
泌尿器科	-	31	77	102	122	122																																																	
婦人科	-	5	4	1	-	-																																																	
消化器外科	-	-	-	9	30	30																																																	
計	0	36	81	112	152	152																																																	
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
人数	-	5	6	6	6	6																																																	
	<p>・救命救急センターとして一 層の充実を図るとともに、広 範囲熱傷等の特殊疾病患 者に対応するため、高度救 命救急センターを目指した 整備を図る。</p>	<p>重篤な救急患者に対応する 高度救命救急センターの運 営 ①高度救命救急センター運 営に必要な専門スタッフの 確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制 の充実</p>	36	<p>医師の増員を図るとともに、 働きやすさに配慮した変則勤 務が可能で運用を維持する。</p> <p>総 合</p>	<p>・ H29 ・ H29年度は救急科医師7名体制で稼働</p> <p>・ 第2期中期目標期間 (H26～30) ・ 医師の変則勤務の試行を継続し、当面明けに休める制度 を整えた。 ・ H25年7月から、救急科医師5名体制（うち専門医2名） により、救命救急センターが稼働した。 ・ H27年3月から高度救命救急センターに指定 ・ H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名 体制で稼働</p> <p>救命救急センターとして一層の充実 を図るため、救急委員会を中心にして 効果的な制度設計を検討し救急患者の 受入体制を維持しており、中期目標が 十分達成されている。</p>	<p>救命救急センターとして一層の充実 を図るため、救急委員会を中心にして 効果的な制度設計を検討し救急患者の 受入体制を維持しており、中期目標が 十分達成されている。</p>																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																													
					<p>救急車受入率 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>当番日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>94.6</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td>94.9</td> </tr> </table> <p>特殊救急患者受入数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>539</td> </tr> <tr> <td>急性中風</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>776</td> </tr> </table> <p>ドクターカー出動状況 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>・ドクターカー協定書締結状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26 静岡市 ・H27 富士市、富士宮市 ・H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町 ・H29 志太消防本部と協議中 (焼津市、藤枝市) 	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	94.6	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	94.9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	重症熱傷	4	7	14	12	12	12	重症外傷	249	293	368	446	539	539	急性中風	2	5	18	18	18	18	病院外心停止	127	202	210	207	207	207	計	382	507	610	683	776	776	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	件数	2	4	4	7	10	10	<p>救急車受入率、ドクターカーの出動件数、共に年々増加している。厚生労働省が実施する「救命救急センターの充実段階評価」では、最も良い評価であるA評価の取得を継続しており、評価点数においてはH25年度は64点であり、H26年度は77点、H27年度は78点、H28年度は81点と、順調にスコアを伸ばしている。ドクターカーの運用に近隣の市町村とドクターカーの運用に関する協定を締結した。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	94.6																																																																													
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	94.9																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
重症熱傷	4	7	14	12	12	12																																																																													
重症外傷	249	293	368	446	539	539																																																																													
急性中風	2	5	18	18	18	18																																																																													
病院外心停止	127	202	210	207	207	207																																																																													
計	382	507	610	683	776	776																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
件数	2	4	4	7	10	10																																																																													
	<p>(イ) 県立こころの医療センター</p>	<p>県立こころの医療センター 診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供することも、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び心因性精神医療の充実を図る。県民に提供する医療<業務の予定量></p> <p>病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 38,942人 入院患者 55,956人</p>	<p>37</p>	<p>総合</p> <p>・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。</p>	<p>業務の実績 (H29・中期期間)</p> <p>救急車受入率 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>当番日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>94.6</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td>94.9</td> </tr> </table> <p>特殊救急患者受入数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>539</td> </tr> <tr> <td>急性中風</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>776</td> </tr> </table> <p>ドクターカー出動状況 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>・ドクターカー協定書締結状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26 静岡市 ・H27 富士市、富士宮市 ・H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町 ・H29 志太消防本部と協議中 (焼津市、藤枝市) 	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	94.6	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	94.9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	重症熱傷	4	7	14	12	12	12	重症外傷	249	293	368	446	539	539	急性中風	2	5	18	18	18	18	病院外心停止	127	202	210	207	207	207	計	382	507	610	683	776	776	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	件数	2	4	4	7	10	10	<p>救急車受入率、ドクターカーの出動件数、共に年々増加している。厚生労働省が実施する「救命救急センターの充実段階評価」では、最も良い評価であるA評価の取得を継続しており、評価点数においてはH25年度は64点であり、H26年度は77点、H27年度は78点、H28年度は81点と、順調にスコアを伸ばしている。ドクターカーの運用に近隣の市町村とドクターカーの運用に関する協定を締結した。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	94.6																																																																													
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	94.9																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
重症熱傷	4	7	14	12	12	12																																																																													
重症外傷	249	293	368	446	539	539																																																																													
急性中風	2	5	18	18	18	18																																																																													
病院外心停止	127	202	210	207	207	207																																																																													
計	382	507	610	683	776	776																																																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
件数	2	4	4	7	10	10																																																																													
	<p>① 県立こころの医療センター</p>	<p>精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備</p>	<p>38</p>	<p>24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受け入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるような支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>業務の実績 (H29・中期期間)</p> <p>精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>全区間</td> <td>2,462</td> <td>2,465</td> <td>4,174</td> <td>4,956</td> <td>3,020</td> <td>3,020</td> </tr> <tr> <td>うち期間外</td> <td>1,967</td> <td>2,049</td> <td>3,174</td> <td>2,682</td> <td>2,965</td> <td>2,965</td> </tr> </table> <p>・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	全区間	2,462	2,465	4,174	4,956	3,020	3,020	うち期間外	1,967	2,049	3,174	2,682	2,965	2,965	<p>期間を通じて、24時間を通して精神科救急医療相談に応じるとともに、救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるような支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備に努めた。期間中、相談件数は多く、今後この状態を維持するため、一層の周知を図る。</p>																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																													
全区間	2,462	2,465	4,174	4,956	3,020	3,020																																																																													
うち期間外	1,967	2,049	3,174	2,682	2,965	2,965																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																								
			39	<p>新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。</p>	<p>早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2）、「新規急性期治療病棟（北2）」における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内入院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。</p> <table border="1" data-bbox="319 481 478 929"> <caption>新規退院率 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>71.4</td> <td>70.3</td> <td>71.8</td> <td>70.2</td> <td>70.4</td> <td>70.3</td> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>82.1</td> <td>83.0</td> <td>83.4</td> <td>83.1</td> <td>84.1</td> <td>84.1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="319 817 478 929"> <caption>新規急性期入院患者率 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>82.0</td> <td>77.5</td> <td>69.9</td> <td>81.2</td> <td>72.0</td> <td>72.9</td> </tr> <tr> <td>救急</td> <td>82.2</td> <td>82.4</td> <td>85.3</td> <td>82.3</td> <td>85.4</td> <td>87.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	救急	71.4	70.3	71.8	70.2	70.4	70.3	救急	82.1	83.0	83.4	83.1	84.1	84.1	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	救急	82.0	77.5	69.9	81.2	72.0	72.9	救急	82.2	82.4	85.3	82.3	85.4	87.9	<p>期間を通じて、24時間を通して救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう精神科救急・急性期医療の提供に努めた。今後も、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)																																																								
救急	71.4	70.3	71.8	70.2	70.4	70.3																																																								
救急	82.1	83.0	83.4	83.1	84.1	84.1																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)																																																								
救急	82.0	77.5	69.9	81.2	72.0	72.9																																																								
救急	82.2	82.4	85.3	82.3	85.4	87.9																																																								
	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に取り組む。</p>	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組</p>	40	<p>薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施する。</p>	<p>・ H29 H21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。 ・ 第2期中期目標期間（H26～30）</p> <table border="1" data-bbox="670 481 861 929"> <caption>m-ECT実施数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ件数</td> <td>578</td> <td>599</td> <td>596</td> <td>605</td> <td>693</td> <td>693</td> </tr> <tr> <td>男患者</td> <td>56</td> <td>68</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>女患者</td> <td>522</td> <td>531</td> <td>543</td> <td>551</td> <td>633</td> <td>633</td> </tr> <tr> <td>（静岡市）</td> <td>36</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>41</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>東御区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>西御区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	延べ件数	578	599	596	605	693	693	男患者	56	68	53	54	60	60	女患者	522	531	543	551	633	633	（静岡市）	36	50	32	41	40	40	東御区	1	3	4	2	3	3	西御区	1	3	1	1	3	3	その他	1	1	1	0	0	0	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療であるm-ECTの治療に積極的に取り組んだ。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)																																																								
延べ件数	578	599	596	605	693	693																																																								
男患者	56	68	53	54	60	60																																																								
女患者	522	531	543	551	633	633																																																								
（静岡市）	36	50	32	41	40	40																																																								
東御区	1	3	4	2	3	3																																																								
西御区	1	3	1	1	3	3																																																								
その他	1	1	1	0	0	0																																																								
			41	<p>先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。</p>	<p>・ クロザピンによる治療体制が整い、H22年4月27日、クロザピン適正使用委員会において、CPMS（クロザピン患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。 ・ 静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 ・ H23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、これまでに44名の患者に投与している。現在35名に対して継続投与中である。</p> <table border="1" data-bbox="1117 481 1197 929"> <caption>クロザピン投与患者数 ※3月末日現在患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	患者数	9	19	23	30	35	35	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療である先端薬物療法（クロザピン投与）に積極的に取り組んだ。 クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。</p>																																										
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)																																																								
患者数	9	19	23	30	35	35																																																								

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																			
			42	<p>心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。</p>	<p>・ H29 入院・外来患者心理教室 8 クール開催 参加者延230名 (H30. 3. 31現在)</p> <p>・ 第2 期中期目標期間 (H26～30) H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施した。</p> <p>心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めた。</p> <table border="1" data-bbox="494 481 558 929"> <caption>心理教育参加者数 (単位:人)</caption> <tr><th>項目</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>参加者数</td><td>51</td><td>51</td><td>172</td><td>206</td><td>201</td><td>201</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="574 481 638 929"> <caption>心理教育研修会参加者数 (単位:人)</caption> <tr><th>項目</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>参加者数</td><td>41</td><td>42</td><td>66</td><td>142</td><td>151</td><td>151</td></tr> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	参加者数	51	51	172	206	201	201	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	参加者数	41	42	66	142	151	151	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対して、薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理教育に積極的に取り組んだ。</p>							
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
参加者数	51	51	172	206	201	201																																			
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
参加者数	41	42	66	142	151	151																																			
	<p>・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。</p>	<p>○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築</p>	43	<p>在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア (ACT) チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。</p>	<p>・ H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施した。</p> <p>H22年2月の支援開始以来延べ21名の支援活動を実施し、うち9名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、H29は、外来患者9名への支援を継続している。</p> <table border="1" data-bbox="877 481 989 929"> <caption>ACT継続状況</caption> <tr><th></th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>精糖</td><td>6A</td><td>6A</td><td>5A</td><td>7A</td><td>9A</td><td>9A</td></tr> <tr><td>血糖</td><td>2A</td><td>1A</td><td>2A</td><td>0A</td><td>0A</td><td>0A</td></tr> <tr><td>補償</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>入費</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	精糖	6A	6A	5A	7A	9A	9A	血糖	2A	1A	2A	0A	0A	0A	補償							入費							<p>期間を通じ、入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築に努めた。</p> <p>当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、報酬確保のための評価につながるような働きかけが必要である。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
精糖	6A	6A	5A	7A	9A	9A																																			
血糖	2A	1A	2A	0A	0A	0A																																			
補償																																									
入費																																									
	<p>・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与</p>	44	<p>医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。</p>	<p>・ H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。</p> <p>・ 増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降はほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。</p> <table border="1" data-bbox="1165 481 1244 929"> <caption>医療観察法(強制入院) (単位:床・%)</caption> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>床数(床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr> <tr><td>利用率(%)</td><td>94.1</td><td>97.3</td><td>97.4</td><td>98.1</td><td>98.9</td><td>98.9</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	床数(床)	12	12	12	12	12	12	利用率(%)	94.1	97.3	97.4	98.1	98.9	98.9	<p>「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たした。</p> <p>今後も、よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
床数(床)	12	12	12	12	12	12																																			
利用率(%)	94.1	97.3	97.4	98.1	98.9	98.9																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価 説明																																																																						
	(ウ)県立こども病院	<p>I 1 (3) ケ (ウ)</p> <p>県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院と して、一般医療機関では対 応困難な小児患者に対する 高度・専門医療やハイリス ク妊婦に対する周産期医療 を提供する。 県民に提供する医療<業務 の予定量> 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 105,234人 入院患者 81,038人</p>	-	-	-	-																																																																						
	<p>I 1 (3) ケ (ウ)</p> <p>・小児重症心疾患患者に対 し、24時間を通して高度な 先進的治療を提供するた め、ハイブリッド手術室等 の先進設備を整備する。加 えて、小児心疾患治療のリ ディング施設として専門医等 の育成に努める。</p>	<p>I 1 (3) ケ (ウ)</p> <p>小児重症心疾患患者に対 し、24時間を通して高度な 専門的治療を提供する体制 の充実及び小児心疾患治療 の先進的な施設としての専 門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ24 時間対応による専門的治療 の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療ス タッフに対する教育体制の 充実や小児集中治療室 (PICU) 新生児集中治療 室(NICU)及び循環器集中治 療室(CCU)の相互研修の実 施を通じた治療レベルの向 上による循環器センターの 機能強化 ③小児用補助人工心臓装置 の活用 ④心エコー画像のリアルタ イム遠隔診断の実施 ⑤ハイブリッド手術の適用 拡大</p>	45	<p>①心臓血管外科、循環器科の 連携による専門治療と、術後 の集中治療を行うCCUを加 えた循環器センターの体制を 維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小 児集中治療科(PICU)と 共同でカンファレンスを実施 し、より研修効果をあげ、治 療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を 図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を 継続実施する。 ⑤ハイブリッド手術の小児へ の適用症例拡大を検討する。</p>	<p>・H28年に循環器病棟に重症症患者対応病室を設置し、順 調に運用されている。 ・H29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では 全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、現在稼働 中である。</p> <p>(単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr> <td>CCU稼働率</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>3,307</td> <td>3,553</td> <td>3,745</td> <td>3,297</td> <td>2,839</td> <td>3,368</td> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>90.6</td> <td>87.2</td> <td>85.3</td> <td>87.4</td> <td>80.5</td> <td>86.2</td> </tr> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>121</td> <td>133</td> <td>156</td> <td>170</td> <td>200</td> <td>230</td> </tr> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </table>	CCU稼働率	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	区分	3,307	3,553	3,745	3,297	2,839	3,368	入院患者数	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	86.2	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	実施件数	121	133	156	170	200	230	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	件数	-	6	12	12	6	9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	7	9	<p>H26年度にハイブリッド手術室を設 置し、H成28年度には小児用補助人工 心臓の導入と循環器治療の更なる充実を 図った。</p>
CCU稼働率	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																						
区分	3,307	3,553	3,745	3,297	2,839	3,368																																																																						
入院患者数	90.6	87.2	85.3	87.4	80.5	86.2																																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																						
実施件数	121	133	156	170	200	230																																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																						
件数	-	6	12	12	6	9																																																																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																						
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																						
症例数	15	9	7	5	7	9																																																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																																																														
	<p>・地域の医療機関と連携し、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。</p>	<p>地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに、新生児に対して、高度な先進的治療を提供する体制の拡充</p> <p>①すべてのハイリスク出産に対応できるシステム作り</p> <p>②先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備</p> <p>③新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施</p>	46	<p>①地域の産科医療機関との前・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じ産科医の診断能力向上を図る。</p> <p>②最新式の超音波診断装置を導入する。</p> <p>③必要に応じてNICU内の手術を継続実施する。</p>	<p>地域医療機関向け研修会開催実績</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>研修会回回数</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>331</td> <td>961</td> <td>743</td> <td>637</td> <td>439</td> <td>622</td> </tr> </table> <p>NICU診察実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院症例数</td> <td>5,444</td> <td>5,410</td> <td>5,927</td> <td>6,411</td> <td>6,311</td> <td>5,901</td> </tr> <tr> <td>CCU診察実績 (単位：人、%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院症例数</td> <td>5,014</td> <td>4,863</td> <td>4,679</td> <td>4,855</td> <td>4,536</td> <td>4,739</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>76.3</td> <td>74.0</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>69.0</td> <td>72.8</td> </tr> </table> <p>NICU診察実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院症例数</td> <td>2,095</td> <td>2,087</td> <td>2,098</td> <td>2,007</td> <td>2,068</td> <td>2,071</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.7</td> <td>95.3</td> <td>95.5</td> <td>91.6</td> <td>94.4</td> <td>94.5</td> </tr> </table> <p>新生児出生体重別入院患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>体重(g)</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>500未満</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>500-1,000</td> <td>33</td> <td>48</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>28</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>1,000-1,500</td> <td>48</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>22</td> <td>28</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>166</td> <td>148</td> <td>160</td> <td>144</td> <td>143</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>242</td> <td>225</td> <td>208</td> <td>202</td> <td>226</td> </tr> </table> <p>・NICU内の手術は、H25年度に3件、H26年度に3件を行った。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	研修会回回数	7	17	14	10	9	11	参加者数	331	961	743	637	439	622	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	5,901	CCU診察実績 (単位：人、%)							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	4,739	病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	72.8	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院症例数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	2,071	病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	94.5	体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	500未満	3	2	3	7	3	4	500-1,000	33	48	26	36	28	34	1,000-1,500	48	44	36	22	28	36	1,500以上	166	148	160	144	143	152	合計	250	242	225	208	202	226	<p>説明</p> <p>地域の医療機関との連携のもと、超低体重出生児治療など県内の新生児医療の充実と寄与できた。NICU稼働病床数の増加により入院症患者数は増加し高度な専門的治療を提供できた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
研修会回回数	7	17	14	10	9	11																																																																																																																														
参加者数	331	961	743	637	439	622																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
入院症例数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,311	5,901																																																																																																																														
CCU診察実績 (単位：人、%)																																																																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
入院症例数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,536	4,739																																																																																																																														
病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	69.0	72.8																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
入院症例数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,068	2,071																																																																																																																														
病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	94.4	94.5																																																																																																																														
体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
500未満	3	2	3	7	3	4																																																																																																																														
500-1,000	33	48	26	36	28	34																																																																																																																														
1,000-1,500	48	44	36	22	28	36																																																																																																																														
1,500以上	166	148	160	144	143	152																																																																																																																														
合計	250	242	225	208	202	226																																																																																																																														
	<p>・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組</p> <p>①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンを受入れるなど、静岡小児がん拠点病院としての機能強化</p> <p>②院内がん登録の推進</p> <p>③県立静岡がんセンターとの連携強化</p>	47	<p>①②静岡小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血対応する。</p> <p>①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。</p> <p>③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。</p>	<p>血液腫瘍科患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>7,032</td> <td>6,947</td> <td>9,613</td> <td>8,301</td> <td>7,977</td> <td>8,539</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,645</td> <td>3,396</td> <td>3,533</td> <td>3,691</td> <td>3,711</td> <td>3,676</td> </tr> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>小児がん登録件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>登録件数</td> <td>12</td> <td>57</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>38</td> </tr> </table> <p>・H28年度から、概ね2ヶ月に1回、県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施している。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	8,539	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	3,676	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	骨髄移植	9	9	4	4	2	6	臍帯血	1	1	0	2	1	1	自家末梢血	2	2	8	5	7	5	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	10	13	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	登録件数	12	57	46	61	58	38	<p>説明</p> <p>県内の小児がん治療の中心病院として、県立がんセンターとの連携など診療の更なる充実を図った。</p>																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	8,539																																																																																																																														
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	3,676																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
骨髄移植	9	9	4	4	2	6																																																																																																																														
臍帯血	1	1	0	2	1	1																																																																																																																														
自家末梢血	2	2	8	5	7	5																																																																																																																														
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																																																																														
計	13	13	13	11	10	13																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																														
登録件数	12	57	46	61	58	38																																																																																																																														

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画
	<p>・24時間を通して重篤な小児救命救急患者の受入体制を維持・強化するとともに、救急医療全般にわたって地域の医療機関と分担して受け入れる体制を整備する。</p>	<p>24時間を通して重篤な小児救命救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメデカイカルコントール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実</p>	<p>48</p>	<p>①PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ②小児救命救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療の充実を図る。 ③院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成に努める。</p>
<p>・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。</p>	<p>子ども こども こども</p>	<p>子ども こども こども</p>	<p>49</p>	<p>②地域の医療機関・消防機関で構成されるメデカイカルコントールにも、PICUの主権により、救急医療・救急（消防）業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。</p>
			<p>50</p>	<p>①県内の児童精神科医療の中核機関としての治療の充実と、必要に応じ、身体疾患を有する患者に対し当該担当科と連携して治療する。</p>
<p>業務の実績 (H29・中期期間)</p>				
<p>第2期(H26～30)自己評価</p>				
<p>説明</p>				
<p>H25年6月に小児救命救急センター（ER）を開院し、小児救命救急センターとともにあらゆる救急患者を受け入れ、地域で即座に受け入れる救急医療体制の補完にも寄与してきた。</p>				
<p>継続的に救急隊員への研修などを実施し、小児救命救急センターとしてメデカイカルコントール体制整備への協力をし、小児救急医療の質の向上を図った。</p>				
<p>県内児童精神の中核病院として、診療を行うとともに関係機関との連携、支援を行った。 救急医療の受診が増大し、外来診療の負担増となっているため、発達小児科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。</p>				

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																										
<p>中期目標</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>51</p>	<p>厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県内の拠点病院として参加する。</p>	<p>事業を行っている全国18都府県23拠点病院の一つとして参加した。</p> <table border="1" data-bbox="287 470 510 940"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>19(2)</td> <td>22(2)</td> <td>20(2)</td> <td>21(2)</td> <td>22(2)</td> <td>24(3)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>18(3)</td> <td>18(2)</td> <td>22(2)</td> <td>19(2)</td> <td>21(2)</td> <td>20(2)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37(5)</td> <td>40(4)</td> <td>42(4)</td> <td>40(4)</td> <td>43(4)</td> <td>44(5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()うち自治医科大学出身者</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)	2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)	<p>A</p> <p>子どもの心の診療ネットワークには全国18都府県の拠点病院の一つとして厚生労働省の事業開始当初から参画し、継続して中核的役割を果たした。</p>														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																										
1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)																																										
2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)																																										
計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)																																										
<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>52</p>	<p>児童精神科医の育成に努める</p>	<p>有期職員医師を1名採用し(H25年度から延べ8名)、専門的な児童精神科医を育成している。</p> <table border="1" data-bbox="670 470 734 940"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	採用人数	1	1	1	1	1	1	<p>A</p> <p>期間中継続して、児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行っている。</p>																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																										
採用人数	1	1	1	1	1	1																																										
<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>53</p>	<p>業務運営に必要な人材の確保に努める。</p>	<p>H25年より看護師の紹介業者を通じた採用を行い、H27年度より人材確保対策本部を設置し、キャリアパス隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学資金貸付制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、看護師必要数はほぼ確保された。</p>	<p>A</p> <p>H25年より看護師の紹介業者を通じた採用を行い、H27年度より人材確保対策本部を設置し、キャリアパス隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学資金貸付制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、看護師必要数はほぼ確保された。</p>																																										
<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>第2</p> <p>2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上</p>	<p>1</p> <p>2</p>	<p>54</p>	<p>研修医の確保に努める。</p>	<p>初期臨床研修医数</p> <table border="1" data-bbox="1021 470 1117 940"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>19(2)</td> <td>22(2)</td> <td>20(2)</td> <td>21(2)</td> <td>22(2)</td> <td>24(3)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>18(3)</td> <td>18(2)</td> <td>22(2)</td> <td>19(2)</td> <td>21(2)</td> <td>20(2)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37(5)</td> <td>40(4)</td> <td>42(4)</td> <td>40(4)</td> <td>43(4)</td> <td>44(5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()うち自治医科大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数</p> <table border="1" data-bbox="1133 470 1212 940"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>42</td> <td>50</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>60</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)	2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	42	50	54	58	60	45	<p>A</p> <p>研修による育成を通じ、後期研修医の確保ができた。へも対応し、H30年度開始に向け、H29年度にプログラムを作成した。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																										
1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	24(3)																																										
2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)																																										
計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	44(5)																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																										
人数	42	50	54	58	60	45																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																																																																																																														
					<p>後期研修医数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	14	15	16	16	16	14	<p>第2期(H26～30)自己評価</p> <p>説明</p> <p>後期研修医は30年度を除き期間中定員とおり受け入れた。 新専門医制度へも対応し、H29年度から新プログラムで研修を行っている。</p>																																																																																																																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																														
人数	14	15	16	16	16	14																																																																																																																																																																														
			55	<p>即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。</p>	<p>・H29 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じて採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコマディカルにおいてアソシエイトの公募試験を開始した。</p> <p>・第2期中期目標期間 (H26～30) 正規職員の確保状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>226</td> <td>230</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,179</td> <td>1,221</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>289</td> <td>304</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,801</td> <td>1,869</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>123</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>992</td> <td>1,021</td> <td>1,080</td> <td>1,138</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>113</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>162</td> <td>167</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>419</td> <td>452</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>619</td> <td>652</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	医師	226	230	241	245	260	歯科医師	2	5	4	5	4	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	医療技術	289	304	327	320	315	事務	105	109	118	119	118	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	看護師	1	1	1	2	2	医療技術	1	1	1	2	2	事務	26	27	28	27	25	計	28	29	31	29	27	歯科医師	123	127	135	144	157	歯科医師	1	3	3	4	3	看護師	646	654	678	748	804	医療技術	184	196	215	211	208	事務	38	41	49	51	52	計	992	1,021	1,080	1,138	1,224	医師	12	13	12	12	12	歯科医師	1	1	1	1	1	看護師	113	114	110	114	115	医療技術	24	26	26	26	25	事務	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	医師	91	90	94	89	91	歯科医師	1	1	1	1	1	看護師	419	452	461	453	449	医療技術	80	81	85	83	81	事務	28	28	28	28	27	計	619	652	669	654	650	<p>A</p> <p>医師、看護師をはじめ必要な人材を確保することができており、特に看護師については確保対策を進めた結果、25年度と比較し約200名の増員を達成し、稼働病床の増加につなげることができた。</p>
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																															
医師	226	230	241	245	260																																																																																																																																																																															
歯科医師	2	5	4	5	4																																																																																																																																																																															
看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370																																																																																																																																																																															
医療技術	289	304	327	320	315																																																																																																																																																																															
事務	105	109	118	119	118																																																																																																																																																																															
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067																																																																																																																																																																															
看護師	1	1	1	2	2																																																																																																																																																																															
医療技術	1	1	1	2	2																																																																																																																																																																															
事務	26	27	28	27	25																																																																																																																																																																															
計	28	29	31	29	27																																																																																																																																																																															
歯科医師	123	127	135	144	157																																																																																																																																																																															
歯科医師	1	3	3	4	3																																																																																																																																																																															
看護師	646	654	678	748	804																																																																																																																																																																															
医療技術	184	196	215	211	208																																																																																																																																																																															
事務	38	41	49	51	52																																																																																																																																																																															
計	992	1,021	1,080	1,138	1,224																																																																																																																																																																															
医師	12	13	12	12	12																																																																																																																																																																															
歯科医師	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																															
看護師	113	114	110	114	115																																																																																																																																																																															
医療技術	24	26	26	26	25																																																																																																																																																																															
事務	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																															
計	162	167	161	165	166																																																																																																																																																																															
医師	91	90	94	89	91																																																																																																																																																																															
歯科医師	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																															
看護師	419	452	461	453	449																																																																																																																																																																															
医療技術	80	81	85	83	81																																																																																																																																																																															
事務	28	28	28	28	27																																																																																																																																																																															
計	619	652	669	654	650																																																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	行動計画	No.	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価 説明																																																																																																																																
				56	<p>・H29 合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。</p> <p>看護師生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ナース専科 (静岡)</td><td>200</td><td>157</td><td>47</td></tr> <tr><td>ナースナビ (浜松)</td><td>204</td><td>45</td><td>0</td></tr> <tr><td>..... (新居)</td><td>296</td><td>29</td><td>0</td></tr> <tr><td>..... (徳島)</td><td>272</td><td>18</td><td>0</td></tr> <tr><td>キャリアパス看護 (東京)</td><td>319</td><td>32</td><td>0</td></tr> <tr><td>マイナビ (静岡)</td><td>22</td><td>22</td><td>7</td></tr> <tr><td>..... (沼津)</td><td>25</td><td>25</td><td>1</td></tr> <tr><td>..... (浜松)</td><td>40</td><td>32</td><td>3</td></tr> <tr><td>業者計</td><td>1,378</td><td>360</td><td>58</td></tr> <tr><td>静岡国立大学</td><td>132</td><td>83</td><td>41</td></tr> <tr><td>常葉大学</td><td>266</td><td>78</td><td>22</td></tr> <tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>50</td><td>16</td><td>10</td></tr> <tr><td>順天堂大学</td><td>120</td><td>46</td><td>2</td></tr> <tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>34</td><td>34</td><td>0</td></tr> <tr><td>東部看護専門学校</td><td>240</td><td>109</td><td>11</td></tr> <tr><td>養成校計</td><td>842</td><td>366</td><td>86</td></tr> <tr><td>計</td><td>2,220</td><td>726</td><td>144</td></tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>看護師生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>来場者数</td><td>970</td><td>810</td><td>949</td><td>1,012</td><td>1,378</td><td>1,378</td><td>6,937</td></tr> <tr><td>養成校</td><td>550</td><td>569</td><td>639</td><td>764</td><td>842</td><td>842</td><td>4,106</td></tr> <tr><td>訪問者数</td><td>236</td><td>257</td><td>254</td><td>200</td><td>360</td><td>360</td><td>1,667</td></tr> <tr><td>養成校</td><td>198</td><td>198</td><td>198</td><td>286</td><td>286</td><td>286</td><td>1,366</td></tr> <tr><td>業者数</td><td>不明</td><td>不明</td><td>不明</td><td>不明</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>養成校</td><td>16</td><td>17</td><td>17</td><td>17</td><td>48</td><td>86</td><td>201</td></tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科 (静岡)	200	157	47	ナースナビ (浜松)	204	45	0 (新居)	296	29	0 (徳島)	272	18	0	キャリアパス看護 (東京)	319	32	0	マイナビ (静岡)	22	22	7 (沼津)	25	25	1 (浜松)	40	32	3	業者計	1,378	360	58	静岡国立大学	132	83	41	常葉大学	266	78	22	聖隷クリストファー大学	50	16	10	順天堂大学	120	46	2	静岡市立看護専門学校	34	34	0	東部看護専門学校	240	109	11	養成校計	842	366	86	計	2,220	726	144	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計	来場者数	970	810	949	1,012	1,378	1,378	6,937	養成校	550	569	639	764	842	842	4,106	訪問者数	236	257	254	200	360	360	1,667	養成校	198	198	198	286	286	286	1,366	業者数	不明	不明	不明	不明	3	3	3	養成校	16	17	17	17	48	86	201	<p>県内・県外会場の合同就職説明会、養成校主催就職説明会の参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談をすることで、必要な職員の確保が出来た。</p> <p>A</p>
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																			
ナース専科 (静岡)	200	157	47																																																																																																																																			
ナースナビ (浜松)	204	45	0																																																																																																																																			
..... (新居)	296	29	0																																																																																																																																			
..... (徳島)	272	18	0																																																																																																																																			
キャリアパス看護 (東京)	319	32	0																																																																																																																																			
マイナビ (静岡)	22	22	7																																																																																																																																			
..... (沼津)	25	25	1																																																																																																																																			
..... (浜松)	40	32	3																																																																																																																																			
業者計	1,378	360	58																																																																																																																																			
静岡国立大学	132	83	41																																																																																																																																			
常葉大学	266	78	22																																																																																																																																			
聖隷クリストファー大学	50	16	10																																																																																																																																			
順天堂大学	120	46	2																																																																																																																																			
静岡市立看護専門学校	34	34	0																																																																																																																																			
東部看護専門学校	240	109	11																																																																																																																																			
養成校計	842	366	86																																																																																																																																			
計	2,220	726	144																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計																																																																																																																															
来場者数	970	810	949	1,012	1,378	1,378	6,937																																																																																																																															
養成校	550	569	639	764	842	842	4,106																																																																																																																															
訪問者数	236	257	254	200	360	360	1,667																																																																																																																															
養成校	198	198	198	286	286	286	1,366																																																																																																																															
業者数	不明	不明	不明	不明	3	3	3																																																																																																																															
養成校	16	17	17	17	48	86	201																																																																																																																															
			看護師修学資金制度の積極的 広報をし、活用推進により、 更なる看護師確保を目指す。	57	<p>看護師修学資金の状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>決定</td><td>73</td><td>74</td><td>123</td><td>88</td><td>114</td><td>60</td><td>532</td></tr> <tr><td>継続</td><td>52</td><td>80</td><td>99</td><td>126</td><td>163</td><td>178</td><td>698</td></tr> <tr><td>取崩</td><td>▲6</td><td>▲12</td><td>▲11</td><td>▲5</td><td>▲9</td><td>▲8</td><td>▲51</td></tr> <tr><td>貸付計</td><td>119</td><td>142</td><td>211</td><td>209</td><td>268</td><td>230</td><td>1,179</td></tr> <tr><td>採用</td><td>38</td><td>33</td><td>76</td><td>40</td><td>63</td><td>-</td><td>250</td></tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計	決定	73	74	123	88	114	60	532	継続	52	80	99	126	163	178	698	取崩	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲8	▲51	貸付計	119	142	211	209	268	230	1,179	採用	38	33	76	40	63	-	250	<p>一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。</p> <p>A</p>																																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計																																																																																																																															
決定	73	74	123	88	114	60	532																																																																																																																															
継続	52	80	99	126	163	178	698																																																																																																																															
取崩	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲8	▲51																																																																																																																															
貸付計	119	142	211	209	268	230	1,179																																																																																																																															
採用	38	33	76	40	63	-	250																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価 説明																																																																						
			58	看護部幹部や事務部幹部による養成校の訪問を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 看護師確保キャラバン隊が県外42校を訪問した。 ・第2期中期目標期間 (H26～H30) 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。 ・H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部(院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等)が、県外養成校を訪問した。 <table border="1"> <caption>看護師確保キャラバン隊の状況 (単位:校)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>山形県</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>新潟県</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>石川県</td><td>11</td><td>0</td><td>8</td><td>19</td></tr> <tr><td>福井県</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>山梨県</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>11</td></tr> <tr><td>長野県</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>11</td></tr> <tr><td>岐阜県</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>26</td></tr> <tr><td>三重県</td><td>10</td><td>5</td><td>4</td><td>19</td></tr> <tr><td>徳島県</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>沖縄県</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>20</td></tr> <tr><td>計</td><td>63</td><td>47</td><td>42</td><td>152</td></tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	計	山形県	10	0	0	10	新潟県	0	10	0	10	石川県	11	0	8	19	福井県	0	0	1	1	山梨県	4	2	5	11	長野県	6	4	1	11	岐阜県	10	7	9	26	三重県	10	5	4	19	徳島県	0	0	7	7	佐賀県	7	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	11	沖縄県	5	8	7	20	計	63	47	42	152	<p>期間を通じ、看護師確保担当看護部長や看護師確保キャラバン隊が看護師養成校を訪問することで大きな成果を上げ看護師が充足した。</p> <p>A</p>
	27年度	28年度	29年度	計																																																																								
山形県	10	0	0	10																																																																								
新潟県	0	10	0	10																																																																								
石川県	11	0	8	19																																																																								
福井県	0	0	1	1																																																																								
山梨県	4	2	5	11																																																																								
長野県	6	4	1	11																																																																								
岐阜県	10	7	9	26																																																																								
三重県	10	5	4	19																																																																								
徳島県	0	0	7	7																																																																								
佐賀県	7	0	0	7																																																																								
鹿児島県	0	11	0	11																																																																								
沖縄県	5	8	7	20																																																																								
計	63	47	42	152																																																																								
			59	看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ(平成29年度) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総合</td><td>18</td><td>218</td><td>20</td><td>498</td><td>229</td><td>983</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>14</td><td>3</td><td>4</td><td>230</td><td>18</td><td>269</td></tr> <tr><td>こども</td><td>44</td><td>17</td><td>156</td><td>102</td><td>40</td><td>359</td></tr> <tr><td>計</td><td>76</td><td>238</td><td>180</td><td>830</td><td>287</td><td>1,611</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 ・総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。 ・こころでは、昨年度に引き続き、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。 ・こどもも病院では、看護師確保用DVDをリニューアルした。 	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	18	218	20	498	229	983	こころ	14	3	4	230	18	269	こども	44	17	156	102	40	359	計	76	238	180	830	287	1,611	<p>研修の受入について、門戸を広げた受入に努め、より多くの実習受入を実現するための戦略を図っている。</p> <p>A</p>																																			
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																						
総合	18	218	20	498	229	983																																																																						
こころ	14	3	4	230	18	269																																																																						
こども	44	17	156	102	40	359																																																																						
計	76	238	180	830	287	1,611																																																																						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																																																																			
<p>(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>医師の卒後臨床研修や専門研修の受入れ体制の充実・強化を図り、優秀な医師の確保及び育成に努めること。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの看護師の養成に協力すること。</p>	<p>(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>県立病院が核となり、特色のある研修プログラムの開発とその推進体制を強化し、研修医にとって魅力あるプログラムを提供する。また、県立総合病院のメデイカセンター整備を行い、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努めるとともに、実習生の受入れや職員の派遣等、国内外の医療機関との交流を進める。</p>	<p>I 医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>2 ①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実</p> <p>(1) ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実</p> <p>③県立総合病院メデイカセンター研修の充実、複用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次、二次救命処置トレーニングの実施</p> <p>④県立子ども病院ラーニングセンターの運用</p> <p>⑤国際交流の推進</p> <p>⑥認定看護師等の資格取得への支援</p> <p>⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供</p> <p>⑧コマメィカルの研修</p>	<p>60</p> <p>○医師 ・医師の技術力の向上を指し、海外研修等を奨励する。強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確保し、充足させる。</p>	<p>・H29 (総合) ・医師や研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。 ・海外での学会発表実績 23件 (H30. 3 末時点) ・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した</p> <table border="1" data-bbox="351 481 662 963"> <thead> <tr> <th colspan="2">(総合) 海外研修の実績 (29年度)</th> <th colspan="2">(単位:人)</th> </tr> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米国内分泌学会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療アソシエーション</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>米国胸部外科学会</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>米国胸部基礎医学会</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>米国がん治療学会</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小児泌尿器科学会</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>欧州内分泌学会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>欧州内分泌学会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヨーロッパ産科産科学術大会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>欧州糖尿病学会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際コンチネンツ会議</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>欧州心臓胸科学会</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>米国心臓胸科学会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋呼吸器学会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋呼吸器学会</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>米国がん治療学会</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>米国がん治療学会2018がムンボシウム</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C S T アジア太平洋2018</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際研修医UCLA研修</td> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>海外での学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="670 481 877 963"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区 分</td> <td>5</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>32</td> <td>23</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総 合</td> <td>20</td> <td>32</td> <td>45</td> <td>36</td> <td>33</td> <td>33</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。 ・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している</p> <table border="1" data-bbox="885 548 1021 963"> <thead> <tr> <th colspan="2">海外研修の主な実績 (平成29年度)</th> <th colspan="2">(単位:人)</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>臨床研修医(UCLA研修)</td> <td>15</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>アメリカ心エコー学会議</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>アメリカ小児科国際シンポジウム</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	(総合) 海外研修の実績 (29年度)		(単位:人)		内 容	人数	29年度	30年度	米国内分泌学会	2			医療アソシエーション	2			米国胸部外科学会	3			米国胸部基礎医学会	3			米国がん治療学会	4			小児泌尿器科学会	4			欧州内分泌学会	2			欧州内分泌学会	2			ヨーロッパ産科産科学術大会	2			欧州糖尿病学会	2			国際コンチネンツ会議	1			欧州心臓胸科学会	1			米国心臓胸科学会	2			アジア太平洋呼吸器学会	2			アジア太平洋呼吸器学会	3			米国がん治療学会	1			米国がん治療学会2018がムンボシウム	1			C S T アジア太平洋2018	1			国際研修医UCLA研修	15			計	44			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	見込	区 分	5	27	26	32	23	30		総 合	20	32	45	36	33	33		海外研修の主な実績 (平成29年度)		(単位:人)		区 分	内 容	人数	人数	総 合	臨床研修医(UCLA研修)	15	6	こころ	アメリカ心エコー学会議	0	1	こども	アメリカ小児科国際シンポジウム	1	3	<p>継続的にメデイカスキルアップセンターが利用され、医師、看護師等の技術の修得、向上が行われている。H29年9月の先端医学種の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p>
(総合) 海外研修の実績 (29年度)		(単位:人)																																																																																																																																							
内 容	人数	29年度	30年度																																																																																																																																						
米国内分泌学会	2																																																																																																																																								
医療アソシエーション	2																																																																																																																																								
米国胸部外科学会	3																																																																																																																																								
米国胸部基礎医学会	3																																																																																																																																								
米国がん治療学会	4																																																																																																																																								
小児泌尿器科学会	4																																																																																																																																								
欧州内分泌学会	2																																																																																																																																								
欧州内分泌学会	2																																																																																																																																								
ヨーロッパ産科産科学術大会	2																																																																																																																																								
欧州糖尿病学会	2																																																																																																																																								
国際コンチネンツ会議	1																																																																																																																																								
欧州心臓胸科学会	1																																																																																																																																								
米国心臓胸科学会	2																																																																																																																																								
アジア太平洋呼吸器学会	2																																																																																																																																								
アジア太平洋呼吸器学会	3																																																																																																																																								
米国がん治療学会	1																																																																																																																																								
米国がん治療学会2018がムンボシウム	1																																																																																																																																								
C S T アジア太平洋2018	1																																																																																																																																								
国際研修医UCLA研修	15																																																																																																																																								
計	44																																																																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	見込																																																																																																																																		
区 分	5	27	26	32	23	30																																																																																																																																			
総 合	20	32	45	36	33	33																																																																																																																																			
海外研修の主な実績 (平成29年度)		(単位:人)																																																																																																																																							
区 分	内 容	人数	人数																																																																																																																																						
総 合	臨床研修医(UCLA研修)	15	6																																																																																																																																						
こころ	アメリカ心エコー学会議	0	1																																																																																																																																						
こども	アメリカ小児科国際シンポジウム	1	3																																																																																																																																						
			<p>61</p> <p>メデイカスキルアップセンターの活用を図る。</p>	<p>・H29 ・先端医学種の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。 ・新たに各種の高度なシミュレーター、模擬精神科、講義室を整備した。 ・静岡県が推進する「ふじのくにバーチャルメデイカカルレッズ」に対応。 ・第2期中期期間(H26～30) ・外部利用について、使用規程、料金規程を作成し、運用開始した。</p>	<p>継続的にメデイカスキルアップセンターが利用され、医師、看護師等の技術の修得、向上が行われている。H29年9月の先端医学種の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p>																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																												
			62	ラーニングセンターの活用の促進を図る。	<p>後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で行っている。</p>	<p>H27年度に旧手術室を改修してラーニングルームを開設し、医師、看護師の実習研修に役立てた。H30年度から運用検討部会にて、活用促進及び計画的な運用手順の検討を進める。</p>																												
			63	海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講習等の派遣・受入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・研修等派遣</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>視察・研修受入</td> <td>65</td> <td>36</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>58</td> <td>58</td> </tr> </tbody> </table>			(単位：人)						25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	視察・研修等派遣	16	9	13	33	34	34	視察・研修受入	65	36	39	44	58	58	<p>浙江省からの研修生を受入れ、継続的に交流した。開端医学棟関連や、浙江省友好提携周年事業などの行事により積極的な交流を行った。</p>
		(単位：人)																																
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																											
視察・研修等派遣	16	9	13	33	34	34																												
視察・研修受入	65	36	39	44	58	58																												
			64	<p>看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。</p> <p>・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。</p>	<p>認定看護師取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門</th> <th>認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table>			(単位：人)		区分	人数	専門	認定領域	認定看護師	7	1	精神科	認定看護師	1	1	感染管理	<p>ウエストメッド小児病院とは、医師の招聘や子ども病院から後期研修医を派遣するなど継続的に交流した。浙江大学医学院附属児童病院とは幹部が相互に訪問し、友好協力協定を締結するなど積極的に交流した。</p> <p>総合病院では、期間を通じて、感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を配置し、組織を積極的に活動することができた。</p> <p>この間の医療センターでは、H29年度に感染管理認定看護師1名を増員し、看護師の資質向上に努めた。</p> <p>認定看護師では、H29年度には小児救急看護の認定看護師を1名増員した。</p>												
		(単位：人)																																
区分	人数	専門	認定領域																															
認定看護師	7	1	精神科																															
認定看護師	1	1	感染管理																															
					<p>認定看護師取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門</th> <th>認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table>			(単位：人)		区分	人数	専門	認定領域	認定看護師	7	1	精神科	認定看護師	1	1	感染管理	<p>総合病院では、期間を通じて、感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を配置し、組織を積極的に活動することができた。</p> <p>この間の医療センターでは、H29年度に感染管理認定看護師1名を増員し、看護師の資質向上に努めた。</p> <p>認定看護師では、H29年度には小児救急看護の認定看護師を1名増員した。</p>												
		(単位：人)																																
区分	人数	専門	認定領域																															
認定看護師	7	1	精神科																															
認定看護師	1	1	感染管理																															
					<p>認定看護師取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門</th> <th>認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table>			(単位：人)		区分	人数	専門	認定領域	認定看護師	7	1	精神科	認定看護師	1	1	感染管理	<p>総合病院では、期間を通じて、感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を配置し、組織を積極的に活動することができた。</p> <p>この間の医療センターでは、H29年度に感染管理認定看護師1名を増員し、看護師の資質向上に努めた。</p> <p>認定看護師では、H29年度には小児救急看護の認定看護師を1名増員した。</p>												
		(単位：人)																																
区分	人数	専門	認定領域																															
認定看護師	7	1	精神科																															
認定看護師	1	1	感染管理																															

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																						
<p>(2)就労環境の向上</p> <p>優秀な医療従事者を確保するため、働きやすさ、また、働きがいのある病院となるよう、ワークライフ・バランスの確保や職員の精神面を含めた健康保持に配慮し、就労環境の向上を図ること。</p>	<p>(2)就労環境の向上</p> <p>仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など職員が働きやすく、また、働きがいを実感できるような環境づくりを進める。</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ・職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ・職員が働きやすい施設等の環境整備 ・県立こども病院内保育所建替え 	<p>65</p>	<p>臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。</p>	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (平成29年度) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>18</td> <td>218</td> <td>20</td> <td>498</td> <td>229</td> <td>983</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>14</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>230</td> <td>18</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>17</td> <td>156</td> <td>102</td> <td>40</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>76</td> <td>238</td> <td>180</td> <td>830</td> <td>287</td> <td>1,611</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	18	218	20	498	229	983	こども	14	3	4	230	18	269	こども	44	17	156	102	40	359	計	76	238	180	830	287	1,611	<p>先端医学棟2階に教育研修部を設置し、メデイカルスキルアップセンターを整備した。臨床現場に即した、より実践的な研修が提供できた。</p>																																			
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																						
総合	18	218	20	498	229	983																																																																						
こども	14	3	4	230	18	269																																																																						
こども	44	17	156	102	40	359																																																																						
計	76	238	180	830	287	1,611																																																																						
<p>(2)就労環境の向上</p> <p>優秀な医療従事者を確保するため、働きやすさ、また、働きがいのある病院となるよう、ワークライフ・バランスの確保や職員の精神面を含めた健康保持に配慮し、就労環境の向上を図ること。</p>	<p>(2)就労環境の向上</p> <p>仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など職員が働きやすく、また、働きがいを実感できるような環境づくりを進める。</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ・職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ・職員が働きやすい施設等の環境整備 ・県立こども病院内保育所建替え 	<p>66</p>	<p>研修体系プログラムの充実を図る。</p>	<p>職員研修参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>147</td> <td>144</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>新任監督者研修</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>40</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>フシリテーション講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	新規採用職員研修	147	144	145	136	126	127	新規採用職員研修	24	26	15	10	4	6	新規採用職員研修	14	14	28	25	18	22	新任監督者研修	6	17	-	34	28	25	コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30	プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-	フシリテーション講座	-	-	-	23	20	20	コーチング講座	32	32	28	32	18	32	メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	25	<p>階層別、業務に必要なスキル等を身につける専門研修について毎年研修内容の見直しを行ない、研修体制プログラムを整備した。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																						
新規採用職員研修	147	144	145	136	126	127																																																																						
新規採用職員研修	24	26	15	10	4	6																																																																						
新規採用職員研修	14	14	28	25	18	22																																																																						
新任監督者研修	6	17	-	34	28	25																																																																						
コミュニケーション講座	17	23	21	20	24	30																																																																						
プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-	-																																																																						
フシリテーション講座	-	-	-	23	20	20																																																																						
コーチング講座	32	32	28	32	18	32																																																																						
メンタルサポート講座	23	20	21	25	25	25																																																																						
<p>(2)就労環境の向上</p> <p>優秀な医療従事者を確保するため、働きやすさ、また、働きがいのある病院となるよう、ワークライフ・バランスの確保や職員の精神面を含めた健康保持に配慮し、就労環境の向上を図ること。</p>	<p>(2)就労環境の向上</p> <p>仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など職員が働きやすく、また、働きがいを実感できるような環境づくりを進める。</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ・職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ・職員が働きやすい施設等の環境整備 ・県立こども病院内保育所建替え 	<p>67</p>	<p>柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。</p>	<p>法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、期間を通じて看護師の2交代制病棟は拡大し、夜勤専従の試行を行うことで、多様な雇用形態への取組を進めた。アソシエイト制度の創設により、職員採用において柔軟な発用が可能となり、人材確保が図られている。</p>																																																																							

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																																																																																				
			68	医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	<p>補助職員の配置状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(予定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>31</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>73</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>71</td> <td>88</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>74</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>118</td> <td>156</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>165</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>ことば</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>50</td> <td>69</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>93</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>100</td> <td>117</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>172</td> <td>210</td> <td>209</td> <td>221</td> <td>222</td> <td>215</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(予定)	総合							医師事務補助	31	50	55	66	73	67	看護助手	71	88	81	80	74	73	コフ/加助手	16	18	17	18	18	17	小計	118	156	153	164	165	157	こころ							医師事務補助	1	1	2	2	2	2	看護助手	9	10	8	8	9	9	コフ/加助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	13	12	12	13	13	ことば							医師事務補助	18	18	18	18	18	19	看護助手	20	19	21	22	21	22	コフ/加助手	4	4	3	3	3	4	小計	42	41	44	45	44	45	計							医師事務補助	50	69	75	86	93	88	看護助手	100	117	110	110	104	104	コフ/加助手	22	24	24	25	25	23	小計	172	210	209	221	222	215	<p>第2期中期目標期間(H26～30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 勤務成績評価制度の試行を行うとともに、平成30年4月から県に準拠した人事評価制度を導入することを職員組合と合意した。 ・H26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・看護師監督者層 (看護部長、副看護部長、看護師長、副看護師長) に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。 ・H27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。 ・H28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。 ・H30年4月から県に準拠した人事評価制度の試行を開始予定。 	<p>第2期(H26～30)自己評価</p> <p>説明</p> <p>期間を通じて、補助職員等を配置することとで、医療従事者の事務的業務の軽減が図られている。 25年度と比較し特に総合病棟の医師事務補助者を大幅に増員し、医師の事務負担軽減することができている。</p> <p>A</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(予定)																																																																																																																																																				
総合																																																																																																																																																										
医師事務補助	31	50	55	66	73	67																																																																																																																																																				
看護助手	71	88	81	80	74	73																																																																																																																																																				
コフ/加助手	16	18	17	18	18	17																																																																																																																																																				
小計	118	156	153	164	165	157																																																																																																																																																				
こころ																																																																																																																																																										
医師事務補助	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																				
看護助手	9	10	8	8	9	9																																																																																																																																																				
コフ/加助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																																																				
小計	12	13	12	12	13	13																																																																																																																																																				
ことば																																																																																																																																																										
医師事務補助	18	18	18	18	18	19																																																																																																																																																				
看護助手	20	19	21	22	21	22																																																																																																																																																				
コフ/加助手	4	4	3	3	3	4																																																																																																																																																				
小計	42	41	44	45	44	45																																																																																																																																																				
計																																																																																																																																																										
医師事務補助	50	69	75	86	93	88																																																																																																																																																				
看護助手	100	117	110	110	104	104																																																																																																																																																				
コフ/加助手	22	24	24	25	25	23																																																																																																																																																				
小計	172	210	209	221	222	215																																																																																																																																																				
			69	看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。	<p>第2期中期目標期間(H26～30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度は、対象をコメディカル監督者層、看護師長、副看護師長) 及び事務職員(県派遣職員)に拡大し、試行した。 ・H28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。 ・H30年4月から県に準拠した人事評価制度の試行を開始予定。 	<p>第2期(H26～30)自己評価</p> <p>説明</p> <p>H26年度の看護師監督者層の試行後、対象者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて試行を再開した。 また、コメディカル、事務職員へと順調に対象を拡大して試行している。 H28年度においては、副主任以上へ制度を拡大して試行をしたが、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。 県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意した。</p> <p>A</p>																																																																																																																																																				
			70	就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	<p>第2期中期目標期間(H26～30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舍の新規建設の準備を進めた。また、院内保育所は運営協議会にて、事務局、委託先、利用者間で意見交換を行った。 ・こころの医療センターでは、看護師宿舍の有効活用のため、総合病院看護師の同居希望者受入を開始した。 ・ことばも病院院内保育所は、院内保育所建設に向け設計を終了し、静岡市の開発許可を得た。また、入所者を対象にインフルエンザ予防接種を11、12月に実施した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) 総合病院では、医師宿舍の大規模修繕(H26.27)、新看護師宿舍の建設(H27)を行い、院内保育所では、土曜日の保育時間延長(H26.10～)や、入所者へのインフルエンザ予防接種(H26～)を行った。 ・また、医師の就労環境の改善のため、医師クラブをH30年度に整備予定である。研修医宿舍(F棟)の改修(H28)を行い、院内保育所の建替えは、平成30年度上半期に建設を着手し、平成30年度末に竣工予定である。 	<p>第2期(H26～30)自己評価</p> <p>説明</p> <p>宿舍の修繕や新宿舍の建設、現有資産の有効活用、保育所の運用の見直しなどを行い、職員の就労環境の向上に寄与することが出来た。</p> <p>A</p>																																																																																																																																																				

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画		中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)		第2期(H26～30)自己評価																																																																						
中期目標	(3)知識や技術の普及 県内の医療従事者の質の向上を図るため、県立病院が培った知識や技術を積極的に普及させること。また、医療従事者の養成に協力すること。	(3)知識や技術の普及 医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすいつ体制を維持するとともに、院内研修等教育研修機能を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	I 2 (3)	知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	71	院内保育所建替え工事を実施し運営方針を策定する。	こども	運営方針を決定し、H28年度に市と敷地（市街化調整区域）に関する協議を進め、H29年度中の設計、建築を予定している。	A	運営方針、建築内容について調整・決定され、H30年度に完成予定である。																																																																						
					72	研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	こども	<p>•H29 •研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。</p> <p>•医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</p> <p>(総合)海外研修の実績(29年度) (単位:人)</p> <table border="1"> <tr><th>内 容</th><th>人数</th></tr> <tr><td>米国分科研修会</td><td>2</td></tr> <tr><td>血管アクセス学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国麻酔科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国麻痺科学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>米国がん治療学会</td><td>4</td></tr> <tr><td>小児呼吸器科学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学系国際会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ呼吸器科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州腫瘍学学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州腫瘍学学術大会</td><td>2</td></tr> <tr><td>国際ユニメックス学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州心臓胸部学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>世界一般医、家庭医学学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国心臓学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>アジア太平洋呼吸器学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>米国がん治療会議</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国がん治療学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>C S A がんシンポジウム</td><td>1</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>15</td></tr> <tr><td>計</td><td>44</td></tr> </table> <p>学会発表実績(国内外) (単位:人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>発表数</td><td>412</td><td>400</td><td>472</td><td>578</td><td>600</td><td>600</td></tr> </table> <p>学会発表実績(単位:件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>学会発表件数</td><td>22</td><td>3</td><td>8</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td></tr> </table>	内 容	人数	米国分科研修会	2	血管アクセス学会	1	米国麻酔科学会	1	米国麻痺科学会	3	米国がん治療学会	4	小児呼吸器科学会	2	欧州呼吸器学系国際会議	2	ヨーロッパ呼吸器科学会	1	欧州腫瘍学学会	1	欧州腫瘍学学術大会	2	国際ユニメックス学会	1	欧州心臓胸部学会	1	世界一般医、家庭医学学会	1	米国心臓学会	2	アジア太平洋呼吸器学会	3	米国がん治療会議	1	米国がん治療学会	1	C S A がんシンポジウム	1	臨床研修医UCLA研修	15	計	44	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	発表数	412	400	472	578	600	600	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	学会発表件数	22	3	8	10	10	10	A	医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制を維持し、研究成果を県内外の医療従事者へ積極的に開放した。
内 容	人数																																																																															
米国分科研修会	2																																																																															
血管アクセス学会	1																																																																															
米国麻酔科学会	1																																																																															
米国麻痺科学会	3																																																																															
米国がん治療学会	4																																																																															
小児呼吸器科学会	2																																																																															
欧州呼吸器学系国際会議	2																																																																															
ヨーロッパ呼吸器科学会	1																																																																															
欧州腫瘍学学会	1																																																																															
欧州腫瘍学学術大会	2																																																																															
国際ユニメックス学会	1																																																																															
欧州心臓胸部学会	1																																																																															
世界一般医、家庭医学学会	1																																																																															
米国心臓学会	2																																																																															
アジア太平洋呼吸器学会	3																																																																															
米国がん治療会議	1																																																																															
米国がん治療学会	1																																																																															
C S A がんシンポジウム	1																																																																															
臨床研修医UCLA研修	15																																																																															
計	44																																																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																										
発表数	412	400	472	578	600	600																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																										
学会発表件数	22	3	8	10	10	10																																																																										
							こども	研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。	A	学会や研修会への積極的な参加を支援した。																																																																						

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																																																																												
			73	院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	<p>・H29 看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。</p> <p>・第2期中期目標期間 (H26～30)</p> <table border="1"> <caption>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>こころ</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>こども</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>本部</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>29</td> <td>37</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>54</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>24</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	看護師	10	10	7	27	8	8	コメディカル	4	13	4	11	12	12	事務	0	1	0	0	0	0	計	14	24	11	38	20	20		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	看護師	0	0	0	0	0	0	コメディカル	1	0	0	0	0	0	事務	0	0	1	0	0	0	計	1	0	1	0	0	0		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	看護師	19	27	9	30	3	3	コメディカル	1	3	0	0	0	0	事務	0	0	0	0	1	1	計	20	30	9	30	4	4		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	看護師	2	0	0	0	0	0	コメディカル	29	37	16	57	11	11	事務	6	16	4	11	12	12	計	37	54	21	68	24	24	第2期(H26～30)自己評価
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
看護師	10	10	7	27	8	8																																																																																																																																												
コメディカル	4	13	4	11	12	12																																																																																																																																												
事務	0	1	0	0	0	0																																																																																																																																												
計	14	24	11	38	20	20																																																																																																																																												
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
看護師	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
コメディカル	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
事務	0	0	1	0	0	0																																																																																																																																												
計	1	0	1	0	0	0																																																																																																																																												
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
看護師	19	27	9	30	3	3																																																																																																																																												
コメディカル	1	3	0	0	0	0																																																																																																																																												
事務	0	0	0	0	1	1																																																																																																																																												
計	20	30	9	30	4	4																																																																																																																																												
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
看護師	2	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
コメディカル	29	37	16	57	11	11																																																																																																																																												
事務	6	16	4	11	12	12																																																																																																																																												
計	37	54	21	68	24	24																																																																																																																																												
			74	地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	<p>実習研修受入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>304</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>434</td> <td>499</td> <td>387</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	受入数	304	309	391	434	499	387	<p>期間中、継続的に実習研修を行った。</p>																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
受入数	304	309	391	434	499	387																																																																																																																																												
			75	講演会やセミナーなどを開催する。	<p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>20</td> <td>25</td> <td>33</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>公開講演会開催実績 (医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催件数	20	25	33	29	27	27	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催件数	17	19	23	15	12	11	<p>主に医療関係者向けの開催件数は年20回前後で毎年度安定的に推移しており、医療関係者の知識向上や技術の普及に貢献している。</p> <p>さまざまな分野の講演会を定期的に実施し、また、多くの医療従事者が受講できるよう工夫（ビデオ研修など）を施し、医療従事者の資質向上に寄与した。</p>																																																																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
開催件数	20	25	33	29	27	27																																																																																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																																																												
開催件数	17	19	23	15	12	11																																																																																																																																												
第2 3 医療に関する調査及び研究	第2 3 医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組み。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等に努める。	医療に関する調査及び研究 県内の医療水準の向上に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	-	-	-	-																																																																																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画
<p>(1)研究機能の強化 臨床研究機能の強化に取り組み、こと。また、富士山麓先端健康産業集積(フェルマナ・レーン)プロジェクトなど、治験や産官との連携による研究開発に取り組むこと。</p>	<p>(1)研究機能の強化 生活習慣病や遺伝子診療、脳科学等の臨床研究を行うことのできる環境の整備及び研究支援体制の充実を図る。また、治験や調査研究事業に積極的に参画できるように引き続き体制を整備する。さらに、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。</p>	<p>研究機能の強化 ①リサーチサポートセンターの設置による臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治験や調査研究事業に積極的に参画による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究</p>	<p>76</p>	<p>・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ・研究資金となる奨学寄付金を受入れる。 ・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ・県立大学との共同研究を行う。</p>
<p>(1)研究機能の強化 臨床研究機能の強化に取り組み、こと。また、富士山麓先端健康産業集積(フェルマナ・レーン)プロジェクトなど、治験や産官との連携による研究開発に取り組むこと。</p>	<p>(1)研究機能の強化 生活習慣病や遺伝子診療、脳科学等の臨床研究を行うことのできる環境の整備及び研究支援体制の充実を図る。また、治験や調査研究事業に積極的に参画できるように引き続き体制を整備する。さらに、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。</p>	<p>研究機能の強化 ①リサーチサポートセンターの設置による臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治験や調査研究事業に積極的に参画による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究</p>	<p>77</p>	<p>・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 ・治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 ・市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医薬品に寄与している。</p>
<p>業務の実績(H29・中期期間)</p>	<p>業務の実績(H29・中期期間)</p>	<p>業務の実績(H29・中期期間)</p>	<p>業務の実績(H29・中期期間)</p>	<p>業務の実績(H29・中期期間)</p>
<p>第2期(H26～30)自己評価</p>	<p>第2期(H26～30)自己評価</p>	<p>第2期(H26～30)自己評価</p>	<p>第2期(H26～30)自己評価</p>	<p>第2期(H26～30)自己評価</p>

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期計画		第2期(H26～30)自己評価																						
中期目標	中期計画	業務の実績(H29・中期期間)	説明																					
(2)診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供される医療の質の向上のために活用することも、他の医療機関へ情報提供すること。	(2)診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図るなど、エビデンスを重視し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	1 3 (2)	<p>診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支集積を部門別に随時把握できるシステムの利用</p>																					
78	<p>診療情報に基づく症例分析を行う。</p> <p>総合</p>	<p>・H29年度内に合計で4回開催する予定。 ・3月かからDPC分析ソフトを変更しベンチマークデータの活用を行えるよう環境整備を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) ・DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6%(H27年度)から92.3%(H28年度)、90.4%(H29年度)となった。 ・アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。</p> <table border="1"> <caption>DPC部会兼コード検討委員会開催実績</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:回、人)</p> <p>・DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催回数	2	2	2	4	4	6	出席者数	22	26	17	32	55	55	<p>H28年度よりDPCの診療情報を用いた分析結果を病院情報をホームページで公開している。</p> <p>H28年度よりDPC部会兼コード検討委員会の開催回数を年4回とし、DPCの精度向上に貢献している。</p> <p>H30年からのDPCデータの調査項目の変更に伴い、運用を議論し、医師へ周知を行った。今後も、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																		
開催回数	2	2	2	4	4	6																		
出席者数	22	26	17	32	55	55																		
79	<p>DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかわるスキルアップに努める。</p> <p>ことごと</p>	<p>ことごと</p> <table border="1"> <caption>DPC部会兼コード検討委員会開催実績</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>51</td> <td>53</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:回、人)</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	開催回数	2	2	2	4	4	4	出席者数	37	19	23	51	53	53	<p>診療情報管理について、担当職員の資質向上とともに医療現場への介入により診療情報の担保を図った。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																		
開催回数	2	2	2	4	4	4																		
出席者数	37	19	23	51	53	53																		
80	<p>公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算)</p> <p>部門別、診療科別原価計算に取り組む。</p> <p>総合</p>	<p>ことごと</p> <p>ことごと</p>	<p>H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者との設定調整を行っており、本格稼働に向けて調整中。運用開始後は、DPCデータや財務会計システムを用いて診療科別、部門別の原価計算を行う予定である。</p> <p>H26年度に導入検討を始め、H27年度には原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、H28年度から本格的な運用を開始した。運用開始後は、DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。</p>	<p>H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者と本格稼働に向けて調整中。</p> <p>H27年度に原価計算システムを導入しH26年度からH28年度分の原価計算を行った。</p> <p>H27年度に原価計算システムを導入しH26年度からH28年度分の原価計算を行った。</p> <p>経営改善に役立てる活用方法の整備、原価計算に精通した職員の養成及び、このデータの活用を図っていく。</p>																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																											
<p>(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談などを通じて調査及び研究の成果を県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。</p>	<p>(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談等を開催するとともに、ホームページ等で健康管理・増進などに関する情報提供を進める。</p>	<p>I 3 (3)</p> <p>県民への情報提供の充実 ① 定期的な公開講座、医療相談等を開催すること ② ホームページ等による健康管理・増進などに関する情報提供</p>	<p>81</p>	<p>公開講座・医療機関向けの公開講座等を開催する。</p>	<p>各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。</p> <table border="1" data-bbox="252 481 502 967"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県民向け 公開講座</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>医療機関 公開講座</td> <td>494</td> <td>416</td> <td>682</td> <td>495</td> <td>712</td> <td>712</td> </tr> <tr> <td>医療機関 公開講座</td> <td>20</td> <td>28</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>1,075</td> <td>628</td> <td>755</td> <td>1,765</td> <td>1,691</td> <td>1,691</td> </tr> <tr> <td>県民向け 公開講座</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>357</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>医療機関 公開講座</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>104</td> <td>81</td> <td>485</td> <td>485</td> </tr> <tr> <td>県民向け 公開講座</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>52</td> <td>131</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>144</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>医療機関 公開講座</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>738</td> <td>1,111</td> <td>1,228</td> <td>906</td> <td>525</td> <td>525</td> </tr> </tbody> </table>	病院	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	県民向け 公開講座	6	6	6	4	4	10	医療機関 公開講座	494	416	682	495	712	712	医療機関 公開講座	20	28	13	29	27	27	参加者	1,075	628	755	1,765	1,691	1,691	県民向け 公開講座	3	1	1	2	2	2	参加者	357	15	9	6	8	8	医療機関 公開講座	0	4	2	3	3	3	参加者	0	96	104	81	485	485	県民向け 公開講座	2	2	2	2	3	3	参加者	52	131	124	116	144	144	医療機関 公開講座	17	19	23	15	12	12	参加者	738	1,111	1,228	906	525	525	<p>A</p> <p>期間を通じ、参加者数は年々増加傾向にあり、引き続き、病院の特色を活かした公開講座を行う。</p>
病院	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																											
県民向け 公開講座	6	6	6	4	4	10																																																																																											
医療機関 公開講座	494	416	682	495	712	712																																																																																											
医療機関 公開講座	20	28	13	29	27	27																																																																																											
参加者	1,075	628	755	1,765	1,691	1,691																																																																																											
県民向け 公開講座	3	1	1	2	2	2																																																																																											
参加者	357	15	9	6	8	8																																																																																											
医療機関 公開講座	0	4	2	3	3	3																																																																																											
参加者	0	96	104	81	485	485																																																																																											
県民向け 公開講座	2	2	2	2	3	3																																																																																											
参加者	52	131	124	116	144	144																																																																																											
医療機関 公開講座	17	19	23	15	12	12																																																																																											
参加者	738	1,111	1,228	906	525	525																																																																																											
		<p>総合</p>		<p>・H29 ・静岡県立総合病院内の機能、設備、職員の姿を知ってもらうこと によって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせて、「県民の日講演会」を8/20に開催した。 ・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <table border="1" data-bbox="726 481 790 967"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>900</td> <td>-</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,500</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,500	<p>A</p> <p>オープンホスピタルのイベント数は、H25年度37件からH29年度は42件と1.15倍となり、毎年度工夫を凝らした出展が行われている。来場者数も、H25年度900人から毎年度100人程度の安定的な増加数を推移している。H29年度以降は先端医学棟の機能や設備の紹介を積極的に行っていく。</p>																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																											
来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,500																																																																																											
	<p>県民及び他の医療機関従事者に、県立病院職員の有する医療情報等を積極的に提供する ため、的確に更新する。</p>	<p>82</p>	<p>県民向けイベントへの開催や参加に努める。</p>	<p>子どもみらいプロジェクト来場者数 (単位：組、人)</p> <table border="1" data-bbox="949 481 1029 967"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>1,052</td> <td>875</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>957</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	健康相談	28	6	10	17	22	22	写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	957	<p>A</p> <p>期間中、県民向けイベントへ継続して参加し、子ども病院のPRに努め、情報提供も着実に推進した。</p>																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																											
健康相談	28	6	10	17	22	22																																																																																											
写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	957																																																																																											
		<p>83</p>		<p>・H29 機構全体のトピックスなどメインとなるペーページの見直しや、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) 各病院の医療情報やトピックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のアピールにつながった。 (H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。)</p> <table border="1" data-bbox="1316 481 1460 967"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>291,958</td> <td>316,047</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>218,435</td> <td>222,600</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,582,445</td> <td>1,742,978</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,017,729</td> <td>2,183,300</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>275,237</td> <td>285,800</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>275,298</td> <td>281,700</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,518,204</td> <td>1,510,609</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,551,263</td> <td>1,656,500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,667,844</td> <td>3,855,434</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,062,725</td> <td>4,343,900</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	222,600	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,183,300	こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	281,700	こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,656,500	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,343,900	<p>A</p> <p>機構及び3病院のホームページのリニューアルや、トピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図った。機構全体で、アクセス数は増加傾向にあり、情報提供は着実に推進している。</p>																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																											
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	222,600																																																																																											
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,183,300																																																																																											
こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	281,700																																																																																											
こども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,656,500																																																																																											
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,343,900																																																																																											

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																																																														
<p>第2 4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院となるよう努めること。</p>	<p>第2 4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。</p>	<p>I 4 (1)</p>	<p>84</p>	<p>県民に病院の運営にかかわる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。</p>	<p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。</p> <table border="1" data-bbox="343 1534 454 1646"> <caption>記者情報提供件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	提供件数	46	40	41	48	47	47	掲載件数	27	25	27	31	35	35	<p>A 記者情報提供件数は増加しており、情報提供は着実に推進している。機構全体の実績の把握及び情報共有を図ることができた。</p>																																																																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																														
提供件数	46	40	41	48	47	47																																																																																														
掲載件数	27	25	27	31	35	35																																																																																														
<p>(1) 本県の医師確保対策における役割 県立病院として、より多くの医師を確保し、医師不足の公的医療機関への派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。</p>	<p>(1) 本県の医師確保対策への取組 県との協働による本県の医師確保対策に取り組むとともに、県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。</p>	<p>I 4 (1)</p>	<p>85</p>	<p>地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。</p>	<p>• H29 富士宮市立、静岡厚生病院、静岡市立清水病院、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害者施設にも医師を派遣した。</p> <table border="1" data-bbox="598 1534 662 1646"> <caption>医師派遣数 (単位:機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">28年度</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>10</td> <td></td> <td>10</td> <td>11</td> <td></td> <td>11</td> <td>10</td> <td></td> <td>10</td> <td>9</td> <td></td> <td>9</td> <td>8</td> <td></td> <td>8</td> <td>8</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td></td> <td>11</td> <td>12</td> <td></td> <td>12</td> <td>9</td> <td></td> <td>9</td> <td>6</td> <td></td> <td>6</td> <td>9</td> <td></td> <td>9</td> <td>9</td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td></td> <td>616</td> <td>701</td> <td></td> <td>701</td> <td>500</td> <td></td> <td>500</td> <td>577</td> <td></td> <td>577</td> <td>577</td> <td></td> <td>577</td> <td>577</td> <td></td> <td>577</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度見込			機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	医師	10		10	11		11	10		10	9		9	8		8	8		8	診療科	11		11	12		12	9		9	6		6	9		9	9		9	延人員数	616		616	701		701	500		500	577		577	577		577	577		577	<p>A 派遣医療機関、診療科等減少傾向にあるが、要望のあった病院に対しては、適切に医師派遣を行っている。</p>
区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度見込																																																																																				
	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人																																																																																		
医師	10		10	11		11	10		10	9		9	8		8	8		8																																																																																		
診療科	11		11	12		12	9		9	6		6	9		9	9		9																																																																																		
延人員数	616		616	701		701	500		500	577		577	577		577	577		577																																																																																		
<p>(1) 本県の医師確保対策における役割 県立病院として、より多くの医師を確保し、医師不足の公的医療機関への派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。</p>	<p>静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立病院、富士宮市立病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害者施設にも医師を派遣した。</p>	<p>• H29 静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立病院、富士宮市立病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害者施設にも医師を派遣した。</p>	<p>85</p>	<p>地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。</p>	<p>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</p> <table border="1" data-bbox="901 1534 965 1646"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">28年度</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> <th>機関</th> <th>科</th> <th>人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>6</td> <td></td> <td>6</td> <td>4</td> <td></td> <td>4</td> <td>7</td> <td></td> <td>7</td> <td>6</td> <td></td> <td>6</td> <td>7</td> <td></td> <td>7</td> <td>6</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td></td> <td>662</td> <td>662</td> <td></td> <td>662</td> <td>958</td> <td></td> <td>958</td> <td>1078</td> <td></td> <td>1078</td> <td>803</td> <td></td> <td>803</td> <td>832</td> <td></td> <td>832</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度見込			機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	医師	6		6	4		4	7		7	6		6	7		7	6		6	診療科	2		2	1		1	2		2	2		2	2		2	2		2	延人員数	662		662	662		662	958		958	1078		1078	803		803	832		832	<p>A 期間中、医師不足が顕著な公的医療機関へ医師を派遣することにより地域医療の支援を継続して行った。</p>
区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度見込																																																																																				
	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人	機関	科	人																																																																																		
医師	6		6	4		4	7		7	6		6	7		7	6		6																																																																																		
診療科	2		2	1		1	2		2	2		2	2		2	2		2																																																																																		
延人員数	662		662	662		662	958		958	1078		1078	803		803	832		832																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																																	
			86	小児1次救急医療への応援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ H29 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) 期間中、2つの急病センターへの医師派遣を行った。 <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (急病センター) (単位: 機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>304</td> <td>313</td> <td>292</td> <td>295</td> <td>294</td> <td>299</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	304	313	292	295	294	299	<p>A</p> <p>期間中、継続して静岡市急病センターへ医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。</p>																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
医療機関	2	2	2	2	2	2																																																	
診療科	2	2	2	2	2	2																																																	
延人員数	304	313	292	295	294	299																																																	
			87	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科医師定数を見直し ・ 静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。 	<p>子ども</p> <p>総合</p> <table border="1"> <caption>医師現員数 (単位: 人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25.4.1</th> <th>H26.4.1</th> <th>H27.4.1</th> <th>H28.4.1</th> <th>H29.4.1</th> <th>H30.4.1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正雇</td> <td>117</td> <td>123</td> <td>130</td> <td>139</td> <td>152</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>有期</td> <td>106</td> <td>108</td> <td>117</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (単位: 機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>571</td> <td>577</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	正雇	117	123	130	139	152	165	有期	106	108	117	111	111	109	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	医療機関	10	11	10	9	8	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	775	570	571	577	<p>A</p> <p>着実に医師を確保できている。期間中、継続して地域の公的病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。</p>
区分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1																																																	
正雇	117	123	130	139	152	165																																																	
有期	106	108	117	111	111	109																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
医療機関	10	11	10	9	8	8																																																	
診療科	11	12	9	6	9	9																																																	
延人員数	616	701	775	570	571	577																																																	
			88	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。 	<p>第2期中期期間 (H26～30)</p> <p>主な業務である静岡県医学研修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。</p> <table border="1"> <caption>配置調整医師数及び県内勤務開始者数 (機構担当) (単位: 名)</caption> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	配置調整医師数	6	12	14	34	64	63	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39	<p>A</p> <p>県内医療機関に勤める奨学金利用者が着実に増加しており、県の医師確保施策に寄与できている。</p>																												
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																	
配置調整医師数	6	12	14	34	64	63																																																	
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																																																	

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																								
(2) 地域医療への支援 高度医療機器の共同利用の促進、他の医療機関等との医療情報連携や遠隔診断のネットワーキングを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	(2) 地域医療への支援 情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワーキングを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	I 4 (2)	89	専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H29 ・ プログラムの作成を7領域において行い、全領域において「日本専門医機構」の審査を受け、合格した。 ・ H30年度より開始する新専門医制度に向けて、全診療科の状況把握を行った。 ・ H28に引き続き、研修医向けプログラム説明を行い、専攻医確保に努めた。 ・ ホームページの広報など、積極的に募集を行っている。 <p>ここ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H29 ・ H30年度より開始する新専門医制度に向けて、プログラム精神科領域のプログラムについては、10月6日付で2審査に合格した。 ・ 第2期中期目標期間 (H26～30) プログラム作成について、2次審査に合格した。 <p>ことも</p> <p>H29年度から新制度に準じて実施される小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に則った研修を実施している。</p>	<p>B</p> <p>プログラムの作成を7領域において行い、全領域において審査の合格を受けた。給与体系の見直しや医師宿舎などの受入れ体制を整えた。今後は新専門医制度の動向に注視する。</p>																																								
(2) 地域医療への支援 高度医療機器の共同利用の促進、他の医療機関等との医療情報連携や遠隔診断のネットワーキングを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	(2) 地域医療への支援 ①PETイメージング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 ②IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	I 4 (2)	90	地域の医療機関や健診センターへの啓蒙活動を継続し、PET共同利用率の向上を図る。	<p>総合</p> <p>PETイメージングセンター共同利用 (単位: 件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>10年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,253</td> <td>3,758</td> <td>3,758</td> <td>3,758</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>1.635</td> <td>1.673</td> <td>1.623</td> <td>1.499</td> <td>905</td> <td>905</td> <td>905</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>40</td> <td>39.7</td> <td>39.5</td> <td>33.7</td> <td>24.1</td> <td>24.1</td> <td>24.1</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>10</td> <td>166</td> <td>155</td> <td>168</td> <td>139</td> <td>139</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	10年度	件数	4,121	4,211	4,276	4,253	3,758	3,758	3,758	共同利用率	1.635	1.673	1.623	1.499	905	905	905	共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	24.1	24.1	24.1	健診件数	10	166	155	168	139	139	139	<p>A</p> <p>共同利用率は1,500件前後で毎年安定的に推移しているが、H29年度は静岡市立病院がPETを独自整備したため共同利用率は減少している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	10年度																																							
件数	4,121	4,211	4,276	4,253	3,758	3,758	3,758																																							
共同利用率	1.635	1.673	1.623	1.499	905	905	905																																							
共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	24.1	24.1	24.1																																							
健診件数	10	166	155	168	139	139	139																																							
			91	地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用率の向上を図る。	<p>総合</p> <p>CT、MRI共同利用 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>10年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>833</td> <td>762</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>847</td> <td>847</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>626</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>549</td> <td>549</td> <td>549</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>131</td> <td>131</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	10年度	CT	833	762	815	919	847	847	847	MRI	626	591	645	621	549	549	549	CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	2	2	MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	131	131	<p>A</p> <p>CTは800件、MRIは600件前後で毎年安定して推移している。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	10年度																																							
CT	833	762	815	919	847	847	847																																							
MRI	626	591	645	621	549	549	549																																							
CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	2	2																																							
MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	131	131																																							

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価																																			
			92	<p>・ふじのくににねつとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。</p> <p>・ふじのくににバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。</p>	<p>「ふじのくににバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会等とともに「ふじのくににバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p> <p>・第2期中期期間 (H26～30) H27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。</p> <p>・H28 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、データセンター及び県立総合病院連携サーバーの更新を行った。また、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。</p> <p>・H29 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。</p>	<p>ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続け、地域の医療機関等での連携が強化されている。</p> <p>システム機器の更新時期を迎えることを契機に、費用負担のあり方等を含めた事業の利用規程を理事会で決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。(H28年度から利用料の徴収を開始)</p> <p>補助金を活用し、システム機器の更新と新規開示施設でのシステム整備を行った。</p>																																			
			93	<p>国内外の医療機関との映像情報を通して研修や診断を実施する。</p>	<p>こども</p>	<p>期間中、国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施した。</p>																																			
		<p>社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していく。</p>	94	<p>院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。</p>	<p>総合</p>	<p>拡大キャンペーンボード実施</p> <table border="1" data-bbox="861 481 973 929"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>院内</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>153</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>251</td> <td>172</td> <td>128</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>237</td> <td>228</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>281</td> <td>290</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	回数	5回	5回	6回	6回	6回	6回	院内	-	-	161	160	153	160	院外	-	-	251	172	128	130	参加人数	237	228	422	332	281	290
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																			
回数	5回	5回	6回	6回	6回	6回																																			
院内	-	-	161	160	153	160																																			
院外	-	-	251	172	128	130																																			
参加人数	237	228	422	332	281	290																																			
		<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	95	<p>他団体の講師派遣依頼に協力する。</p>	<p>総合</p>	<p>期間を通じて、その他の職種についてはやや減少傾向であるが、医師については例年同件数である。引き続き積極的な地域支援を行っていく。</p>																																			

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績 (H29・中期期間)	第2期(H26～30)自己評価												
(2)他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。		(2)他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	I 5 (2)	他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103 災害医療救護応援班の訓練を実施する。	・ H29 災害医療救護応援班の訓練を実施した。 H29.7.13 東上建設、青野が訓練に参加。（医療救護班が参加） H29.7.29 大東建設が訓練に参加。（災害派遣DMAT）参加した。 H29.8.31 東上建設が訓練に参加。（災害派遣DMAT）参加した。 H29.9.3 東上建設が訓練に参加。（災害派遣DMAT）参加した。 H29.11.7 東上建設が訓練に参加。（災害派遣DMAT）参加した。 H30.2.8 東上建設が訓練に参加。（災害派遣DMAT）参加した。	積極的かつ継続的に訓練に参加すること。H28.4.23～27 熊本地震に県医療救護班として医療救護活動（1チーム5人）を行った際も現地でスムーズな救護活動を行った。												
			総合		DMAT 訓練回数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訓練</td> <td>—</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> (単位：回)	区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)	訓練	—	7	6	8	8
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(見込)													
訓練	—	7	6	8	8	8													

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価 説明												
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、業務運営の改善及び効率化に努め、生産性の向上を図ること。</p>	<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。</p>	<p>II</p>	<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。</p>		<p>・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 ・理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報に共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に、予算の即時的な対応を行う。 ・看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。</p>	<p>理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 勤務成績評価制度の試行を行うとともに、平成30年4月から県に準拠した人事評価制度の導入することを職員組合と合意した。 勤務成績評価制度試行状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師(管理監督者)</td> <td>平成26年10月～</td> </tr> <tr> <td>看護師(副主任以上)</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル(管理監督者)</td> <td>平成27年10月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル(副主任以上)</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>事務職員(プロパー職員副主任以上)</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> </tbody> </table>	対象	実施時期	看護師(管理監督者)	平成26年10月～	看護師(副主任以上)	平成28年4月～	コメディカル(管理監督者)	平成27年10月～	コメディカル(副主任以上)	平成28年4月～	事務職員(プロパー職員副主任以上)	平成28年4月～	<p>期間を通じて、意思決定の迅速化や情報の共有化を進め、緊急案件について即時的な対応が適切に行われた。 勤務成績評価制度の試行を順次行い、県に準拠した人事評価制度の導入に向けて職員組合と合意し、H30から実施予定。</p>
対象	実施時期																		
看護師(管理監督者)	平成26年10月～																		
看護師(副主任以上)	平成28年4月～																		
コメディカル(管理監督者)	平成27年10月～																		
コメディカル(副主任以上)	平成28年4月～																		
事務職員(プロパー職員副主任以上)	平成28年4月～																		
<p>1. 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、簡素で効率的な組織体制を確立すること。</p>	<p>1 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>医療環境の変化や県民の医療ニーズに的確に対応されるよう簡素で効率的な組織づくりに努めるとともに、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。</p>	<p>II 1</p>	<p>簡素で効率的な組織づくり ①意思決定の迅速化・情報共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取り組み</p>	104															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価
2 効率的な業務運営の実現	2 効率的な業務運営の実現 ・各職員が専門性を十分に発揮できるよう体制を整備するとともに、業務量に応じた柔軟な職員配置に努める。	II 2 効率的な業務運営の実現 ・効果的な職員採用 ・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ・看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な柔軟な確保対策の実施	105	<ul style="list-style-type: none"> 優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> H29経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師(医学物理士)1人を採用した。 初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1名、言語聴覚アソシエイト2名の採用を決定した。 第2期中期期間(H26~30)法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。 H28年度からアソシエイトの制度を導入した。 	<p>説明</p> <p>アソシエイト制度の導入、経験者選考採用など多様な採用方法により、必要な人材を確保することができた。看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。</p>
			106	<ul style="list-style-type: none"> 未収金の圧縮を図るため、未収金の収納奨励等について外部の専門会社を活用する。 医療費に係る相談体制の充実 未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。 	<p>24年度から、医療費未収金の回収業務を弁護士法人に委託した。この結果、第1期中期計画期間の最終年度から第2期中期計画期間を通じ、未収金の回収率は右肩上がりになり(45.4%→72.6%)し、中期目標に掲げる効率的な収入の確保を図られている。</p>

看護師修学資金の状況 (単位：人)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	計
決定	73	74	123	88	114	60	532
継続	52	80	99	163	178	698	698
取崩	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲8	▲51
貸付計	119	142	211	208	230	1,179	1,179
採用	38	33	76	40	63	-	250

アソシエイト採用実績 (単位：人)

区分	28年度	29年度
事務	5	1
看護師	2	2
コメディカル	-	3
計	7	6

採用関係ホームページアクセス数

区分	27年度	28年度	29年度
アクセス数	88,062	69,555	69,291

※H27に現システムを使用開始
H27は事務、コメディカル採用試験分を含む

29年度未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位：千円)

区分	29年度		29年度		29年度	
	新報委託額	回収額	中止額	未回収額	28年度	29年度
総合	19,120	28,731	12,293	10,530	25,038	25,038
こころ	6,873	7,392	2,189	1,161	10,915	10,915
こども	8,483	1,586	2,581	3,522	3,950	3,950
計	34,476	37,709	17,059	15,223	39,903	39,903

未収金回収率の推移 (単位：%)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込
回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	72.6%	87.0%

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価																								
			107	<p>SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。</p>	<p>・H29 薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。 診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数在庫へ実在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。 ・診療材料は手術室増加に伴い、前年度より増加している。 ・第2期中期期間(H26~30) 診材期限切れによる廃棄額は、H29年度675千円で、昨年と比較して58%減である。これはSPDを導入し物流倉庫で一元管理したことにより、不要なもの発注が少なくなったこと、適正在庫を先入れ先出しで運用できていること、不動在庫の使用促進の効果が出ているためと言える。診材在庫は新棟の影響により手術室在庫が増えているが、病棟▲1,224千円、検査▲1,488千円と削減できている。</p> <table border="1"> <caption>薬品、診療材料在庫額 (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>162,824</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>180,834</td> <td>169,947</td> <td>179,534</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> </tr> <tr> <td>※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>35,919千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>総合</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	薬品	162,824	179,830	114,860	101,066	102,777	診療材料	180,834	169,947	179,534	191,861	216,079	※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額				35,919千円		<p>SPD導入により、病棟等、医療現場では、有資格者が資格業務に専念できる環境を作ることについて一定の効果を得た。 期限切れについては、切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙したり、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みや不動在庫をリスト化し、使用促進に取組み期限切れを防止した。 在庫額については、新棟手術室増加の影響で28年度より増加しているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって在庫を圧縮することができた。引き続き期限切れ、在庫額圧縮に努める。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																									
薬品	162,824	179,830	114,860	101,066	102,777																									
診療材料	180,834	169,947	179,534	191,861	216,079																									
※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額				35,919千円																										
			108	<p>積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかわる研修会等を実施する。</p>	<p>・H29 診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだり H30. 1月開催:特定共同指導の結果について H30. 3月開催:診療報酬改定について ・H29施設基準取得状況 新棟開棟に伴い、重症病棟の充実化を進めた。(ICUのランクアップ、HCUの増床) ・精神患者への対応範囲を入院にも広げることで、総合入院体制加算のランクアップに繋げた。 ・新規医療技術について適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(在宅理込型補助人工心臓管理料、皮膚悪性腫瘍手術等(ここ)) ・診療体制における新たな取り組みに対する適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(患者サポート体制充実加算)</p>	<p>研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識の向上を達成できた。特定共同指導では上から2番目の評価となる「経過観察」の結果を得ることができた。 A 新規やランクアップの届出を積極的に行い、患者単価の上昇を達成できた。</p>																								

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			109	<p>・材料費等の節減のための対策を実施する。</p> <p>・診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損についての対策を講じる。</p>	<p>・H29 ・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の見識を徹底し、適正な調達に努めている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の節減と薬利部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を継続するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を5社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。 ・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。 ・第2期中期期間(H26~30) 診療材料コスト削減実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">28年度</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年度</th> </tr> <tr> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4,109</td> <td>5.33</td> <td>26,469</td> <td>3,707</td> <td>5.00</td> <td>27,023</td> <td>3,232</td> <td>4.44</td> <td>27,077</td> <td>4.64</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,132</td> <td>5.34</td> <td>26,491</td> <td>3,730</td> <td>5.01</td> <td>27,055</td> <td>3,265</td> <td>4.46</td> <td>27,109</td> <td>4.65</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,241</td> <td>5.34</td> <td>52,960</td> <td>7,437</td> <td>5.01</td> <td>54,078</td> <td>6,537</td> <td>4.95</td> <td>54,186</td> <td>4.65</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> </tr> </tbody> </table> <p>29年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>新規品目数</th> <th>廃止品目数</th> <th>新規品目数</th> <th>廃止品目数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>11,776</td> <td>6,853</td> <td>2,914</td> <td>15,715</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,058</td> <td>38</td> <td>75</td> <td>329</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15,834</td> <td>6,891</td> <td>3,089</td> <td>16,044</td> </tr> </tbody> </table> <p>29年度 薬品・破損額 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>5,402</td> <td>5.72</td> <td>11,114</td> <td>4.274</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>159</td> <td>1.63</td> <td>302</td> <td>1.288</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,561</td> <td>5.72</td> <td>11,416</td> <td>4.274</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度			期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	総合	4,109	5.33	26,469	3,707	5.00	27,023	3,232	4.44	27,077	4.64	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44	こども	4,132	5.34	26,491	3,730	5.01	27,055	3,265	4.46	27,109	4.65	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45	合計	8,241	5.34	52,960	7,437	5.01	54,078	6,537	4.95	54,186	4.65	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45	区分	29年度		30年度		新規品目数	廃止品目数	新規品目数	廃止品目数	総合	11,776	6,853	2,914	15,715	こども	4,058	38	75	329	合計	15,834	6,891	3,089	16,044	区分	29年度		30年度		金額	原価率	金額	原価率	総合	5,402	5.72	11,114	4.274	こども	159	1.63	302	1.288	合計	5,561	5.72	11,416	4.274	<p>業務の実績</p> <p>・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の見識を徹底し、適正な調達に努めている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の節減と薬利部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を継続するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を5社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。 ・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。 ・第2期中期期間(H26~30) 診療材料コスト削減実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> <th colspan="3">28年度</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年度</th> </tr> <tr> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>期別</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4,109</td> <td>5.33</td> <td>26,469</td> <td>3,707</td> <td>5.00</td> <td>27,023</td> <td>3,232</td> <td>4.44</td> <td>27,077</td> <td>4.64</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> <td>27,044</td> <td>4.44</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,132</td> <td>5.34</td> <td>26,491</td> <td>3,730</td> <td>5.01</td> <td>27,055</td> <td>3,265</td> <td>4.46</td> <td>27,109</td> <td>4.65</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> <td>27,076</td> <td>4.45</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,241</td> <td>5.34</td> <td>52,960</td> <td>7,437</td> <td>5.01</td> <td>54,078</td> <td>6,537</td> <td>4.95</td> <td>54,186</td> <td>4.65</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> <td>54,120</td> <td>4.45</td> </tr> </tbody> </table> <p>29年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>新規品目数</th> <th>廃止品目数</th> <th>新規品目数</th> <th>廃止品目数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>11,776</td> <td>6,853</td> <td>2,914</td> <td>15,715</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,058</td> <td>38</td> <td>75</td> <td>329</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15,834</td> <td>6,891</td> <td>3,089</td> <td>16,044</td> </tr> </tbody> </table> <p>29年度 薬品・破損額 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>金額</th> <th>原価率</th> <th>金額</th> <th>原価率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>5,402</td> <td>5.72</td> <td>11,114</td> <td>4.274</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>159</td> <td>1.63</td> <td>302</td> <td>1.288</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,561</td> <td>5.72</td> <td>11,416</td> <td>4.274</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度			期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	総合	4,109	5.33	26,469	3,707	5.00	27,023	3,232	4.44	27,077	4.64	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44	こども	4,132	5.34	26,491	3,730	5.01	27,055	3,265	4.46	27,109	4.65	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45	合計	8,241	5.34	52,960	7,437	5.01	54,078	6,537	4.95	54,186	4.65	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45	区分	29年度		30年度		新規品目数	廃止品目数	新規品目数	廃止品目数	総合	11,776	6,853	2,914	15,715	こども	4,058	38	75	329	合計	15,834	6,891	3,089	16,044	区分	29年度		30年度		金額	原価率	金額	原価率	総合	5,402	5.72	11,114	4.274	こども	159	1.63	302	1.288	合計	5,561	5.72	11,416	4.274	<p>第2期(H26~30)自己評価</p> <p>(総合) ・各年度、自治体共済会、MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、H29年9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称:NHA)」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行っている。</p> <p>診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の絞り込みや価格交渉、安価な材料への切替を進めた。さらに、SPDの有効活用により、在庫量の適正管理に努めた。 薬品費については、各病院薬利部(室)長同席の下メーカー要請を行うなど、機構全体で値引率改善に向け取り組んだ。</p>
区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率																																																																																																																																																																																																																																																																																	
総合	4,109	5.33	26,469	3,707	5.00	27,023	3,232	4.44	27,077	4.64	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44																																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	4,132	5.34	26,491	3,730	5.01	27,055	3,265	4.46	27,109	4.65	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45																																																																																																																																																																																																																																																																																	
合計	8,241	5.34	52,960	7,437	5.01	54,078	6,537	4.95	54,186	4.65	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45																																																																																																																																																																																																																																																																																	
区分	29年度		30年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	新規品目数	廃止品目数	新規品目数	廃止品目数																																																																																																																																																																																																																																																																																															
総合	11,776	6,853	2,914	15,715																																																																																																																																																																																																																																																																																															
こども	4,058	38	75	329																																																																																																																																																																																																																																																																																															
合計	15,834	6,891	3,089	16,044																																																																																																																																																																																																																																																																																															
区分	29年度		30年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	金額	原価率	金額	原価率																																																																																																																																																																																																																																																																																															
総合	5,402	5.72	11,114	4.274																																																																																																																																																																																																																																																																																															
こども	159	1.63	302	1.288																																																																																																																																																																																																																																																																																															
合計	5,561	5.72	11,416	4.274																																																																																																																																																																																																																																																																																															
区分	25年度			26年度			27年度			28年度			29年度			30年度																																																																																																																																																																																																																																																																																			
	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率	期別	金額	原価率																																																																																																																																																																																																																																																																																	
総合	4,109	5.33	26,469	3,707	5.00	27,023	3,232	4.44	27,077	4.64	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44	27,044	4.44																																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	4,132	5.34	26,491	3,730	5.01	27,055	3,265	4.46	27,109	4.65	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45	27,076	4.45																																																																																																																																																																																																																																																																																	
合計	8,241	5.34	52,960	7,437	5.01	54,078	6,537	4.95	54,186	4.65	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45	54,120	4.45																																																																																																																																																																																																																																																																																	
区分	29年度		30年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	新規品目数	廃止品目数	新規品目数	廃止品目数																																																																																																																																																																																																																																																																																															
総合	11,776	6,853	2,914	15,715																																																																																																																																																																																																																																																																																															
こども	4,058	38	75	329																																																																																																																																																																																																																																																																																															
合計	15,834	6,891	3,089	16,044																																																																																																																																																																																																																																																																																															
区分	29年度		30年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	金額	原価率	金額	原価率																																																																																																																																																																																																																																																																																															
総合	5,402	5.72	11,114	4.274																																																																																																																																																																																																																																																																																															
こども	159	1.63	302	1.288																																																																																																																																																																																																																																																																																															
合計	5,561	5.72	11,416	4.274																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			110	<p>効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等の徹底により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。 ・価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 ・機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。 ・価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 ・保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>第2期(H26~30)自己評価</p> <p>(総合) ・全期間を通して、徹底した価格交渉や競争性確保、先端医学棟の高額機器など案件に応じた「購入+保守管理」一括評価といった工夫を行い、効率的な医療機器購入を行うことができた。 ・保守委託については、3病院一括契約により規模のメリットを生かすとともに、保守内容の継続的な見直しによりコスト削減を図った。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価																																																																																															
	<p>・常に経営情報を把握するとともに、適時適切な措置を講じられるよう体制を整備する。また、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。</p>		111	<p>複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。</p>	<p>・委託費の節減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。(H29年度の契約更新においては、全て一括化・複数年化を継続)</p> <p>・委託の仕様の徹底した見直しを行った。</p> <p>・コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図った。</p>	<p>業務の実績</p> <p>29年度 委託契約の見直し状況(単年度ベース) (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携先</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種別</th> <th>四半額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染症産業廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>単価</td> <td>38,174</td> </tr> <tr> <td>器具類貸借</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H29.4~H32.3</td> <td>単価</td> <td>96,555</td> </tr> <tr> <td>消防設備点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H29.4~H32.3</td> <td>定額</td> <td>9,483</td> </tr> <tr> <td>配膳管理業務委託</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>H29.4~H32.3</td> <td>定額</td> <td>11,558</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>定額</td> <td>174,276</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>定額</td> <td>288,615</td> </tr> <tr> <td>シー・エス・エス施設維持管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>定額</td> <td>138,861</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.9~H30.3</td> <td>定額</td> <td>9,720</td> </tr> <tr> <td colspan="5">合計</td> <td>677,029</td> </tr> </tbody> </table> <p>29年度 委託モニタリング評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">第2期</th> <th colspan="2">第3期</th> </tr> <tr> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>第1期中期</td> <td>第2期中期</td> <td>第3期中期</td> <td>第4期中期</td> </tr> <tr> <td>清潔</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>-1%</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可(延長)</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事(給・心)</td> <td>可</td> <td>-1%</td> <td>-2%</td> <td>-1%</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	連携先	年数	期間	種別	四半額	感染症産業廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	単価	38,174	器具類貸借	3病院	3年	H29.4~H32.3	単価	96,555	消防設備点検業務委託	3病院	3年	H29.4~H32.3	定額	9,483	配膳管理業務委託	心・子	3年	H29.4~H32.3	定額	11,558	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	174,276	放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	288,615	シー・エス・エス施設維持管理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	138,861	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H29.9~H30.3	定額	9,720	合計					677,029	区分	第2期		第3期		第1期	第2期	第1期	第2期	給食	可	可	可	可	区分	第1期中期	第2期中期	第3期中期	第4期中期	清潔	可	可	可	-1%	警備(心・子)	可	可	可(延長)	可	医事(給・心)	可	-1%	-2%	-1%	<p>第1期に続いて、一括化・複数年化に伴う契約方法の見直しや委託モニタリングなどを、全期間を通して継続的に実施できた。</p>
業務名(連携)	連携先	年数	期間	種別	四半額																																																																																																
感染症産業廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	単価	38,174																																																																																																
器具類貸借	3病院	3年	H29.4~H32.3	単価	96,555																																																																																																
消防設備点検業務委託	3病院	3年	H29.4~H32.3	定額	9,483																																																																																																
配膳管理業務委託	心・子	3年	H29.4~H32.3	定額	11,558																																																																																																
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	174,276																																																																																																
放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	288,615																																																																																																
シー・エス・エス施設維持管理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	138,861																																																																																																
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H29.9~H30.3	定額	9,720																																																																																																
合計					677,029																																																																																																
区分	第2期		第3期																																																																																																		
	第1期	第2期	第1期	第2期																																																																																																	
給食	可	可	可	可																																																																																																	
区分	第1期中期	第2期中期	第3期中期	第4期中期																																																																																																	
清潔	可	可	可	-1%																																																																																																	
警備(心・子)	可	可	可(延長)	可																																																																																																	
医事(給・心)	可	-1%	-2%	-1%																																																																																																	
	<p>・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制を整備</p> <p>・経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上</p>		112	<p>・毎月の理事会や病院幹部会において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。</p> <p>・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。</p> <p>・機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。</p>	<p>・理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</p> <p>・月次決算において、費用計上を発生主義から年間平均化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</p> <p>・職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル等)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。</p> <p>・主にH27年度から、上記取り組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</p>	<p>第2期中期目標期間を通じ、月次決算等の経営状況等の各会議への報告や、過去の実績等を踏まえた目標に取組むことにより、中期目標に掲げる効率的な業務運営の実現を図った。</p>																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価																																																															
<p>3 事務部門の専門性の向上 事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。</p>	<p>3 事務部門の専門性の向上 経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用するとともに、専門性の向上に計画的に取り組む。併せて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保に努める。</p>	<p>II 3 事務部門の専門性の向上 ・事務職員の計画的な採用 ・階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等へ事務職員の参加など ・異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進 ・診療情報管理機能の強化</p>	<p>113 ・階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ・職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。</p>	<p>・H29 採用内定者研修、事務職員基礎研修(新規採用職員)、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めている。 職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。 事務職員に対する研修状況</p> <table border="1" data-bbox="375 436 598 929"> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修年度</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新採用</td> <td>新採用職員研修</td> <td>5、6月</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>新採用</td> <td>新採用職員研修</td> <td>5月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>8月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>セクション長昇任時</td> <td>新任管理者・監督者研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>管理者(毎年度)</td> <td>コーチング研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メンタルヘルズ研修</td> <td>11月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フアンレナーション研修</td> <td>12月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td>希望により任意参加</td> <td>会計基礎研修</td> <td>4月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計中級研修</td> <td>9月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未収金回収研修</td> <td>12月</td> <td>半日</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期目標期間(H26~30) 28年度、29年度は事務職員が学会に発表者として参加し、事務職員の能力向上を図った。 また、病院職員としての自覚を促し、病院経営を学ぶため、病院長及び管理・監督職員に、理事長・副理事長から直接講義をする機会を設けた。 人事異動については、職員の人材育成に主眼を置いた人事異動等を実施した。</p>	受講時期	研修年度	研修名	開催状況	新採用	新採用職員研修	5、6月	2日間	新採用	新採用職員研修	5月	1日間	係長級昇任時	新任監督者研修	8月	1日間	セクション長昇任時	新任管理者・監督者研修	9月	1日間	管理者(毎年度)	コーチング研修	9月	1日間		コミュニケーション研修	7月	1日間		メンタルヘルズ研修	11月	1日間		フアンレナーション研修	12月	半日	希望により任意参加	会計基礎研修	4月	半日		会計中級研修	9月	半日		未収金回収研修	12月	半日	<p>業務の基礎部分に対する研修体系は出来たので、引き続き継続をしつつ、必要な研修を取り入れていく。 A</p>																
受講時期	研修年度	研修名	開催状況																																																																		
新採用	新採用職員研修	5、6月	2日間																																																																		
新採用	新採用職員研修	5月	1日間																																																																		
係長級昇任時	新任監督者研修	8月	1日間																																																																		
セクション長昇任時	新任管理者・監督者研修	9月	1日間																																																																		
管理者(毎年度)	コーチング研修	9月	1日間																																																																		
	コミュニケーション研修	7月	1日間																																																																		
	メンタルヘルズ研修	11月	1日間																																																																		
	フアンレナーション研修	12月	半日																																																																		
希望により任意参加	会計基礎研修	4月	半日																																																																		
	会計中級研修	9月	半日																																																																		
	未収金回収研修	12月	半日																																																																		
<p>114 診療情報管理業務に専門的に携わることのできる知識・技能を有する職員を育成する。</p>	<p>診療情報管理業務の取得支援制度を設け、資格者の確保を図っている。 がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。 ・第2期中期目標期間(H26~30)</p>	<p>診療情報管理士資格取得状況 (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="1125 436 1316 929"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>資格取得者</th> <th>研修者</th> <th>資格取得者</th> <th>研修者</th> <th>資格取得者</th> <th>研修者</th> <th>資格取得者</th> <th>研修者</th> <th>資格取得者</th> <th>研修者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>がん</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>18</td> <td>9</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 専門課程研修者：資格取得と研修を受ける者</p>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	総合	3	11	6	13	6	13	5	11	6	13	こども	1	5	2	4	2	4	1	1	1	2	がん	2	1	1	1	1	1	2	3	4	4	計	6	17	9	18	9	18	8	15	11	19	<p>114 診療情報管理業務に専門的に携わることのできる知識・技能を有する職員を育成する。</p>	<p>・H29 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の確保を図っている。 がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。 ・第2期中期目標期間(H26~30)</p> <p>診療情報管理機能の強化をすため、診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増を図り、有資格者を診療情報業務に配置した。 (総合) 診療情報管理業務について一部を外に委託していたが、H28年度より委託から直雇用に切替え、診療情報管理業務の充実を図った。がん登録や症例登録業務の体制を強化した。</p>
区分	25年度			26年度		27年度		28年度		29年度																																																											
	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者	資格取得者	研修者																																																											
総合	3	11	6	13	6	13	5	11	6	13																																																											
こども	1	5	2	4	2	4	1	1	1	2																																																											
がん	2	1	1	1	1	1	2	3	4	4																																																											
計	6	17	9	18	9	18	8	15	11	19																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	第2期(H26~30)自己評価																																																																																																														
<p>4 業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 業務改善に向けて、職員の高め、積極的な参画を促すなど、継続的に業務改善へ取り組み組織風土を醸成すること。</p>	<p>4 業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりを取り組む。</p>	<p>業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化</p>	<p>115</p>	<p>事務部門の業務マニユアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・ H29 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニユアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。 ・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニユアルを公開し、共有化している。 ・第2期中期目標期間(H26~30) ・事務部門における業務項目数に対して、マニユアル整備率を上げている。</p> <table border="1" data-bbox="438 436 614 929"> <caption>マニユアル整備状況 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>239</td> <td>97%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>163</td> <td>151</td> <td>93%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>252</td> <td>221</td> <td>88%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>827</td> <td>94%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="622 582 774 929"> <caption>業務改善運動推進制度実績状況 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> </tr> </tbody> </table>	所属別	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	総合	268	239	97%	268	268	100%	268	268	268	100%	こども	163	151	93%	163	163	100%	163	163	163	100%	本部	252	221	88%	252	252	100%	252	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	196	100%	合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	879	100%	所属別	28年度		29年度		業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	総合	268	268	100%	268	こども	163	163	100%	163	本部	252	252	100%	252	本部	196	196	100%	196	合計	879	879	100%	879	<p>業務項目数に対して、マニユアル整備率を100%としている。また、作成されたマニユアルを公開していることで、マニユアルの共有化が図られている。</p> <p>A</p>
所属別	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度																																																																																																											
	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数																																																																																																										
総合	268	239	97%	268	268	100%	268	268	268	100%																																																																																																										
こども	163	151	93%	163	163	100%	163	163	163	100%																																																																																																										
本部	252	221	88%	252	252	100%	252	252	252	100%																																																																																																										
本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	196	100%																																																																																																										
合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	879	100%																																																																																																										
所属別	28年度		29年度																																																																																																																	
	業務項目数	マニユアル整備数	業務項目数	マニユアル整備数																																																																																																																
総合	268	268	100%	268																																																																																																																
こども	163	163	100%	163																																																																																																																
本部	252	252	100%	252																																																																																																																
本部	196	196	100%	196																																																																																																																
合計	879	879	100%	879																																																																																																																
<p>4 業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 業務改善に向けて、職員の高め、積極的な参画を促すなど、継続的に業務改善へ取り組み組織風土を醸成すること。</p>	<p>4 業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりを取り組む。</p>	<p>業務改善に不断に取り組み組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化</p>	<p>116</p>	<p>院内コミュニケーションシステムを活用するなどとして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備している。</p>	<p>業務の実績</p> <p>・ H29 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を承認できるよう仕組みを整備している。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」、28年度から「業務改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改善運動に連んで取り組むよう促した。</p> <table border="1" data-bbox="1061 436 1228 929"> <caption>業務改善運動推進制度実績状況 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th rowspan="2">前年増減率</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>80</td> <td>186%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>29</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>46</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>71</td> <td>50</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>119%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td>166</td> <td>178</td> <td>107%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		前年増減率	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	総合	39	49	46	43	80	186%	こども	30	12	34	36	29	81%	こども	46	53	54	71	50	70%	本部	15	12	11	16	19	119%	計	130	127	144	166	178	107%	<p>職員による経営・業務改善の提案数は増加傾向にある。 各病院及び本部での呼びかけや、院内コミュニケーションシステムの更新により、当制度が職員に浸透し、意識向上を図っている。</p> <p>A</p>																																																						
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		前年増減率																																																																																																									
	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数																																																																																																											
総合	39	49	46	43	80	186%																																																																																																														
こども	30	12	34	36	29	81%																																																																																																														
こども	46	53	54	71	50	70%																																																																																																														
本部	15	12	11	16	19	119%																																																																																																														
計	130	127	144	166	178	107%																																																																																																														

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠状動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと解釈している。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistant Teamの略で、災害の発生直後(48時間以内)に被災現場へ駆けつけ、救出・救助部門と合同して活動できるトレーニングを受け、機動性を持った災害派遣医療チーム(DMAT:ディーマツト)。
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払い制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFICU	MFICUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室のこと。
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
PCI	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
PET	PETとは、Positron Emission Tomography(ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)の略で、PET検査とは、陽電子(ポジトロン)を放出する放射性核種(ポジトロン核種)で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
PICU	PICUとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。

用語 (50音順)	解 説
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V Iとは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁留置術」と訳されます。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
固定チームナーシング	入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。 「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。 1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。

用語 (50音順)	解 説
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96 (Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す)</p>
コメディカル	<p>薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。</p>
ジェネリック医薬品 (後発医薬品)	<p>特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。</p>
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された者及び緊急入院した救急患者の数が占める割合のことである。</p> $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数} + \text{救急患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数 (同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり) と、初診患者の総数との比較のことである。</p> $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医 (広義, 1-5年目程度) = 研修医 (狭義, =前期研修医, 1-2年目) + 後期研修医 (3-5年目程度) としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とはほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>
新専門医制度	<p>新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。</p> <p>ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。(小児科学会 (小児科専門医) はH29より先行実施)</p>
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会 (日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会) および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>
ダ・ヴィンチ	<p>3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能 (術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない)。</p>

用語（50音順）	解 説
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・他の医療機関からの紹介患者数の比率が80%以上であること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	<p>病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患に限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。</p>
ドクターカー	<p>平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。</p>
認知行動療法	<p>認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。</p>
認定看護師	<p>認定看護師とは、日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。</p>
ハイブリッド手術室	<p>据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
レジデント	<p>初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。</p>